

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

法第四十六條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者アルトキハ其ノ者ニ遺族年金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ期間ハ既ニ支給セラレタル期間ト合算シテ十年ヲ超ユルコトヲ得ズ

△令第二十二條 勞働者年金保險法第四十六條ニ規定スル事由ハ左ノ如シ

- 一 女子タル配偶者ガ婚姻シタルトキ
- 二 遺族ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戸籍ヲ去リタルトキ
- 三 子又ハ孫(被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキ者ヲ除ク)ガ十五歳ニ達シタルトキ
- 四 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受クル男子タル配偶者、子、父、母、孫、祖父又ハ祖母ニ付其ノ事情止ミタルトキ

○則第五十七條 法第四十六條ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ハ遺族年金證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 請求者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名及生年月日

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト請求者トノ續柄

四 前遺族年金受給者ノ氏名

五 前遺族年金受給者ノ遺族年金證書ノ記號及番號(不詳ナルトキハ其ノ旨)

六 前遺族年金受給者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル年月日及其ノ事由
前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 前遺族年金受給者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ死亡ニ關シ市町村長ニ提出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シアル事項ノ市町村長ノ證明書又ハ之ニ代ハルベキ書類

二 請求當時ニ於ケル請求者ノ戸籍ノ謄本

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ者ニ依リ生計ヲ維持シタルコトヲ認メ得ベキ書類

四 請求者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時十五歳以上ノ直系卑屬又ハ六十歳未満ノ直系尊屬ナルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキコトヲ認メ得ベキ書類

五 印鑑票

遺族年金ノ支給ヲ受クベキ先順位者タル者ヨリ前條第二項ノ請求書ノ提出ナキ場合ニ於テ法第四十六條ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ガ遺族年金證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ前條ノ例ニ依ルベシ

前項ノ規定ニ依リ遺族年金證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ニ第一項第四號及第六號ニ掲グル事項ヲ附記シ第二項第一號ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

○則第六條 養老年金又ハ癡疾年金ノ支給ヲ受クル者ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ直チニ養老年金證書又ハ癡疾年金證書(養老年金證書又ハ癡疾年金證書ヲ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事由書)ヲ事業主ニ提出スベシ

事業主ハ前項ノ規定ニ依リ養老年金證書若ハ癡疾年金證書又ハ事由書ノ提出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險院長官ニ提出スベシ此ノ場合ニ於テ其ノ證書又ハ事由書ヲ提出スルコト能ハザルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ保險院長官ニ届出ツベシ

○則第七條 保險院長官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ養老年金證書若ハ癡疾年金證書又ハ事由書ノ提出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ受領證ヲ事業主ニ送付スベシ

事業主ハ前項ノ受領證ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ被保險者ニ交付スベシ
保險院長官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事業主ノ提出シタル養老年金證書又ハ癡疾年金證書ヲ保管スベシ

法第四十七條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一 養老年金又ハ癡疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ癡疾年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シテ

給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又ハ癡疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

△令第十八條 勞働者年金保險法第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條又ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クベキ者ノ順位ハ前項ニ掲グル順位ニ依ル

第十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

△令第十九條 前條第一項ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル順位ニ依リ勞働者年金保險法第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條又ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ支給ス但シ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ遺言又ハ保險院長官ニ對シテ爲シタル預告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フ

一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ家督相續人又ハ戸主

二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ兄弟姉妹ニシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時之ト同一戸籍内ニ在リタルモノ

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者

○則第六十三條 法第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 請求者ノ氏名、生年月日及住所

二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト請求者トノ續柄又ハ關係及請求者ガ令第十九條但書ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ナルトキハ其ノ旨

四 請求者ガ令第十九條各號ニ掲グル者ナルトキハ他ニ同條但書ノ規定ニ依ル遺言ニ依リ指定セラレタル者ナシト認ムル旨、同條第三號ニ掲グル者ナルトキハ自己ノ外ニ之ニ該當スル者ナシト認ムル旨

五 前遺族年金受給者ノ氏名

六 前遺族年金受給者ノ遺族年金證書ノ記號及番號（不詳ナルトキハ其ノ旨）

七 前遺族年金受給者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル年月日及其ノ事由

前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 遺族年金受給者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ死亡ニ關シ市町村長ニ提出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シタル事項ノ市町村長ノ證明書又ハ之ニ代ハルベキ書類

二 請求者ガ届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル配偶者ナルトキハ其ノ事實ヲ認メ得ベキ書類

三 請求者ガ令第十九條第三號ノ規定ニ該當スル者ナルトキハ其ノ事實ヲ認メ得ベキ書類

四 請求者ガ令第十九條但書ノ規定ニ依ル遺言ニ依リ指定セラレタル者ナルトキハ其ノ遺言書ノ寫

○則第六十四條 第三十四條乃至第三十八條及第四十條乃至第四十三條ノ規定ハ遺族年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

○則第六十五條 第四十四條及第四十五條ノ規定ハ法第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第五節 脱退手當金

法第四十八條 被保險者タリシ期間三年以上二十年未滿ナル者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年ヲ經過シタルトキハ脱退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ癱疾手當金ノ支給ヲ受クルトキハ一年ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ拘ラズ現ニ被保險者タル者ニ對シテハ脱退手當金ハ之ヲ支給セズ

第一項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

○則第六十六條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタル場合ニ於ケル脱退手當金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 請求者ノ氏名、生年月日及住所

年金法（脱退手當金）

- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日
- 三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ被保險者臺帳ノ記號及番號（不詳ナルトキハ其ノ旨）
- 四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ最後ニ被保險者トシテ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地（不詳ノ事項アルトキハ其ノ旨）
- 五 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト請求者トノ續柄
- 六 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ法第七十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ該當スル者ナルトキハ其ノ旨

前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡ニ關シ市町村長ニ提出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シアル事項ノ市町村長ノ證明書又ハ之ニ代ハルベキ書類
- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡ニ因ル相續關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍謄本又ハ除カレタル戶籍ノ謄本

○則第六十七條 被保險者タリシ者ハ脫退手當金ノ支給ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名、生年月日及住所
- 二 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 三 最後ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル年月日
- 四 最後ニ被保險者トシテ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地

五 第四十八條第一項ノ規定ニ依ル請求ヲ爲シタル者ニ在リテハ其ノ旨

六 法第七十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ旨

前項第六號ニ掲グル事項ヲ記載シタル者ニ在リテハ前項ノ請求書ニ其ノ者ノ生年月日ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戶籍ノ抄本ヲ添付スベシ

法第四十九條 脫退手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ被保險者タリシ期間ニ依リ別表ニ定ムル日數ヲ乗ジテ得タル金額トス但シ癡疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ癡疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

法第五十條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脫退手當金ヲ支給セズ

法第五十一條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十一條ノ規定ニ依リ癡疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癡疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脫退手當金ノ額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

○則第六十八條 法第五十一條ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所
- 二 癡疾年金證書ノ記號及番號
- 三 第五十二條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル年月日

年金法（脫退手當金）

第六節 保險給付ノ制限

法第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ廢疾年金、廢疾手當金又ハ遺族年金ヲ支給セズ

第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者、被保險者タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給セズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ス

法第五十三條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ重大ナル過失ニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ廢疾年金又ハ廢疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

法第五十四條 廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シテハ廢疾年金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

法第五十五條 養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第七節 福祉施設

法第五十六條 政府ハ被保險者、被保險者タリシ者又ハ保險給付ヲ受クル者ノ福祉ヲ増進スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

法第五十七條 國庫ハ保險給付ニ要スル費用ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ坑内夫タル被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ一ヲ負擔ス
國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ勞働者年金保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

法第五十八條 政府ハ勞働者年金保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第二十三條 國庫ハ保險給付ノ計算ノ基礎ト爲リタル被保險者タリシ期間ノ全部ガ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ於テ常時坑内作業ニ従業スル被保險者トシテ使用セラレタル期間(以下坑内夫タル被保險者タリシ期間ト稱ス)ナルトキハ其ノ給付ニ要スル費用ノ十分ノ二ヲ其ノ期間ノ全部ガ其ノ他ノ被保險者タリシ期間ナルトキハ其ノ給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ、其ノ期間ノ一部ガ坑内夫タル被保險者タリシ期間ナルトキハ其ノ給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ノ外坑内夫タル被保險者タリシ期間ノ平均標準報酬年額ニ其ノ期間ニ付勞働者年金保險法

年金法(保險料)

第二十五條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ノ月數ヲ乗ジタル額ノ其ノ額ト其ノ他ノ被保險者タリシ期間ノ平均標準報酬年額ニ其ノ期間ノ月數ヲ乗ジタル額トノ合算額ニ對スル割合ヲ其ノ給付ニ要スル費用ニ乗ジテ得タル額ノ十分ノ一ヲ負擔ス

△令第二十四條 保險料額ハ各月ニ付勞働者年金保險法第二十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ計算シタル被保險者タリシ期間一月ナルトキハ被保險者ノ標準報酬月額ニ保險料率ヲ乗ジテ得タル額トシ半月ナルトキハ被保險者ノ標準報酬月額ニ保險料率ヲ乗ジテ得タル額ノ半額トス保險料率ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セラルル被保險者ニシテ常時坑内作業ニ従事スルモノ(以下坑内夫タル被保險者ト稱ス)ニ關スルモノト其ノ他ノ被保險者ニ關スルモノト各別ニ厚生大臣之ヲ定ム

● 勞働者年金保險ノ保險料率指定 (昭和十七年四月十五日 厚生省告示第百六十三號)

一、鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セラルル被保險者ニシテ常時坑内作業ニ従事スルモノニ付テハ其ノ標準報酬月額十圓ニ付八十錢ノ割
二、前號以外ノ被保險者ニ付テハ其ノ標準報酬月額十圓ニ付六十四錢ノ割
△令第二十五條 任意繼續被保險者ト爲リタル者ニ關スル其ノ月ノ保險料額ハ其ノ被保險者ト爲リタル日前ノ保險料額ト其ノ被保險者ト爲リタル日以後ノ保險料額トニ付各別ニ前條第一項ノ例ニ依リ之ヲ算定ス
前項ノ規定ハ坑内夫タル被保險者ニシテ其ノ他ノ被保險者ト爲リタルモノ又ハ其ノ他ノ被保險

者ニシテ坑内夫タル被保險者ト爲リタルモノニ關スル其ノ月ノ保險料額ノ算定ニ之ヲ準用ス

法第五十九條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

法第六十條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

法第六十一條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

△令第二十六條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スベキ前月分ノ保險料ヲ報酬ヨリ控除スルコトヲ得
事業主ハ被保險者ガ其ノ事業ニ使用セラレザルニ至リタルトキニ限り前項ノ規定ニ拘ラズ報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者ノ負擔スベキ前月分及其ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

△令第二十七條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請求ニ應ジテ閱覽セシムベシ

○則第七十三條 令第二十七條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ事業所毎ニ之ヲ備フベシ

- 一 被保險者ノ氏名
- 二 控除シタル保險料ノ金額
- 三 控除シタル年月日

年金法(保險料)

△令第二十八條 毎月ノ保険料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スベシ但シ任意繼續被保險者ノ納付スベキ保険料ニ付テハ厚生大臣ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ保険料納入ノ告知ヲ爲シタル後ニ於テ告知シタル保険料額ガ當該納付義務者ノ納付スベキ保険料額ヲ超過スルコトヲ知リタルトキハ其ノ超過部分ニ對スル納入ノ告知ハ其ノ告知ヲ爲シタル後六月以内ノ期日ニ於テ納付セラルベキ保険料ニ對シ納期ヲ繰上ゲ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納期ヲ繰上ゲ納入ノ告知ヲ爲シタルモノト看做シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ當該納付義務者ニ通知スベシ

○則第七十四條 任意繼續被保險者ハ毎月ノ保険料ヲ其ノ月十日迄ニ納付スベシ

△令第二十九條 保険料納付義務者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ納期前ト雖モ保険料ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 被保險者ノ使用セラルル工場、事業場又ハ事業ヲ廢止シタルトキ
- 三 強制執行ヲ受クルトキ
- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 競賣ノ開始アリタルトキ
- 六 法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

● 事業主ニ於テ控除スベキ被保險者ノ負擔スル保險料ニ關スル件

健康保險法施行令第九十八條(勞働者年金保險法施行令第二十六條第一項)ノ規定ニ依リ事業主ガ報酬ヨリ控除スルコトヲ得ベキ被保險者ノ負擔スル保險料ハ前月分ノ保險料(健康保險法施行令第一百條ノ規定ニ依リ組合ニ於テ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ規定シタル期間ノ保險料)ニ限ル義ニ有之而シテ特殊ノ事情ニ依リ控除セザリシ保險料ニ付テハ事業主ハ別途ノ方法ニ依リテ被保險者ニ對シ求償スベキモノニ有之

(昭和二年二月五日
社會局保險部長通牒)

● 營業稅ノ課稅標準ヨリ健康保險料控除方ニ關スル件依命通牒

健康保險ノ事業主ノ負擔スル保險料ハ健康保險法第七十二條乃至第七十五條(勞働者年金保險法第五十九條)ノ規定ニ依リ公法上ノ義務トシテ當然支出スベキモノナルヲ以テ營業稅ニ關シ利益ヲ課稅標準トシテ賦課スルモノニ付テハ營業上ノ必要經費トシテ課稅標準中ヨリ之ヲ控除スルコトニ御取計相成度

追テ戸數割ニ關シテモ地方稅ニ關スル法律施行規則第二十一條所定ノ經費トシテ本文同様取扱ハシメラレ度

(昭和二年十二月二十六日內務省
地方局長及大縣省主稅局長通牒)

問 當組合被保險者ニシテ一ヶ月以上歸郷シ最早歸社ノ見込ナキモノヲ事業主ニ於テ本月

(一月二十五日)ニ至リ資格喪失ヲ届出タルモノ一月一日以降届出(資格喪失)ノ日迄ノ保險料ニ對シテ被保險者ニ屬スル工賃其ノ他給與金皆無ナル場合ハ法第七十七條(勞働者年金保險法第六十條)ニ依リ事業主ノ負擔ト可相成哉

前項ノ場合ニ於テ被保險者ニ支拂フベキ工賃其ノ他ノ給與金僅少ニシテ賄費物品代ヲ控除

年金法(保險料)

スルトキハ保險料ヲ控除スルコト能ハザル場合ニ保險料ハ他ノ控除金ニ優先スベキヤ
 答 事業主ハ被保險者ニ支拂フベキ爲保險料ヲ控除シ能ハザル場合ト雖モ被保險者ノ負擔ス
 ル保險料ハ之ヲ保險者ニ納付スル義務アルモノトス被保險者ニ對シ報酬ヲ支拂フモ保險料
 ヲ控除シ得ザル場合亦同ジ、被保險者ニ對シ支拂フ報酬ヨリ保險料ヲ控除スル場合ニ於テ
 他ノ控除者ニ先チテ之ヲ爲スヤ否ヤハ一ニ其ノ事業主ノ任意トス (昭和二年二月十八日
 社會局保險部長通牒)

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟

法第六十二條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ中央社會保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決
 定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得
 前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

法第六十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十一條ノ規定ニ依ル
 處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

法第六十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタル
 トキハ主務大臣ハ中央社會保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

法第六十五條 本法ニ規定スルモノノ外中央社會保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之
 ヲ定ム

法第六十六條 審査ノ請求、訴ヲ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交
 付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八

條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五百十八條第二項及第五百十九條ノ規定ヲ
 準用ス

第六章 罰則

法第六十七條 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ
 虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法第六十八條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ若ハ文書ノ提
 示ヲ爲サズ又ハ其ノ他必要ナル事務ヲ行ハザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

〇則第七十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 第四條又ハ第十五條ノ規定ニ依ル申出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ申出ヲ爲シタル者

二 第五條ノ規定ニ依ル申請書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
 三 正當ノ理由ナクシテ第六條第一項ノ規定ニ依ル養老年金證書又ハ廢疾年金證書ノ提出ヲ爲
 サザル者

四 第十四條、第二十條、第五十二條第一項又ハ第六十一條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又
 ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

法第六十九條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關
 シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ
 得ズ

法第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

法第七十一條 本法施行ノ期日ハ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定並ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第三十條 本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ勞働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○則第七十九條 本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十八條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十四條及第八十一條乃至第一百條ノ規定ハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

法第七十二條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セララルル事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ現ニ使用セララルル工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セララルル者ニシテ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間二十年未満ニシテ五十歳（鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララルル者ニ在リテハ四十五歳）ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳（鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララルル者ニ在リテハ四十五歳）ヲ超エタル者ニシテ同日ニ於テ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間六年以上三年未満ニシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ規定ニ依リ計算シタル期間六月未満（第一項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ一年未満）ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セララルル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

△令第三十一條 勞働者年金保險法第七十二條第一項ノ規定ニ該當スル者ガ同法同條同項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ被保險者タリシ期間一年以上ナリシトキハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年ヲ經過シタル場合ニ非ザルトキト雖モ脱退手當金ヲ支給ス此ノ場合ニ於テ脱退手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均標準報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ別表第三ニ定ムル月數ヲ乘ジテ得タル金額トス但シ癡疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スル額ハ癡疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均標準報酬月額ノ十五分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

勞働者年金保險法第七十二條第二項ノ規定ニ該當スル者ガ同法同條同項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ被保險者タリシ全期間ノ平均標準報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ別表第四ニ定ムル日數

ヲ乘ジテ得タル額ノ脱退手當金ヲ支給ス

○則第八十一條

法第七十二條第一項ノ規定ニ該當スル者ヲ使用スル事業主ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ昭和十七年六月一日ヨリ十日以内ニ保險院長官ニ提出スベシ

一 法第七十二條第一項ノ規定ニ該當スル被保險者ノ氏名及生年月日

二 被保險者臺帳ノ記號及番號

三 被保險者ガ昭和十七年六月一日ニ於テ現ニ使用セラルル事業主ノ工場、事業場若ハ事業又

ハ現ニ使用セラルル工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ使用セラレタル期間

事業主ハ前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ被保險者ニ告知スベシ

● 労働者年金保險法第七十二條第一項ノ規定中「引續キ五年以上使用セラレタル者」トアルハ必ズシモ同法ノ全部實施ノ日迄引續キ五年以上健康保險法第十三條ノ規定ニ依ル強制

被保險者タリシ者ナルコトヲ要セザル義ニ有之從ツテ昭和十六年三月十日法律第五十九號

ニ依ル健康保險法ノ改正ニ依リ新ニ健康保險ノ強制被保險者ト爲リタル者ト雖モ其ノ者ガ

労働者年金保險法ノ全部實施ノ日ニ於テ現ニ使用セラルル事業主ノ事業所又ハ現ニ使用セ

ラルル事業所ニ同日迄引續キ法第十六條ノ規定ニ依ル強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有ス

ルモノトシテ五年以上使用セラレタル者ナルトキハ法第七十二條第一項ノ適用ヲ受クルコ

トヲ得ルモノニ有之候條了知相成度(昭和十七年三月二十日 保險院事務局長通牒)

法第七十三條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ被保險者タリシ期間ハ第二

十四條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ニ之ヲ算入セズ

法第七十四條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ勅令ヲ以テ定ムル共濟組合ノ

組合員タル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

△令第三十二條 労働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ事業主

及労働者ノ出捐スル共濟組合ニシテ厚生大臣ノ指定シタルモノノ組合員タル被保險者ガ事業主

ノ同意ヲ得テ同日ヨリ一月以内ニ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲ストキハ被保險者ノ資格

ヲ取得シタル日ニ遡リテ被保險者タラザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル共濟組合ハ左ノ要件ヲ具フルモノニ限ル

一 被保險者タル組合員ニ對スル其ノ組合ノ給付ノ種類及程度ガ保險給付ノ種類及程度ニ略同

シナルコト

二 被保險者タル組合員ニ對スル其ノ組合ノ給付ノ中保險給付ニ相當スル給付ニ要スル費用ニ

關スル出捐年額ガ其ノ者ヲ被保險者トシタル場合ニ於ケル其ノ者ニ關スル労働者年金保險ノ

保險料年額ニ相當スル金額以上ニシテ事業主ガ其ノ出捐年額ノ二分ノ一以上ヲ負擔スルモノ

ナルコト

● 昭和十七年六月一日左ノ共濟組合ヲ労働者年金保險法施行令第三十二條ノ規定ニ依リ指

定セリ(昭和十七年六月二十五日 厚生省告示第四〇二號)

東京市電氣局共濟組合

大阪市電氣局共濟組合

年金法(附則)

神戸市電氣局共済組合

名古屋市電氣局共済組合

大阪市共済組合

日本製鐵八幡共済組合

○則第八十二條

令第三十二條ノ規定ニ依リ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲サントスル者ハ

左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

一 申請者ノ氏名、生年月日及住所

二 申請者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所

三 申請者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地

四 共済組合ノ名稱及所在地

△令第三十三條

強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者ニシテ前條第一項ノ規定ニ依リ被保險者タラザラモノガ同條同項ニ規定スル共済組合ノ組合員タラザラニ至リタルトキハ爾後被保險者トス

法第七十五條

保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金契約ノ年金受取人タル者ニ關シテハ其ノ契約ガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ本法及郵便年金法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

△令第三十四條

労働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人タル強制被保險者ガ年金契約者ノ同

意ヲ得テ同日ヨリ三月以内ニ申請ヲ爲ストキハ同日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル日ニ於テ其ノ間ニ於ケル平均標準報酬年額ヲ改定ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 當該年金契約ノ年金受取人ガ同日ヨリ三年以内ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキ

二 當該年金契約ガ效力ヲ失フニ至リタルトキ

三 第一號ノ期間内ニ當該年金契約ガ年金支拂開始期ニ達シタルトキ

△令第三十五條

前條ノ規定ニ依リ平均標準報酬年額ヲ改定スル場合ニ於テハ同條ニ規定スル年金契約ニ關シ労働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ拂込マレタル掛金ニ命令ヲ以テ定ムル計算ニ依ル年三分三毛六絲ノ利子ヲ附シタル金額ト同日以後ニ拂込マレタル掛金トノ合計額(年金契約ニ基キテ爲シタル貸付ニ付政府ガ辨濟ヲ受クベキ金額アルトキハ其ノ金額ヲ控除シタル殘額以下同ジ)ヲ同條ニ規定スル三年ニ對スル労働者年金保險ノ積立金率ヲ以テ除シテ得タル額ト同期間ニ於ケル平均標準報酬年額トヲ合算シテ計算ス但シ其ノ額ガ千八百圓ヲ超ユルトキハ之ヲ千八百圓トス

前項但書ノ場合ニ於テ前條ニ規定スル三年間ニ於ケル從前ノ平均標準報酬年額ト千八百圓トノ差額ニ其ノ三年ニ對スル労働者年金保險ノ積立金率ヲ乘ジテ得タル金額ト前項ニ規定スル労働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ拂込マレタル掛金ニ命令ヲ以テ定ムル計算ニ依ル年三分三毛六絲ノ利子ヲ附シタル金額ト同日以後ニ拂込マレタル掛金トノ合計額トノ差額ハ之ヲ返還金受取人ニ支拂フ

△令第三十六條

第三十四條ノ申請ヲ爲シタル者ニ關スル年金契約ハ平均標準報酬年額ノ改定ヲ

年金法(團體年金)

八一

爲シタル日ヨリ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ失フ

△令第三十七條 勞働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人タル被保險者ハ事業主ノ同意ヲ得テ同日ヨリ一月以内ニ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲ストキハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル日ニ遡リテ被保險者タラザラントコトヲ得

△令第三十八條 前條ノ申請ヲ爲スニハ同條ニ規定スル年金受取人ニ關スル年金契約ガ左ノ要件ヲ具フルモノナルコトヲ要ス

一 當該年金受取人ヲ被保險者トシタル場合ニ於ケル其ノ者ニ關スル勞働者年金保險ノ保險料年額ノ半額ニ相當スル金額以上ノ掛金ヲ毎半年ニ掛込ムモノナルコト

二 當該年金受取人ヲ使用スル事業主ガ前號ニ規定スル毎半年ノ掛金ニ付當該年金受取人ヲ被保險者トシタル場合ニ於ケル其ノ者ニ關スル勞働者年金保險ノ保險料年額ノ二分ノ一以上ニ相當スル金額ヲ負擔スルモノナルコト

三 當該年金受取人ヲ以テ返還金受取人ト爲スモノナルコト

△令第三十九條 第三十七條ノ規定ニ依リ被保險者タラザラル者ガ現ニ使用セラルル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラレザルニ至リタル後更ニ勞働者年金保險法第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ニ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ使用セラルルニ至リタルトキハ爾後被保險者トス但シ事業主ノ同意ヲ得テ其ノ使用セラルルニ至リタル日ヨリ十五日以内ニ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ繼續シテ被保險者タラザラントコトヲ得

第三十八條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

△令第四十條 強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者ニシテ第三十七條又ハ前條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザラルモノニ關スル年金契約ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ者ハ爾後被保險者トス

一 當該年金契約ニ付年金契約者ガ第三十八條ニ規定スル掛金ヲ拂込マズシテ命令ノ定ムル期間ヲ經過シタルトキ

二 當該年金契約ガ解除セラレタルトキ

三 當該年金契約ガ年金支拂開始期ニ達シタルトキ

前項第三號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者ニシテ五十歳未満ノモノハ第十條第二號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ五十歳ヲ超エタル者ト看做ス

△令第四十一條 第三十九條第一項又ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者年金契約者ノ同意ヲ得テ被保險者ト爲リタル日ヨリ三月以内ニ申請ヲ爲ストキハ第三十七條ノ規定ニ依リ被保險者タラザラルニ至リタル日ヨリ第三十九條第一項又ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ノ前日迄ニ於テ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ勞働者年金保險法第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラレタル期間ハ其ノ期間ニ付同法第二十四條ノ規定ニ依ル計算ヲ爲シタル上之ヲ同法同條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト看做ス前項ノ規定ニ拘ラズ第四十二條第一項但書前段ノ場合ニ於テハ第三十九條第一項又ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ニ於テ年金受取人ノ爲ニ積立テタル金額(年金契

約ニ基キテ爲シタル貸付ニ付政府ガ辨濟ヲ受クベキ金額アルトキハ其ノ金額ヲ控除シタル殘額以下同ジ)ヲ百二十圓ヲ以テ除シテ得タル數ヲ保險給付ニ要スル費用總額ニ對スル積立金率(以下積立金率ト稱ス)ト看做シ其ノ積立金率ニ對スル期間ヲ以テ勞働者年金保險法第二十四條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト看做ス

△令第四十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ被保險者タリシ期間ト看做シタル期間ニ於ケル平均標準報酬年額ハ第三十九條第一項又ハ第四十條第一項第一號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ニ於テ年金受取人ノ爲ニ積立テタル金額ヲ前條第一項ノ規定ニ依リ被保險者タリシ期間ト看做シタル期間ニ對スル積立金率ヲ以テ除シテ得タル額トス但シ此ノ場合ニ於テ其ノ平均標準報酬年額ガ百二十圓ニ滿ザルトキハ之ヲ百二十圓トシ其ノ平均標準報酬年額ガ千八百圓ヲ超ユルトキハ之ヲ千八百圓トス

前項但書後段ノ場合ニ於テハ千八百圓ニ前條第一項ノ規定ニ依リ被保險者タリシ期間ト看做シタル期間ニ對スル積立金率ヲ乘ジテ得タル金額ト當該年金契約ノ年金受取人ノ爲ニ積立テタル金額トノ差額ハ之ヲ返還金受取人ニ支拂フ

△令第四十三條 第四十一條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ニ關スル年金契約ハ其ノ者ガ第三十九條第一項又ハ第四十條第一項第一號ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ失フ

△令第四十四條 第三十四條乃至前條ノ規定ハ勞働者年金保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人タル者

ニシテ同日ニ於テ同法第十六條但書ノ規定ニ該當スルニ因リ強制被保險者ト爲ラザルモノガ同日後ニ於テ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

△令第四十五條 郵便年金令第十四條ノ規定ニ依ル掛金ノ割引ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ同令同條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人ノ數ガ同令同條第一項ニ規定スル割合又ハ人數ヲ下リタル場合ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

一 郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人ガ被保險者ト爲リタル場合ニ於テ當該年金契約ガ同令同條ノ規定ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキ

二 郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人ニシテ被保險者タルモノ又ハ第三十七條若ハ第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザルモノガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル年金契約ノ年金受取人タラザルニ至リタルトキ

●團體郵便年金契約ノ年金受取人タル勞働者年金保險被保險者ノ取扱ニ關スル件

團體郵便年金ハ任意年金トシテ勞働者年金保險トハ又別個ニ獨自ノ長所ヲ有スルモノナルヲ以テ團體郵便年金契約ノ年金受取人ニシテ勞働者年金保險ノ被保險者ト爲リタル者ト雖モ引續キ團體郵便年金契約ヲ繼續スルハ最モ望マシキ義ニ有之從ツテ團體郵便年金契約ノ年金受取人ニシテ勞働者年金保險ノ被保險者ト爲リタル者ニ關シテハ資力ニ餘裕アル者ハ勿論其ノ他ノ者ニ在リテモ能フ限リ勞働者年金保險ノ被保險者タルト共ニ當該團體郵便年金契約ヲ繼續セシムル様指導相成度但シ勞働者年金保險ノ保險料ト當該團體郵便年金契約ノ掛金トノ双方ノ負擔ニ耐エザル場合ニ於テハ令第三十四條又ハ令第三十七條ノ何レノ申

請ヲ爲スモ任意トシ尙其ノ選擇ニ迷フ向ニ對シテハ左記ニ依リ指導相成度

記

- 一、被保險者ガ勞働者年金保險ニ於テ養老年金ヲ受ケ得ル見込アル場合等ニシテ被保險者タルコトガ其ノ者ニトリ利益ナリト思料セラルトキハ令第三十四條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サシムルコト
 - 二、被保險者ガ年齡其ノ他ノ關係上勞働者年金保險ノ被保險者ト爲ルモ勞働者年金保險ニ於テ養老年金ヲ受ケ得ル見込極メテ乏シクシテ寧ロ當該團體郵便年金契約ヲ繼續セシムルヲ其ノ者ノ利益ト思料セラルル場合ニ於テハ令第三十七條ノ規定ニ依リ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲サシムルコト
- 尙本法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ團體郵便年金契約ノ年金受取人ト爲リタル被保險者ハ令第三十四條及第三十七條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シ得ルモノニ有之爲念(昭和十七年三月二十六日 保險院總務局長通牒)
- 則第八十三條 令第三十四條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書(正副二通)ヲ保險院長官ニ提出スベシ
- 一 申請者ノ氏名、生年月日及住所
 - 二 申請者ノ被保險者臺帳ノ記號及番號(記番號通知票ノ交付ヲ受ケザル者ニ在リテハ其ノ旨)
 - 三 申請者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所
 - 四 申請者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地

- 五 申請者ガ前號ノ事業所ニ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ使用セラルルニ至リタル年月日
 - 六 郵便年金證書ノ記號番號
 - 七 年金契約者ノ氏名
 - 八 年金契約ノ效力發生ノ年月日
 - 九 團體郵便年金ノ記號番號
 - 十 團體郵便年金組合ノ名稱及所在地
 - 十一 團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ氏名前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 - 一 年金契約者ノ同意書
 - 二 當該年金契約ガ昭和十七年六月一日現在ニ於テ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クルモノナルコトノ團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ證明書
- 則第八十四條 令第三十五條第一項ノ規定ニ依ル利息ノ計算ハ各回ノ掛金ニ付其ノ拂込ノ月ノ翌月ヨリ起算シ昭和十七年六月一日ヨリ三年ヲ經過シタル日ノ屬スル月迄ノ期間ニ對シ複利計算ニ依リ之ヲ爲スモノトス
- 則第八十五條 令第三十四條ノ規定ニ依リ平均標準報酬年額ヲ改定シタルトキハ保險院長官ハ其ノ旨ヲ第八十三條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ通知ス
- 第八十三條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便局ニ通知書ヲ提

年金法(團體年金)

示スルト共ニ郵便年金證書及郵便年金通帳ヲ提出シ其ノ受領證ヲ受取ルベシ

○則第八十六條 令第三十五條第二項ノ規定ニ依ル差額アルトキハ保險院簡易保險局長ハ返還金支拂通知書ヲ返還金受取人ニ送付ス

返還金受取人前項ノ通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ記名捺印シ郵便年金證書及郵便年金通帳ノ受領證ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ之ヲ提出シ返還金ノ拂渡ヲ受クベシ

○則第八十七條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 申請者ノ被保險者臺帳ノ記號及番號(記番號通知票ノ交付ヲ受ケザル者ニ在リテハ其ノ旨)
- 三 申請者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所
- 四 申請者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地
- 五 申請者ガ前號ノ事業所ニ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ使用セラルルニ至リタル年月日
- 六 郵便年金證書ノ記號番號
- 七 年金契約者ノ氏名
- 八 年金契約ノ效力發生ノ年月日
- 九 年金契約ニ對スル毎半年ノ豫定掛金額

十 前號ノ豫定掛金額中事業主ノ負擔スル豫定額

十一 健康保險ノ標準報酬ノ等級

十二 坑内夫ナルトキハ其ノ旨

十三 團體郵便年金ノ記號番號

十四 團體郵便年金組合ノ名稱及所在地

十五 團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ氏名

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 事業主ノ同意書

二 左ニ掲グル事項ニ關スル團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ證明書

(イ) 申請者ガ現ニ組合員タルコト

(ロ) 當該年金契約ガ昭和十七年六月一日現在ニ於テ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クルモノナルコト

○則第八十八條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル者ハ

前條第一項第一號、第三號、第四號、第七號又ハ第十一號乃至第十五號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 氏名、生年月日及住所

二 郵便年金證書ノ記號番號

三 變更前ノ事項及變更後ノ事項並ニ變更ノ年月日

年金法(團體年金)

○則第八十九條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル者ハ事業主、年金契約者又ハ團體郵便年金組合ノ組合代表者ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 届出者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 届出者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地
- 三 郵便年金證書ノ記號番號
- 四 變更前ノ事業主、年金契約者又ハ團體郵便年金組合ノ組合代表者及變更後ノ事業主、年金契約者又ハ團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ氏名竝ニ變更ノ年月日

○則第九十條 令第四十條第一項第一號ノ規定ニ依ル期間ハ一月一日ヨリ六月末日迄ニ拂込ムベキ掛金ニ付テハ一月一日ヨリ七月末日迄、七月一日ヨリ十二月末日迄ニ拂込ムベキ掛金ニ付テハ七月一日ヨリ翌年一月末日迄ノ期間トス

○則第九十一條 團體郵便年金組合ノ組合代表者ハ令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル年金受取人ニ關スル年金契約ニ付團體郵便年金規則第十二條ノ規定ニ依リ掛金ノ拂込ヲ爲サントスルトキハ團體年金掛金内譯書、團體年金掛金報知書及團體年金掛金通知書ノ備考欄ニ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 健康保險ノ標準報酬ノ等級
- 二 坑内夫ナルトキハ其ノ旨
- 三 事業主ノ掛金負擔額

○則第九十二條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル者ハ令第四十條第一項各號ノ一ニ當該スルニ至リタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ事業主ニ申出ヅベシ

○則第九十三條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル者ガ令第四十條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ

- 一 事業主ノ氏名及住所
 - 二 事業所ノ名稱及所在地
 - 三 令第四十條第一項ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ所得シタル者ノ氏名及生年月日
 - 四 令第四十條第一項各號ノ何レニ該當スルヤノ別及該當スルニ至リタル年月日
 - 五 健康保險ノ標準報酬ノ等級
 - 六 坑内夫ナルトキハ其ノ旨
 - 七 郵便年金證書ノ記號番號
 - 八 團體郵便年金ノ記號番號
- 事業主ハ前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ第三條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ第一項ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ届出ハ第七十六條第一項ノ規定ニ依リ事業主ノ選任シタル代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

○則第九十四條 令第三十七條又ハ令第三十九條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タラザル者ハ

強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者タラザルニ至リタルトキハ遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 届出者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 届出者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地（其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタルニ因リ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者タラザルニ至リタル者ニ在リテハ最後ニ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地）
- 三 前號ノ事業所ノ事業主ノ氏名及住所
- 四 強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者タラザルニ至リタル年月日及其ノ事由
- 五 郵便年金證書ノ記號番號
- 六 團體郵便年金ノ記號番號

○則第九十五條 令第四十一條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書（正副二通）ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 申請者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所
- 三 申請者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地
- 四 令第三十九條第一項又ハ令第四十條第一項第一號ノ規定ニ該當スルニ至リタル年月日
- 五 郵便年金證書ノ記號番號
- 六 年金契約者ノ氏名

七 團體郵便年金ノ記號番號

八 團體郵便年金組合ノ名稱及所在地

九 團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ氏名

前項ノ申請書ニハ年金契約者ノ同意書ヲ添付スベシ
第一項ノ申請書ヲ提出シタル者ハ其ノ申請書ノ寫ト共ニ郵便年金證書及郵便年金通帳ヲ郵便局ニ提出シ其ノ受領證ヲ受取ルベシ

○則第九十六條 令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル差額アルトキハ保險院簡易保險局長ハ返還金支拂通知書ヲ返還金受取人ニ送付ス

返還金受取人前項ノ通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ記名捺印シ郵便年金證書及郵便年金通帳ノ受領證ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ之ヲ提出シ返還金ノ拂渡ヲ受クベシ

○則第九十七條 第八十三條、第八十七條又ハ第九十五條ノ規定ニ依ル申請書ニ事業主若ハ年金契約者ノ同意書又ハ團體郵便年金組合ノ組合代表者ノ證明書ヲ添付スベキ場合ニ於テ其ノ申請書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ同意書又ハ證明書ノ添付ヲ省略スルコトヲ得

○則第九十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第八十八條、第八十九條又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 第九十一條ノ規定ニ依ル記載ヲ怠リ又ハ其ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 三 第九十二條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

○則第九十九條 第八十三條乃至前條ノ規定ハ令第四十四條ノ規定ニ該當スル者ガ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

○則第一百條 郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル郵便年金契約ノ年金受取人ガ被保險者ト爲リタル場合ニ於テ團體郵便年金中ヨリ脱退シタルトキ又ハ同令同條ノ規定ノ適用ヲ受クル郵便年金契約ノ年金受取人ニシテ被保險者タルモノガ團體郵便年金中ヨリ脱退シタルトキハ團體郵便年金組合ノ組合代表者ハ團體郵便年金規別第十五條ノ規定ニ依ル團體郵便年金脱退通知書ノ備考欄ニ其ノ年金受取人ガ被保險者ナル旨ヲ記載スベシ

別表 (法第四十九條)

被保險者タリシ期間	日 數	被保險者タリシ期間	日 數
三年以上	四十日	八年以上	百五日
四年以上	五十日	九年以上	百二十日
五年以上	六十日	十年以上	百三十五日
六年以上	七十五日	十一年以上	百五十日
七年以上	九十日	十二年以上	百六十五日

十三年以上	百八十日	十七年以上	二百六十日
十四年以上	二百日	十八年以上	二百八十日
十五年以上	二百二十日	十九年以上	三百日
十六年以上	二百四十日		

別表 第一 (施行令第二十一條)

番 號	癱疾年金ヲ支給スベキ程度ノ癱疾ノ状態
一	兩眼ノ視力○・一以下ニ減ジタルモノ又ハ一眼失明シ他眼ノ視力○・三以下ニ減ジタルモノ
二	咀嚼若ハ言語ノ機能ヲ癱シタルモノ又ハ咀嚼若ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
三	兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
四	背柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ
五	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ十指ヲ失ヒタルモノ
六	一上肢ノ三大關節ノ中二關節以上ノ用ヲ癱シタルモノ又ハ十指ノ用ヲ癱シタルモノ

年金法 (別表)

七	モノ 一 下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ十趾ヲ失ヒタルモノ 一 下肢ノ三大關節ノ中ニ關節以上ノ用ヲ廢シタルモノ
八	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ
九	精神又ハ神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ
十	以上各號ニ該當セザルモノト雖モ疾病又ハ負傷ニ因リ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ
十一	

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以下ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節（拇指ニ在リテハ指關節）ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節（第一趾ニ在リテハ趾關節）ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ

別表 第二（施行令第二十一條）
ノヲ謂フ

番號	癱疾手當金ヲ支給スベキ程度ノ癱疾ノ狀態
一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ又ハ一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ
二	兩眼ニ半盲症、視野狹窄若ハ視野變狀ヲ殘スモノ又ハ兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ
三	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
四	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
五	兩耳ノ聽力四十糧以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ又ハ二耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
六	頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
七	一手ノ一指以上ヲ失ヒタルモノ（中指、環指又ハ小指ノミヲ失ヒタルモノヲ除ク）又ハ一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ若ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ
八	一 上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ

年金法（別表）

十四年以上	二百六十	二百七十	二百八十	二百九十	三百
十五年以上	二百八十	二百九十	三百	三百十	三百二十
十六年以上	三百	三百十	三百二十	三百三十	三百四十五
十七年以上	三百二十	三百三十	三百四十	三百五十五	三百七十
十八年以上	三百四十	三百五十	三百六十五	三百八十	三百九十五
十九年以上	三百六十	三百七十五	三百九十	四百五	四百二十

別表 第四(施行令第三十一條第二項)

被保險者タリシ期間	日數
六月以上一年未満	十日
一年以上二年未満	二十日
二年以上三年未満	三十日

退職積立金及退職手當法

(昭和十一年六月三日法律第四二號
昭和十六年三月法律第六〇號改正)

退職積立金及退職手當法施行令

(昭和十一年十一月三十日勅令第四一四號
昭和十六年三月勅令第一七四號改正)

退職積立金及退職手當法施行規則

(昭和十一年十一月三十日内務省令第四六號
昭和十七年四月二十三日厚生省令第二四號改正)

第一章 總 則

法第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニシテ常時五十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス

- 一 工場法ノ適用ヲ受クル工場
- 二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業

主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

則第一條 退職積立金及退職手當法(以下法ト稱ス)第一條ノ規定ニ依リ法ノ適用ヲ受クルニ至リタル事業ノ事業主ハ左ニ掲グル事項ヲ十日以内ニ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ届出ツベシ第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ニ付亦同シ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所(法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名以下之ニ同シ)

退手法(總則)

三 常時使用労働者數

四 法ノ適用ヲ受クルニ至リタル年月日

法第二條 本法ノ適用ヲ受クル事業ガ規模ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ事業主其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅル迄ハ前條ノ規定ニ拘ラズ仍本法ヲ適用ス

○則第二條 事業主其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

○則第三條 法第二條ノ届出ハ左ニ提グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 常時使用労働者數

四 法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル事由

五 退職積立金及退職手当積立金ノ現在高竝ニ退職手当及之ガ支給ニ充ツルノ爲準備積立金ニ關スル規程ヲ有スルモノニ在リテハ準備積立金ノ現在高及支給スベキ退職手当ノ金額

法第三條 第一條第一項各號ノ事業ニシテ本法ノ適用ヲ受ケザルモノノ事業主退職積立金、退職手当積立金又ハ退職手当及之ガ支給ニ充ツルノ爲準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ事業ニ第十一條、第十六條及第十七條中積立ノ率ニ關スル規定竝ニ第三十條第三項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケベシ

○則第四條 法第三條第一項ノ許可ノ申請ハ退職積立金、退職手当積立金又ハ退職手当及之ガ支給ニ充ツルノ爲準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ提グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 常時使用労働者數

法第三條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 規定ヲ廢止又ハ變更セントスル理由

二 規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及前條第五號ノ事項、規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

法第四條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ労働者ガ引續キ承繼人ニ使用セラルトキハ其ノ労働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本法ニ依リテ生ジタル法律關係ハ承繼人ニ移轉ス

前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○則第五條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ労働者ノ全部ガ引續キ承繼人ニ使用セラルトキハ積立金ノ全部ニ付、労働者ノ一部ガ引續キ承繼人ニ使用セラルトキハ左ノ各號ノ積立金ニ付從前ノ事業主及承繼人ハ名義ノ變更其ノ他必要ナル手續ヲ爲スベシ

- 一 引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ニ屬スル退職積立金
 - 二 退職手當積立金中労働者別ニ計算ヲ明ニシタルモノニ付テハ引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ノ計算ニ屬スル金額
 - 三 退職手當積立金中特別手當積立金トシテ保留シタルモノニ付テハ各労働者ノ標準賃金ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ニ付得タル金額
 - 四 準備積立金ニ付テハ各労働者ノ標準賃金ニ勤続年數ヲ乘ジタル額ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ニ付得タル金額
- 前項ノ場合ニ於テ労働者ノ一部ガ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ法第十九條第二項又ハ法第二十八條ノ規定ニ依ル計算又ハ積立ハ事業ノ承繼アリタル日ヲ以テ計算又ハ積立ノ期日到来シタルモノト看做シ之ヲ爲スベシ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合亦同ジ
- 則第六條 承繼人ハ従前ノ事業主トノ連署ヲ以テ左ニ掲グル事項ヲ事業ノ承繼アリタル日ヨリ十日以内ニ地方長官ニ届出ヅベシ
- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業主(事業ノ承繼人及従前ノ事業主)ノ氏名及住所
 - 三 事業ノ承繼ノ事由及全部承繼又ハ一部承繼ノ別
 - 四 引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者數

五 承繼シタル積立金

●退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關スル件(昭和十六年三月五日 厚生省労働局長通牒)

同一事業主ノ經營スル法適用工場(事業場)相互間ニ於ケル労働者ノ轉勤ハ從來昭和十二年三月十三日附勞發第三三八號通牒ニ依リ退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關シテハ之ヲ退職トシテ取扱居候處爾今右ハ退職トセズ繼續シテ使用スルモノトシテ取扱ヒ積立金ニ關シテハ法第四條ニ規定スル事業ノ承繼ノ場合ニ準ジ同法施行規則第五條及第六條ノ規定ニ依リ處理スル様致度追而本件ハ貴管下適用工場(事業場)ニ周知セシメ退職手當及準備積立金規定ニシテ之ト異ナルモノハ至急訂正セシメラレ度

●退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關スル件(昭和十六年六月二十六日 厚生省労働局長通牒)

同一事業主ノ經營スル法適用工場(事業場)相互間ニ於ケル労働者ノ轉勤ニ伴フ退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關シテハ三月五日勞發第一〇七號ヲ以テ通牒致置候處右ニ關シ爾今左記ニ依リ御取計相成度

記

- 一、労働者ノ轉勤アリタル場合ニ於テハ轉勤ヲ退職ト看做シテ算出シタル退職手當ニ相當スル金額(法第二十四條第一項第二號ノ金額ヲ除ク)ヲ退職手當積立金又ハ準備積立金ノ中ヨリ轉勤先工場(事業場)ニ移管セシムルコト
- 二、前項ノ金額ハ轉勤先工場(事業場)ガ法第三十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノナル場合ニ於テハ爾後之ヲ準備積立金トシテ積立、轉勤先工場(事業場)ガ法第十六條及第十七條ニ依リ御取計相成度

條ノ規定ニ依リ積立ヲ爲スモノナル場合ニ於テハ爾後之ヲ其ノ労働者ノ計算ニ屬スル退職手當積立金トシテ積立ナサシムルコト

三、轉勤労働者ハ轉勤前ノ工場(事業場)ニ雇入ラレタルトキニ遡リ轉勤先工場(事業場)ノ退職手當規程ノ適用ヲ受クベキモノナルヲ以テ轉勤前後ノ工場(事業場)ノ退職手當規程ノ内容ガ異ナル爲轉勤ノ結果退職手當額ニ付不利ヲ蒙ル場合ニ於テハ轉勤先工場(事業場)ノ退職手當規程中ニ當該労働者ニ付テハ轉勤前ノ工場(事業場)ノ退職手當規程ヲ引續キ適用スベキ旨ノ規程ヲ設クル等適宜ノ措置ヲ講ゼシムルコト

●工場法適用工場ノ一部ヲ獨立セシメ新ニ適用工場ヲ設ケタル場合ニ於テ從前ノ工場ニ使用セラレタル職工ガ引續キ新工場ニ使用セラレタルトキハ退職積立金及退職手當法ノ適用ニ付テハ同一事業主ノ經營スル工場相互間ニ於ケル事業ノ承繼ナリト雖モ同法第四條ニ規定スル事業ノ承繼ノ場合ニ準ジ同法施行規則第五條及第六條ノ規定ニ依リ積立金ヲ處理スル様致度爲念(昭和十三年四月二十三日
社會局労働部長通牒)

法第五條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セラルル労働者ノ中左ニ掲グル者ニハ本法ヲ適用セズ但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

- 一 六月以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者
- 二 日日雇入レラルル者

三 季節的の事業ニ使用セラルル者
前項第三號ノ季節的の事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

●退職積立金及退職手當法ニ依ル季節的の事業指定(昭和十一年十二月二十八日
内務省告示第六九三號)

左ノ各號ニ掲グル作業ヲ爲ス事業ニシテ毎年一定ノ時期ニ引續二月以上作業ヲ休止スルモノ

- 一 繭ノ乾燥
- 二 清酒葡萄酒又ハ味淋ノ製造
- 三 粗製糖ノ製造
- 四 粗製澱粉ノ製造
- 五 魚介、果實又ハ蔬菜ノ類ノ罐詰又ハ罐詰
- 六 水産品ノ製造

法第六條 賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第一條 退職積立金及退職手當法ノ賃金ノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲グルモノヲ除ク

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
 - 二 通勤手當
 - 三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ
 - 四 其ノ他厚生大臣ノ指定スルモノ
- 賃金ノ全部又ハ一部分ガ金銭以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價格ハ健康保險法施

退手法(總則)

行令第二條第一項及第二項ノ規定ニ依リ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス但シ同條第三項ノ規定ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタル健康保險組合ノ被保險者タル労働者ニ付テハ其ノ定ニ依リ之ヲ算定ス

△令第二條 退職積立金及退職手當法又ハ同法ニ基キテ設スル命令ノ規定ニ依リ一定ノ期間中ノ賃金ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間中ニ支拂ハルベキ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス
事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルキハ労働者ノ各一月ノ賃金ハ前項ノ規定ニ拘ラズ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ當該労働者ニ付算定シタル金額ノ三十倍ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ一月中當該労働者ニ支拂ハルベキ賃金ナキトキハ其ノ一月ニ於ケル其ノ者ノ賃金ハ之ヲナキモノト爲スコトヲ得
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

△令第三條 退職積立金及退職手當法ノ標準賃金ハ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ算定シタル金額トス
前項ノ規定ニ依ル金額ガ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シテ事業主適當ナル金額ヲ定ムベシ

○則第七條 退職積立金及退職手當法施行令(以下令ト稱ス)第二條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所

三 使用労働者現在數

四 標準報酬日額ノ平均額

五 労働者一人當リ一日ノ勞務ニ對スル賃金ノ平均額

六 報酬月額百五十圓ヲ超ユル労働者數

問 退職積立金及退職手當法施行令第二條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ標準賃金ヲ採用セル事業場ニ於テ改正健康保險法施行令第三條ノ實施ニ伴ヒ労働者ノ各一ヶ月ノ賃金ハ同令所定ノ標準報酬月額ヲ以テ算定スベキヤ或ハ標準報酬日額ヲ三十倍ト爲シ算定スベキヤ(日額ヲ三十倍セルモノト月額トハ相違セル場合アリ)

答 労働者ノ各一月ノ賃金ハ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ノ三十倍トスルコト(昭和十七年四月五日厚生省労働局長通牒)

問 退職積立金及退職手當法施行令第二條第二項ニ依ル労働者ノ賃金計算ハ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ定ムル方法ヲ以テ(標準報酬日額ノ三十倍)爲シ居リタルガ昭和十七年一月勅令第三五號ヲ以テ改正相成タル健康保險法施行令ノ定ムル標準報酬月額ニ基キ賃金計算ヲ爲スヤ若ハ日額ニ依リ賃金計算ヲスベキヤ

答 後段御見込ノ通(右同)

問 陸海軍ニ應召中労働者ニ對シ工業主ヨリ給與スル手當金ハ令第一條ノ賃金トシテ取扱フベキヤ否ヤ

答 今次ノ事變ニ際シ應召シタル労働者ニ對シ事業主ニ於テ引續キ賃金トシテ支給スルモノ

退手法(總則)

ニ付テハ退職積立金及退職手當法ニ依ル積立ノ基準トナルモ賃金ニ非ザル見舞金其ノ他ノ給與ハ積立ノ關係ヲ生ゼザルモノトス(昭和十二年八月二十四日 社會局労働部長通牒)

法第七條 行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依ル積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル検査ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

○則第八條 事業主ハ毎年二月十五日迄ニ前年ニ於ケル退職積立金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立並ニ退職積立金ノ支拂及退職手當又ハ之ニ代ルベキモノノ支給ノ狀況ヲ地方長官ニ届出ツベシ

●一 届出ハ様式第一號ニ依ラシムルコト(共濟組合ノ給與ヲ以テ本法ノ制度ニ代フル場合ハ其ノ支給狀況ヲ様式第一號ニ準ジテ届出デシムルコト)

二 法第九條ニ依リ法ノ適用ヲ受クル事業主ハ施行規則第八條ノ適用ヲ受クルモノナルコト(昭和十一年十二月二十四日 社會局労働部長通牒)

法第八條 本法ニ依リ事業主ノ積立ツベキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

△令第四條 退職積立金及退職手當法第八條ノ賃金ハ左ノ各號ノ金額ノ合算額トス

- 一 退職積立金及退職手當法第八條ノ期間ノ末日ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金
- 二 退職積立金及退職手當法第八條ノ期間中ニ退職(解雇及死亡ヲ含ム)以下之ニ同ジ)其ノ他ノ

事由ニ因リ同法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル労働者ノ賃金ニシテ退職手當積立金及準備積立金ノ積立ノ基準ト爲シタル金額

法第九條 本法ノ適用ヲ受クル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

○則第九條 法ノ適用ヲ受クル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ハ事業主ハ遲滞ナク退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ヲ完了シタル上其ノ願末ヲ地方長官ニ届出ツベシ

●届出ハ様式第一號ニ依ラシムルコト(此ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ一月以降ノ狀況ヲ記載セシムルコト)

法第十條 本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セズ

道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

△令第五條 道府縣又ハ道府縣ト労働者トノ出捐ニ係ル組合ガ退職積立金及退職手當法ニ準ズル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テハ道府縣ハ同法第十一條ニ規定スル退職積立金若ハ同法第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サズ又ハ同法第十一條若ハ第十二條及第十七條ニ規定スル率ト異ナル率ノ積立ヲ爲スコトヲ得
市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ又ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノト労働者トノ出捐ニ係ル組

退手法(總則)

合カ退職積立金及退職手當法ニ準ズル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規定ヲ有スル場合ニ於テ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同ジ行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

○則第十條 令第五條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業經營ノ主體
 - 三 常時使用勞働者數
 - 四 退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程
 - 五 組合ノ組織(組合規約又ハ之ニ準ズベキモノヲ添附スルコト)
 - 六 退職積立金ニ代ルベキ事項
 - 七 退職手當ノ支給ニ代ルベキ事項
- 令第五條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ

第二章 退職積立金

法第十一條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各勞働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ但シ勞働者年金保險ノ被保險者ニ付テハ其ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アリタル場合ハ此ノ限リニ在ラズ災害其ノ他己ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積

立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

法第十二條 勞働者退職(解雇及死亡ヲ含ム)以下之ニ同ジ)其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ非ザレバ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ズ

△令第八條 退職積立金トシテ積立ツベキ金額ノ計算ハ豫メ事業主ノ定メタル一月以内ノ一定ノ期間中ノ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス

事業主ハ退職積立金トシテ積立ツベキ金額ノ前項ノ期間毎ニ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スベシ但シ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコト能ハザルトキハ其ノ次ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコトヲ得

△令第九條 退職積立金ノ積立ハ前條第二項ノ規定ニ依ル控除ノ都度遲滞ナク之ヲ爲スベシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間ニ取纏メ積立ヲ爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

△令第十條 退職積立金ノ積立ハ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ勞働者ノ他ノ財産ト分別シテ郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託、登錄國債其ノ他確實ナル方法ニ依リ之ヲ爲スベシ行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ積立ノ方法ヲ指定スルコトヲ得郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ支拂ニ付事業主ノ證明ヲ必要トスル方法ニ依リ之ヲ爲シ通帳又ハ證書ハ事業主之ヲ保管スベシ登錄國債ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄ノ變更又ハ除却等其ノ登錄國債ニ關スル請求ハ事業主之ヲ爲シ其ノ登錄國債ノ元利金ノ支拂又ハ登錄除却ノ場合ニ於ケル證

退手法(退職積立金)

券ノ引渡ハ日本銀行之ヲ事業主ニ爲スベシ

△令第十一條 退職積立金ノ積立ハ郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金銭信託ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲スコトヲ以テ、登録國債ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ甲種國債登録簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ以テ之ヲ爲ス

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金銭信託ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ郵便官署、銀行又ハ信託會社其ノ受入又ハ引受ヲ爲シタルトキハ事業主ノ請求ニ依リ通帳又ハ證書ニ退職積立金タル事ノ表示ヲ爲シ尙貯金原簿又ハ之ニ準ズベキ帳簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ登録國債ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ日本銀行ハ事業主ノ請求ニ依リ甲種國債登録簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ

○則第十一條 事業主ハ退職積立金臺帳ヲ調製シ勞働者別ニ左ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

- 一 退職積立金トシテ控除シタル金額
- 二 退職積立金トシテ積立テタル金額
- 三 退職積立金ヨリ生ジタル利子
- 四 積立方法別金額
- 五 退職積立金ヲ運用シタル金額及退職積立金ヘ積戻シタル金額

○則第十一條ノ二 事業主法第十一條第一項但書ノ規定ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲サザルニ至リタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ズベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業主ノ氏名及住所
 - 三 使用勞働者現在數
 - 四 退職積立金ノ積立ヲ爲サザルニ至リタル年月日
- 前項ノ届出ニハ退職積立金ノ積立ヲ爲サザルコトニ付勞働者ノ二分ノ一以上ノ申出アリタルコトヲ證スルニ足ル資料ヲ添付スベシ

○則第十二條 法第十一條第二項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 災害其ノ他已ムヲ得ザル事由ノ具體的事項及積立ノ程度

●一 積立ノ減額又ハ免除ハ客觀的ニ明ナル具體的事由ニ付テハ豫メ許可ヲ爲ス事ヲ得ルコト

- 二 抽象的ナル事由ニ付テハ豫メ許可ヲ爲サザルコト
 - 備考 (1) 一月ノ勞働日數十日以下(事業ノ狀況ニ依リ七日以下又ハ五日以下等適宜縮少スルコト)ナル場合ニ付テハ積立ヲ爲サザルコトハ豫メ許可ヲ爲シ得ルコト
 - (2) 「災害」、「其ノ他已ムヲ得ザル事由」ノ如ク抽象的ナル事由ニ對シテハ豫メ許可ヲ爲サザルコト

三、施行令第九條第一項但書ノ規定ニ依ル積立ノ許可ハ通常ノ事業ニ在リテハ二月又ハ三月ニ一度ヲ標準トスルコト、特ニ確實ナル事業ニ在リテ特別ノ事情アル場合ニハ更ニ延長ヲ

退手法(退職積立金)

認め得ルコト

四、郵便貯金ノ方法ヲ許可スル際ニハ積立期ヲ三月ニ一度トスルコトヲ原則トシ郵便局ニ於テ支障ナキ場合ハ之ヲ短縮スルコトヲ認ムルコト

五、銀行預金又ハ金銭信託ノ方法ノ許可ノ申請書ニハ銀行名又ハ信託會社名ヲ記載セシムルコト

六、「其ノ他確實ナル方法」ハ當分ノ間之ヲ許可セザルコト

七、支拂ニ關スル事業主ノ證明ハ事業主個人ノ氏名ニ依ラズシテ事業主タルコトヲ表示シ得ル抽象的名稱「例ヘバ(〇〇株式會社〇〇工場)」ニ依ルコトヲ得ルコト

八、登録國債ノ方法ハ百圓以上ノ金額ニ非ザレバ之ヲ許可セザルコト

九、退職積立金臺帳ハ様式第二號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

●國債ノ圓滑ナル消化ハ戰時體制下ニ於ケル財政經濟政策ノ遂行上緊要ニシテ之ガ促進運動ニ關シテハ夫々御配意中ノコトト存候處今回大藏省理財局長ヨリ退職積立金及退職手當法ニ基ク諸積立金及其ノ他同様ノ性質ヲ有スル資金等ハ出來得ル限り國債ヲ以テ保有スル様配意方申越ノ次第モ有之候ニ付テハ退職手當積立金及準備積立金ニ關シテハ退職手當ノ支給ニ支障ヲ來サザル範圍内ニ於テ登録國債ノ方法ニ依リ積立ツル様右事業主ニ勸奨方可然御取計相成度(昭和十五年二月十六日 厚生省労働局長通牒)

●退職積立金ノ貯金ニ關スル件(昭和十二年五月二十五日 社會局労働部長通牒)

標記ノ件ニ關シ退職積立金ノ新規預入ニ付事業主代印者ト爲ル預入申込ハ之ヲ受理セザル様通牒セル旨貯金局ヨリ申越有之候條貴管下關係事業主ニ對シ之ガ周知方可然御取計相成度

問 退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セラルル労働者ガ労働者年金保險法ノ適用ヲ受ケ被保險者トナリタル場合事業主ハ其ノ者ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アラハ第十一條ニ基ク労働者ノ賃金中ヨリ控除シテ爲ス積立ノミヲ免除セラルルモノト解スルモ労働者ヨリ申出ナキトキハ退職積立金及同手當法ニ依リ積立ト労働者年金保險ノ掛金ト二ツナガラ義務付ケラルルモノト解シ差支ナキヤ

答 御見解ノ通(昭和十七年四月五日 厚生省労働局長通牒)

問 退職積立金及同手當法第十一條第一項但シ書ニ基キ積立ヲ廢止スル場合従前ノ積立金ノ處置及手續等ハ如何ニ爲スベキヤ又第十一條ニ依ル積立金ヲ廢止スル場合ニ於テモ事業主ノ積立ツベキ手當金ハ繼續セシムベキモノト解シ差支ナキヤ

答 前段ニ付テハ當該労働者ガ退職其ノ他ノ事由ニ依リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至ル迄従前通退職積立金ヲ保管スルコト、後段ニ付テハ御見解ノ通(右同)

問 退職積立金及退職手當法施行規則第十一條ノ二第二項ニ規定セラレタル「退職積立金ノ積立ヲ爲サザルコトニ付労働者ノ二分ノ一以上ノ申出アリタルコトヲ證スルニ足ル資料」ハ労働者ノ署名捺印セル申出書ノ添付ヲ要スルヤ又ハ其ノ寫ヲ添付セシムルノ程度ニテ可ナルヤ

退手法(退職積立金)

答 貴官ニ於テ是認シ得ル程度ノモノニテ可ナルコト(右同)

問 前記申出書ニ署名セル労働者中退職其ノ他ノ異動ニ依リ當該事業場ニ於ケル労働者年金
保險ノ被保險者タル労働者ノ二分ノ一ヲ缺クニ至リシ場合ハ更ニ新規雇入労働者ノ意嚮ヲ
徴シ中止スベキヤ否ヤニ付決定スベキモノナリヤ或ハ斯ル手續ヲ要セズシテ中止ヲ繼續シ
支障ナキヤ

答 労働者ノ二分ノ一以上ノ申出ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲サザルニ至リタルトキハ爾後
労働者ニ異動アリタルトキト雖モ引續キ之ヲ積立テザルコトヲ得ルコト(右同)

第十三條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上労働者ノ
同意ヲ得タルトキハ其ノ労働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スベキコトヲ命ズルコト
ヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ増額ヲ命ズルコトヲ
得

労働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債
權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 第十三條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ
一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 運用セントスル金額及期間

四 支拂又ハ積戻ノ確保ニ關スル方法

五 利率

第十四條 第十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ供託ヲ命ゼラレタル事業主ハ事業ノ所
在地ニ於テ供託ヲ爲スベシ

前項ノ事業主供託ヲ爲シタルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク其ノ
旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

地方長官法第十三條第四項ノ權利ノ實行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ供託國債受入ノ記載アル
供託書又ハ退職積立金ニ關スル帳簿ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

一 運用ノ許可ノ場合利子ノ定率ハ工場法施行令第二十四條ノ強制貯蓄ノ利率ニ依ルコト但
シ特別ノ事由アル場合ハ其ノ利率ヲ低下スルコトヲ認メ得ルコト此ノ場合ニ於テハ労働部
ニ協議スルコト

二 國債ノ供託ハ額面金額ニ依リ之ヲ命ズルコト

三 供託スベキ國債ノ額ハ事業ノ實情ニ依リ之ヲ決定シ必ズシモ運用金ノ全額ト同額(時價)
ノ供託ヲ命ズルヲ要セザルコト、確實ナル保證人ノアル場合ハ供託額ヲ減ジ又ハ之ヲ命ゼ
ザルコトヲ得ルコト

四 運用ノ許可ハ金額ヲ限り之ヲ爲スコト、將來積立テラルベキ退職積立金ヲ含マシムルコ
ト

退手法(退職積立金)

トヲ得ルコト(昭和十一年十二月二十四日
社會局労働部長通牒)

法第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ労働者ニ支拂フベシ

△令第十二條 労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ事業主ハ労働者ガ退職積立金ノ支拂ヲ受クルニ必要ナル事業主ノ爲スベキ手續ヲ遅滞ナク完了スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ事業主ハ退職積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スベシ

△令第十三條 事業主ハ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ其ノ労働者ノ賃金ヨリ控除シタル金額ニシテ積立ヲ爲サザルモノアルトキハ之ヲ支拂フベシ

法第十五條 退職積立金ノ支拂ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三章 退職手當

法第十六條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ遅滞ナク積立ツベシ
災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

△令第十四條 事業主ハ退職積立金及退職手當法第十六條ノ規定ニ依リ退職手當積立金ノ積立ニ

關スル計算ノ期間ヲ定メ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ計算ノ期間ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

△令第十五條 退職積立金及退職手當法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ退職手當積立金ノ計算ハ其ノ計算ノ期間中ニ於ケル退職積立金ノ計算ノ期間毎ニ労働者別ニ之ヲ爲スコトヲ得

●法第十六條第二項ニ依ル許可ハ災害又ハ之ニ準ズベキ事由ニ依リ積立ヲ困難ト認ムル場合ニ限り之ヲ爲シ單ニ缺損ヲ事由トシテハ之ヲ爲サザルコト(昭和十一年十二月二十四日
社會局労働部長通牒)

○則第十八條 第十二條ノ規定ハ法第十六條第二項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

法第十七條 事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以内ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ遅滞ナク積立ツベシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

△令第十六條 退職積立金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依リ退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ハ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度個人タル事業主ニ在リテハ曆年トス

△令第十七條 退職積立金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ退職手當積立金ノ額ハ左ノ各號ヲ標準トスルモノトス

- 一 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル割合ガ年百分ノ五ヲ超エ年百分ノ七・五以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、年百分

退手法(退職手當)

ノ七・五ヲ超エ年百分ノ十以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、年百分ノ十ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ利益配當金額ガ拂込株金額又ハ出資金額ノ年百分ノ五ノ割合ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

二 個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額ガ一萬圓ヲ超エ二萬圓以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、二萬圓ヲ超エ三萬圓以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、三萬圓ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ純益金額ノ百分ノ六十ガ六千圓ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

前項ノ事業年度ハ當該事業年度又ハ直前ノ事業年度、曆年ハ當該曆年又ハ直前ノ曆年トシ事業主ノ選擇スル所ニ依ル但シ選擇シタル事業年度又ハ曆年ハ労働者ノ不利益ニ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

行政官廳事業主ノ爲シタル利益配當金額、純益金額又ハ積立ノ金額ノ算定不當ナリト認ムルトキハ積立ノ金額ヲ更正シテ認可スルコトヲ得

詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ認可ヲ受ケタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其ノ認可シタル金額ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

△令第十八條 第十一條ノ規定ハ退職手當積立金及準備積立金ニ之ヲ準用ス

○則第十五條 事業主ハ退職手當積立金臺帳ヲ調製シ左ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

一 法第十六條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額

二 法第十七條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額

三 退職手當積立金ヨリ生ジタル利子及餘剰ヲ積立テタル金額

四 退職手當積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額

五 積立方法別金額

六 退職手當積立金ヲ運用シタル金額及退職手當積立金ヘ積戻シタル金額

○則第十九條 法第十七條ノ認可ノ申請ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後一月以内ニ地方長官ニ之ヲ爲スベシ但シ己ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ認可ノ申請ハ當該事業年度又ハ曆年終了前ニ豫メ之ヲ爲スコトヲ得

○則第二十條 前條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル職項ヲ記載スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 期間末ニ於ケル労働者數及其ノ期間中ノ賃金ノ額

四 積立テナントスル退職手當積立金ノ金額及前號ノ賃金ノ額ニ對スル割合

五 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル拂込株金額又ハ出資金額、利益配當金額及利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル年割合、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額

前條第二項ノ認可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項並ニ退職手當積立金ノ額ヲ定ムル標準ヲ記載スベシ

退手法(退職手當)

○則第二十一條 事業主第十九條第二項ノ規定ニ依リ法第十七條ノ認可ヲ受ケタル場合ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滞ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

○則第二十二條 法第十七條但書ノ許可ノ申請ハ第二十條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

●一 法第十七條本文ニ依ル認可ハ施行令第十七條ノ標準ニ依リ豫メ之ヲ爲シ得ルコト
(個人タル事業主ニ在リテハ純益金額ハ事業主ノ算定スル所ニ依リ積立ヲ爲シ稅務署ノ決定シタル金額ニ照シ積立金ニ不足アル場合ハ遲滞ナク其ノ額ヲ積立ツベキ旨ヲ定メシムルコト)

二 法第二十七條但書ノ許可ハ事業年度又ハ曆年毎ニ受クルコトヲ要スルコトトシ豫メ許可ヲ爲サザルコト

三 積立金額ノ更生認可ハ法人タル事業主ニ在リテハ認可申請書ニ記載シタル配當率ガ事實ニ相違シ又ハ利益配當金額ガ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額ニ照シ相違アリト認ムルトキニ於テ之ヲ爲シ、個人タル事業主ニ在リテハ認可申請書ニ記載シタル純益金額ガ營業收益稅法ニ依リ決定シタル純益金額(鑛業ニ在リテハ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額)ニ照シ相違アリト認ムルトキニ於テ之ヲ爲スコト

四 認可ノ際利益配當金額又ハ純益金額ニ付疑アルトキハ積立金額ノ變更ヲ命ズルコトアルベキ旨ノ條件ヲ附スルコト(昭和十一年十二月二十四日 社會局労働部長通牒)

問 一事業主ニシテ二以上ノ工場ヲ經營スル場合各工場ニ於ケル施行令第十七條但書ノ積立額ハ但書ニ依ル限度額(工場全體トシテノ利益配當金額又ハ純益金額ヲ基準トシテ定メラルモノ)ヲ各工場ノ賃金ニ按分シ計算スベキモノト解セラルルモ取扱上聊カ疑義相生何分ノ御指示相仰度

答 貴見ノ通ニ有之(昭和十二年五月二十五日 社會局労働部長通牒)

法第十八條 前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限り事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ労働者別ニ計算スルコトヲ得

△令第六條 事業主ハ退職積立金、退職手當積立金及準備積立金並ニ退職手當ニ關シ計算ヲ爲ス場合ニ於テ一錢未満ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

○則第十六條 事業主ハ退職手當積立金労働者別明細簿ヲ調製シ労働者毎ニ法第十六條、法第十七條及第十九條ノ積立金(法第二十八條ノ積立金ヲ含ム)別ニ積立テタル金額及其ノ年月日ヲ記載スベシ

○則第二十三條 法第十八條但書ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 労働者別計算ノ標準

●法第十八條但書ノ許可ハ法第十七條ノ退職手當積立金ノ少クトモ半額ヲ標準報酬日額ニ比

退手法(退職手當)

例シ殘餘ヲ勤務年限、勤務狀態等ニ依リ勞働者別ニ計算ヲスル場合ニ限リ之ヲ爲スコト

(昭和十二年十二月二十四日)
社會局勞働部長通牒

法第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子(分類所得税ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額)及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ヲ明ニスベシ
○則第二十四條 事業主ハ豫メ法第十九條第二項ノ一定ノ計算期ヲ定メ地方長官ニ届出ヅベシ
前項ノ計算期ハ毎年一回以上タルコトヲ要ス

法第十九條第一項ノ退職手當積立金ニシテ勞働者別ニ計算ヲ明ニセザル金額ハ當該計算期ニ於ケル勞働者ノ直前ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ノ明ナル退職手當積立金ノ額及直前ノ計算期ニ於ケル特別手當積立金ノ額ニ之ヲ按分シテ計算ヲ明ニスベシ

法第二十條 退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財産ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スベシ

- 一 郵便貯金
- 二 銀行ヘノ預金
- 三 金錢信託
- 四 登録國債

△令第十九條 郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託又ハ登録國債ノ方法ニ依リ積立ヲ爲シタル退

職手當積立金又ハ準備積立金ガ退職手當積立金又ハ準備積立金タラザルニ至リタルトキハ事業主ハ退職手當積立金又ハ準備積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スベシ

法第二十一條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○則第二十五條 第十三條ノ規定ハ法第二十一條第一項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

○則第二十六條 第十四條ノ規定ハ法第二十一條第二項、法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

法第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得税法、法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ズ

△令第二十條 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年終了後其ノ期間中ニ於ケル賃金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立額並ニ賃金ニ對スル積立額ノ比率ヲ記シタル計算書ヲ所得税、法人税、營業税又ハ臨時利得税ニ關スル申告ノ際稅務署ニ提出スベシ

第四條ノ規定ハ前項ノ賃金ニ之ヲ準用ス

法第二十三條 退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ

退手法(退職手當)

得ズ但シ本法ニ依ル退職手當ヲ受クベキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨ゲズ

法第二十四條 勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

一 第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ勞働者ノ計算ニ屬スル金額

二 第十六條第一項ノ規定ニ依ル積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額
前項第一號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハザルトキハ事業主ノ他ノ財産ヨリ之ヲ支給スベシ

第一項第二號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ズ
勞働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ命ムル所ニ依リ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スベシ

△令第二十一條 退職積立金及退職手當法第二十四條第四項又ハ第三十條第四項ノ規定ニ依リ退職手當ヲ受クベキ者ハ勞働者ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ退職手當ヲ受クベキ者ハ勞働者死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル勞働者ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キモノヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同ジキトキハ卑屬ヲ先ニス

△令第二十二條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 勞働者ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子、私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

△令第二十三條 第二十一條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル者ノ中一人ニ退職手當ヲ支給スベシ但シ勞働者ノ遺言又ハ事業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フベシ

- 一 勞働者ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 勞働者ノ兄弟姉妹ニシテ勞働者ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
- 三 勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

○則第二十七條 勞働者左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

- 一 重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルコト
- 二 營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト
- 三 故意ニ事業ノ設備又ハ器具ヲ破壊シタルコト
- 四 正當ノ理由ナクシテ無相缺勤引續キ十四日以上ニ及ビタルコト

退手法(退職手當)

五 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ背信行為アリタルコト

○則第二十八條 勞働者勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

一 事業ノ風紀ヲ甚シク紊シタルコト

二 素行著シク不良ナルコト

三 戒告數回ニ及ブモ仍出勤常ナラザルコト

四 戒告數回ニ及ブモ仍怠慢ニシテ勞務ニ不熱心又ハ勞務ニ就カザルコト

五 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ特ニ不都合ナル行為アリタルコト

勞働者勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得但シ二分ノ一ヲ超エテ減額スルコトヲ得ズ

○則第二十九條 勞働者勤續三年未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

一 負傷、疾病又ハ老衰ノ爲業務ニ堪ヘザルトキ

二 就業規則又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四 女子勞働者ガ結婚スルトキ

五 其ノ他己ムヲ得ザル事由アルトキ

○施行規則第二十七條第五號ニ該當スル「背信行為」及第二十八條第五號ニ該當スル「特ニ不都合ナル行為」ニ付事業主退職手當規程ニ具體的ニ之ヲ列擧スルコトヲ認ムベキ事項ハ勞働部ニ協議スルコト

二 女子勞働者ガ結婚スルトキ退職スルモノト認ムベキハ退職後六ヶ月以内ニ結婚スル場合ニ限ルモノトスルコト但シ事業主ニ於テ特別ノ事情アリト認メタルトキハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得ルコト

三 事業主ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求め場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ヲ要求シ得ルコト(昭和十二年八月二十四日 社會局勞働部長通牒)

問 退職積立金及退職手當法ノ適用アル職工中陸海軍ニ志願入營セル者ニ對シテハ施行規則第二十九條第三項第三號ノ「陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルモノ」ニ據リ退職手當金額ヲ支給スベキヤ

答 勞働者ガ兵役法施行令第七條第一項ニ依リ陸海軍ニ志願シ兵籍ニ編入セラレタル爲退職セル場合ハ施行規則第二十九條第五號ニ該當スルモノトシテ御取扱相成度

(昭和十一年十二月二十四日 社會局勞働部長通牒)

退手法(退職手當)

一三一

法第二十五條 前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セザル金額ヲ生ジタルトキハ事業主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲ノ積立金(特別手當積立金)トシテ之ヲ保留スベシ

法第二十六條 事業主事業ノ都合ニ依リ労働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セズ

- 一 勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額
 - 二 勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額
- 特別手當ヲ受クベキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金ガ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラザルトキハ其ノ支給ヲ受クベキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スベシ

第二十四條第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

○則第三十條 労働者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ依リ又ハ第二十七條各號若ハ第二十八條第一項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十六條第一項ノ特別手當ハ之ヲ加算スルコトヲ要セズ

○則第十七條 事業主ハ特別手當積立金明細簿ヲ調製シテ特別手當積立金トシテ保留シタル金額、特別手當トシテ支給シタル金額及退職手當積立金ニ充當シタル金額並ニ其ノ年月日ヲ記載スベシ

問 労働者ガ陸海軍ニ召集セラレタル場合應召入營期間中ハ法第二十六條規定ノ特別手當支給ニ關シ之ヲ勤続期間トシテ通算スベキヤ否ヤ

答 退職手當規程中ニ應召入營期間中ヲ休職トシ勤続期間ノ計算ヨリ除外スベキ旨ヲ規定シタルトキハ之ニ從フベキモ現職ノ儘應召セル場合ハ勤続期間トシテ通算スベキモノトス

(昭和十二年八月二十四日
労働部局長通牒)

法第二十七條 事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ退職手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ニ之ヲ充當スベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

○則第三十一條 法第二十七條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業主ノ氏名及住所
 - 三 常時使用労働者數
 - 四 特別手當積立金ノ限度ト爲サントスル金額
 - 五 健康保險法ニ依リ使用労働者ニ付定メタル標準報酬日額ノ合計額
- 法第二十七條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ常時使用労働者數ニ著シキ増加アリタルトキハ前項第三號及第五號ノ事項ヲ地方長官ニ届出ヅベシ
- 一 特別手當積立金ノ限度ニ付テハ使用労働者ノ標準報酬日額二十日分ノ合計額以上ヲ標準

退手法(退職手當)

トシテ許可スルコト

二 特別手當ヲ支給スル場合僅少ナル事義ハ其ノ經營堅實ナルモノニ限り右ノ標準ヲ下ゲテ許可スルコトヲ得ルコト(昭和十一年十二月十四日 社會局労働部長通牒)

法第二十八條 事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ缺損ヲ填補シ餘剩ヲ積立ツベシ

前項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積立ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

○則第三十二條 第二十四條第三項ノ規定ハ法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積立ツル場合ニ之ヲ準用ス

法第二十九條 本法ニ依ル退職手當ヲ受ケタルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

法第三十條 事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツルノ爲準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ労働者退職事由其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ少クトモ勤続一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十

日分、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給スベシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ増額ヲ命ズル事ヲ得

○則第三十三條 法第三十條第一項ノ許可ノ申請ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規定ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 常時使用労働者數

法第三十條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 規定ヲ廢止又ハ變更セントスル理由

二 規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及準備積立金ノ現在高、規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

○則第三十四條 第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ法第三十條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○則第三十五條 第十三條ノ規定ハ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

退手法(退職手當)

○則第三十六條 第二十四條第一項及第二項ノ規定ハ法第三十條第四項ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

○則第三十九條 事業主ハ準備積立金臺帳ヲ調製シ左ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

- 一 準備積立金トシテ積立テタル金額
- 二 準備積立金ヨリ生ジタル利子及餘剩ヲ積立テタル金額
- 三 準備積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
- 四 積立方法別金額
- 五 準備積立金ヲ運用シタル金額及準備積立金へ積戻シタル金額

○則第四十條 事業主ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ勞働者ニ周知セシムベシ

○則第四十一條 第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ帳簿ハ之ヲ合併スルコトヲ妨ゲズ

○則第四十二條 退職積立金及退職手當ニ關スル帳簿其ノ他重要ナル書類ハ事業毎ニ之ヲ備置クベシ
前項ノ帳簿又ハ書類ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事業主ノ義務ヲ完了シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

●退職積立金及退職手當法第三十條ノ事務取扱ニ關スル件 (昭和十二年二月二十五日
社會局勞働部長通牒)
標記ノ件ニ關シテハ數次通牒ノ次第モ有之御配意中ト存候へ共特ニ左記各項ニ御留意ノ上事

業主ニ對シ關係法令ノ趣旨徹底ニ努メ本法ノ圓滑ナル施行ヲ期スル様致度爲念及通牒候

記
一、法第十六條及第十七條ニ依ルカ法第三十條ニ依ルカハ事業主ヲシテ自由ニ選擇セシムベキモノニシテ退職手當ノ支給額ヲ増加セシムル希望ノモトニ事業主ニ對シ法第三十條ニ依ルベキコトヲ獎勵スベキモノニ非ザルコト

二、法第三十條ニ依ル退職手當規程ニ定ムル退職手當ニ付テハ標準賃金十二日分ヲ下ル場合ハ許可スベキモノニ非ザルモ標準賃金十二日分ナラバ許可シテ支障ナキモノナルコト唯事業主ガ本法施行前ヨリ十二日以上ノ退職手當ヲ支給スル規定ヲ有スル場合又ハ長期ニ亘ル事業ノ經營狀態ニ鑑ミ相當ノ負擔能力アリト認メラルルガ如キ特別ノ場合ニ於テハ事業主ガ自發的ニ妥當ナル退職手當規定ヲ定ムルヤウ希望スルハ差支ナキモ決シテ強要ニ涉ルガ如キコトナキヤウ特ニ留意スルコト尙事業主ガ勤続年數ニ應ジテ退職手當ノ累増ヲ定ムル規定ヲ設ケントスル場合ニ於テハ勤続初期ニ於テ比較的退職手當額低キ場合ト雖モ當該事業ニ於ケル退職勞働者ノ勤続年數ノ實情ニ對照シテ妥當ナルトキハ其ノ規定ニ於ケル退職手當支給額ノ程度ハ規定ノ全般ニ亘リテ判斷スベキモノニシテ勤続初期ニ於ケル退職手當額ノミヲ以テ判斷スベキモノニ非ザルコト

●同一事業主ノ經營スル適用事業相互間ノ勞働者ノ轉勤ノ場合
ニ於ケル退職積立金及退職手當法第三十條(第四十二條)ニ
依ル退職手當規程ニ關スル件 (昭和十二年三月十三日
社會局勞働部長通牒)

退手法(退職手當)

勞働者ノ轉勤ノ場合ニ於テハ同一事業主ノ經營スル本法適用事業ノ間ニ於ケル場合ト雖モ當該勞働者ハ前事業ニ付テハ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルモノニシテ退職手當ノ支給ヲ要スル義ニ有之右ト異ナル規定ヲ設クルコトヲ得ザルモノニシテ若シ事業主中ニ勤続年數ヲ通算シテ退職手當ヲ算定スル規程ヲ設クルコトヲ希望スル向アル場合ハ右規程許可ニ際シテハ左記ニ依リ御取扱相成度

記

法第三十條(第四十二條)ノ退職手當規程ニハ同一事業主ノ經營スル他ノ適用事業ヨリ轉勤シ來リタル勞働者ノ退職手當支給額ハ前事業ニ於ケル勤続年數ヲ通算シテ算定スルコトヲ定メ前適用事業ニ於テ轉勤ノ際支給シタル退職手當額ヲ控除スルコトヲ定ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ右ノ差額ハ後ノ事業ニ於ケル勤続年數ニ對スル退職手當額ヲ下ルコトヲ得ザル旨併セ規定スルヲ要スルコト

- 一 既存ノ退職手當ノ規程ハ成ルベク之ヲ本條ニ依ル規程ニ取入レシムルコト
- 二 勤続年數ノ計算ハ月割計算トスルコト
- 三 退職手當規程ハ從來ノ規程ガ定額貸金ニ依リ支給日數ヲ定メタルトキハ便宜之ヲ認ムルコト但シ退職手當支給額ガ標準貸金ニ換算シテ法第三十條第三項ノ標準ヲ下リタルトキハ其ノ額迄補給スル旨ヲモ規定セシムルコト
- 四 同一ノ事業主ノ工場又ハ鑛山ガ他府縣ニモ在ル場合ニ於テ同一ノ退職手當規程ヲ定メントスル希望アル場合ハ勞働部ニ協議ノ上許可スルコト

五 準備積立金規程ニ定ムル積立率ハ概ネ貸金ノ百分ノ三・三以上トスルコト

六 第三十條ノ準備積立金ト第四十二條ノ準備積立金トハ退職手當規程ガ共通ナル場合ニハ其ノ計算モ之ヲ共通ニスルコトヲ得ルコト、但シ此ノ場合ニハ成ルベク第四十二條ニ依リ積立テタル金額(適用前ノ勤務ニ對スル退職手當ニ充當スル方針ニ依リ積立テタル準備積立金)ノ現在高ニ付留意スルコト

(昭和十一年十二月二十四日 社會局勞働部長通牒)

△令第七條 本令中行政官廳トアルハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

○則第四十三條 事業主ハ法又ハ法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ事項ニ付豫メ代理人ヲ選任シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第四章 退職金審査會

法第三十一條 退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

法第三十二條 退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第二十四條 退職金審査會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ

退手法(審査會)

關スル事項ヲ審査ス

△令第二十五條 退職金審査會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシ其ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定

ム
△令第二十六條 退職金審査會ハ會長一人及委員九人以テ之ヲ組織ス

△令第二十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ厚生大臣之ヲ命ズ

學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ
任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

△令第二十八條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

△令第二十九條 退職金審査會ニ幹事及書記ヲ置ク關係各廳ノ官吏中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

△令第三十條 審査ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザル
ニ至リタル際其ノ使用セラレタル事業ノ所在地ヲ管轄スル退職金審査會ニ於テ之ヲ爲ス

前項ノ事業ノ所在地數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ之ヲ管轄スル退職金審査會ハ厚生大臣之ヲ指定
ス

△令第三十一條 審査ノ請求ハ請求ノ趣旨ヲ明ニシテ之ヲ爲スベシ

前項ノ請求ハ文書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

△令第三十二條 審査ハ委員半數以上出席スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ同一ノ事件ニ
付招集再回ニ及ブ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

△令第三十三條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ
依ル

△令第三十四條 審査ハ之ヲ公開セズ

△令第三十五條 勞務監督官、職務監督官其ノ他ノ關係官吏ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其
ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

△令第三十六條 審査請求人又ハ關係人ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ事件ニ
關スル説明ヲ爲スコトヲ得

△令第三十七條 退職金審査會審査ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ事件が管轄違ナルトキハ會
長ハ之ヲ所轄退職金審査會ニ移送スベシ

△令第三十八條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

△令第三十九條 退職金審査會ハ前條ノ決定書ノ謄本ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ審査請求人ニ交付ス
ベシ

審査請求人ニ對シ決定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハザルトキハ退職金審査會ハ其ノ決定書ノ謄
本ヲ揭示板ニ揭示スベシ

△令第四十條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求ノ手續ヲ

退手法(審査會)

第五章 罰 則

法第三十三條 事業主第二十一條第一項(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケズシテ退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケザルニ拘ラズ其ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同ジ

法第三十四條 事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條第二項、第十一條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十四條第一項第四項(第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第十三條第二項、第三項(第二十二條第二項、第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキ
- 三 第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲サザルトキ
- 四 第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スベキ退職手當トシテ勤続一年ニ付標準賃金十二日分以

内ニ相當スル金額(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以内、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以内ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給セザルトキ

法第三十五條 第七條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法第三十六條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第一條、第二條、第六條、第八條、第十一條ノ二、第十四條第二項(第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十一條、第二十四條第一項(第三十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第三十一條第二項又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ若ハ其ノ届出ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 第五條ノ規定ニ依ル手續ヲ怠リタル者

退手法(罰則)

- 三 第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル帳簿ノ調製若ハ記載ヲ怠リ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 四 第十四條第三項(第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者
- 五 第四十條又ハ第四十二條ノ規定ニ違反シタル者

附 則

法第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十一月三十日勅令第四百十三號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行)

法第三十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

法第四十條 勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

●退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領中ニハ少クトモ左ノ事項ヲ記載セシムルコト

イ 退職積立金トシテ積立ツベキ金額及之ヲ賃金ヨリ控除スル期日

ロ 退職手當ノ支給額

ハ 退職手當ヲ支給セザル場合又ハ減額シテ支給スル場合(昭和十一年十二月二十四日社會局勞働部長通牒)

法第四十一條 事業主及勞働者ノ出捐ニ係ル組合ガ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規定ヲ有スル場合ニ於テ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十一條ニ規定スル退職積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ組合ガ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ支給スベキ金額ヲ支給セザルトキハ事業主ハ組合ノ支給セザル金額ヲ勞働者ニ支給スベシ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

○則第三十七條 法第四十一條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業主ノ氏名及住所
 - 三 常時使用勞働者數
 - 四 退職手當ニ關スル規程
 - 五 組合ノ組織(組合規約又ハ之ニ準ズベキモノヲ添附スルコト)
 - 六 退職積立金ニ代ルベキ事項
 - 七 退職手當ノ支給ニ代ルベキ事項
- 法第四十一條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ
- 法第四十二條 事業主本法施行ノ際現ニ使用スル勞働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對スル退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規定ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第二十二條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ準用ス

退手法(附則)

○則第三十八條 法第四十二條ノ許可ノ申請ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 常時使用労働者數

四 法施行前ヨリ引續キ使用スル労働者數

法第四十三條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ

但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スベキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

法第四十四條 國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同ジ

法第四十五條 郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金ノ預入金

附 則 (昭和十六年三月法律第六十號)

本法ハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

施行令附則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

退職積立金及退職手當法適用後初テ第八條第二項ノ規定ニ依リ賃金ヨリ控除スベキ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

施行規則附則

本令ハ法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

施行規則附則(昭和十七年四月厚生省令第二十四號)

本令中第七條ノ改正規定ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用シ第十一條ノ二及第四十五條ノ改正規定ハ同年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○退職積立金及退職手當法ノ供託國債ニ

對スル權利ノ實行ニ關スル件 (昭和十一年十二月二十三日 勅令第四五〇號)

第一條 事業主支拂ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ退職積立金及退職手當

法第十三條第二項及第三項ノ供託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ有スル労働者ハ當該業事ノ所在

地ヲ管轄スル區裁判所ニ權利ノ實行ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ニ對スル裁判ハ非訟事件手續ニ依リ之ヲ爲ス

第二條 申立ニ對スル裁判ハ事業主ニ之ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ申立人又ハ事業主ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ有力ヲ有ス

第三條 申立ヲ理由アリタルトスル裁判ハ退職積立金及退職手當法第十三條第二項及第三項ノ供

退手法(訴訟)

託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ有スル勞働者全員ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス
申立人前項ノ裁判ノ告知ヲ受ケタル後ハ申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 前條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ公告ヲ以テ前條第一項ノ勞働者ニ對シ三十
日以内ノ一定ノ期間内ニ債權ノ申立ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ裁判所ノ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
裁判所第一項ノ催告ヲ爲シタルトキハ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ對シ國債ノ供託書及退職積
立金ニ關スル帳簿其ノ他ノ必要ナル書類ノ送付ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五條 第三條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ執達吏ヲシテ國債ヲ換價セシムルコトヲ
要ス

第六條 裁判所ハ第四條第一項ノ期間滿了後遲滯ナク配當表ヲ作ルコトヲ要ス

裁判所配當表ニ關スル陳述及配當實施ノ期日ヲ指定シタルトキハ第三條第一項ノ勞働者及事業
主ニ對シ各別ニ其ノ旨ヲ通知シ且之ヲ公告スルコトヲ要ス

第七條 配當期日ニ出頭セザル勞働者ノ債權、期日ニ於テ異議ノ完結セザル債權及退職積立金及
退職手當法第十二條ノ規定ニ依リ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ザル勞働者ノ債權ニ對スル配當額
ハ債權者ノ爲ニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第八條 國債換價及配當ノ手續ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟ヲ準用ス

第九條 前八條ノ規定ハ退職積立金及退職手當法第十三條第四項ノ規定ヲ準用スル同法第二十一
條第二項、第三十條第四項及第四十二條ノ權利ヲ實行スル場合ニ之ヲ準用ス

労働者災害扶助法

(昭和六年四月法律第五四號)
(昭和十年三月法律第一八號改正)

労働者災害扶助法施行令

(昭和六年十一月勅令第二七六號)
(昭和十五年九月勅令第六一五號改正)

労働者災害扶助法施行規則

(昭和六年十一月内務省令第三二號)
(昭和十一年十二月内務省令第五四號改正)

法第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

一 土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火薬類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

(イ) 國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事

(ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事並ニ此等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ依ル工事

(ハ) 其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四 船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ

労働者災害扶助法一條

依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ
五 前各號ニ掲グルモノノ外危険ナル事業又ハ衛生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定
スルモノ

主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂鑛ヲ採取スル事業及岩壁、波止場、停車場又ハ倉
庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限リ本法ヲ適用スルコトヲ得

△令第一條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(イ)ノ公共團體ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、學區並ニ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノ及其ノ組合
- 二 水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合
- 三 耕地整理組合及土地區劃整理組合並ニ其ノ聯合會

△令第二條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル規模
ノモノトス但シ軒高九米未滿ニシテ且建築面積三百三十平方米未滿ノ木造家屋ノ建築工事ヲ除
ク

- 一 使用労働者延人員千人以上ノモノ
- 二 請負ニ依ルモノニシテ請負金額五千圓以上ノモノ
- 三 火藥類、動力(一馬力以下ノ電動力ヲ除ク)ニ依リ運轉スル機械又ハ運搬ノ用ニ供スル軌道ヲ用フルモノニシテ使用労働者延人員三百人以上ノモノ
- 四 地上十米以上又ハ地下三米以上ニ於テ作業ヲ爲スモノニシテ使用労働者延人員三百人以上

ノモノ

工事着手前ニ於ケル豫定計劃ガ前項ノ規模ニ該當スルモノハ工事着手後之ニ該當セザルニ至リ
シ場合ト雖モ前項ノ規模ニ該當スルモノト看做ス

△令第二條ノ二 労働者災害扶助法第一條第一項第五號ノ事業ハ工場以外ニ於テ行フ船舶(木造
船舶ヲ除ク)ノ解體ノ事業トス

●工場法適用工場ノ職工カ工業主ノ指揮監督ノ下ニ勞務ヲ遂行スル爲負傷シ又ハ傷病ニ罹リタ
ルトキハ假令工場ノ區劃外ノ作業ナリト雖モ出張就業トシテ工業主ニ於テ扶助スヘキモノナ
ル旨大正十三年十二月四日社發一部第一二六號ヲ以テ通牒致シ置キ候處右出張就業ノ範圍ハ
工場作業ノ延長ト解セラルヘキモノ例ヘハ工場ニ於テ製作セル機械設備ノ取付及修理等工場
作業ノ附屬的作業ニ限定セラルヘキモノニ有之從ツテ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工場主カ
他ノ事業ヲ經營シ又ハ相當規模ノ工事ヲ請負ヒ職工ヲシテ之ニ從事セシムル場合ニ於テハ之
等職工ハ其ノ期間當該事業又ハ工事ニ使用セラル、労働者ニシテ工場ノ出張就業ニ從事スル
職工ト解スヘキモノニ無之候實際ノ取扱トシテハ工業主カ労働者災害扶助法第一條第一項第
二號(ハ)ノ工事ノ全部又ハ一部ヲ請負ヒ之ニ職工ヲ從事セシムルトキニ於テハ其ノ職工ハ之
ニ從事スル間労働者災害扶助法上ノ労働者トシテ其ノ業務上ノ傷病ニ付テハ工場法ニ依ラス
労働者災害扶助法ニ依リ扶助ヲ受クヘク從ツテ其ノ扶助責任ニ付テハ労働者災害扶助責任保
險法規ノ定ムル所ニ從ヒ保險セラレ保險金ノ支給アルヘキ義ニ有之候

労働者災害扶助法一條

工事ノ全部又ハ一部ヲ請負ヒ其ノ工事ニ同工場ノ職工ヲ使用スルトキハ其ノ職工ハ工事ニ從事スル期間中工場法ノ適用ヲ受ケス労働者災害扶助法ノ適用ヲ受クルモノナルモ健康保險法ノ被保險者タル職工ニ付テハ特ニ解雇手續ヲ採ラサル限リ引續キ被保險者タル資格ヲ保有スルヲ以テ健康保險法ニ依リ給付ヲ受クヘキ期間労働者災害扶助法上ノ給付ヲ受ケス從ツテ労働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險金ノ支給無ク又扶助支給ノ標準タル標準賃金ハ労働者災害扶助法施行令第十五條第一項第五號ニ依リ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタル標準報酬日額ニ依ルヘク從ツテ労働者災害扶助責任保險法ニ基ク保險金給付モ亦之ニ相應スルモノニ有之

尙當該工カ工場ニ於テ製作セルモノノ取付修繕等工場附隨作業ニシテ従業員全部カ職工トシテ工場法ニ依リ扶助ヲ受クヘキモノナルトキハ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニ該當セサルモノニシテ労働者災害扶助責任保險法ノ適用無之候

(昭和七年四月二十六日
社會局労働部長通牒)

●鑛業ニ關聯シテ行ハル、運搬作業、土砂採取作業、土木建築工事等ニ使用セラル、労働者ニ付テハ鑛夫ト一括シテ鑛業法ノ適用ヲ受ケシムル様其ノ扶助カ確實ニ實行セラルヘシト認めラル、場合ニハ成ルヘク鑛業附屬事業ノ鑛夫トシテ鑛業法ヲ適用スル様御措置相成度

追而鑛業附屬事業ノ範圍ニ付疑義ヲ生スル虞アル場合又ハ從來ノ取扱ヲ變更シタル場合等ニ於テハ關係地方長官ニ對シ鑛業法適用ノ範圍ニ付御通報相成度(昭和七年七月二十七日
社會局労働部長通牒)

●土木建築工事ニ附帶シテ行ハル、一般通路ニ依リ運搬作業ニ關シテハ昭和七年三月十九日收

勞第五八號ヲ以テ及通牒置候處當該工事ヨリ生スル不要土砂不要木片等ノ廢棄物ノ運搬作業ニシテ當該工事ノ進行ト共ニ必然的ニ之ト密接不可分ノ關係ニ於テ行ハル、モノナル限リ右運搬作業モ亦其ノ工事ノ一部ノ作業ナルヲ以テ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事中ニ包含セラル、モノニ付爲念(昭和七年十月二十六日
社會局労働部長通牒)

問 工場法適用工場ノ特設ニ係ル停車場附近ノ倉庫(工場トノ距離約四軒餘電車ニテ連絡ス)

ニ於テ工場ノ製品及原料等ノ貨物ノ積卸ヲ爲シ當時十數人ヲ使用スル事業場アリ之ニ從事スル労働者ハ工業主ノ常備労働者ニシテ常ニ工場勤務ノ職工ト交替シテ労働ニ従事スルモノナルヲ以テ工場ニ於テハ便宜上一様ニ職工トシテ取扱ヒ貨物積卸ニ因ル死傷事故ニ對シテモ工場法令施行當時ヨリ同法令ニ基キテ扶助ヲ爲シ來リタルモノナリ右ハ勿論工場ト分離シテ別箇ニ労働者災害扶助法ヲ適用スヘキ事業ナリト思惟セラル、モ工業主ニ於テハ扶助法ノ適用ニ依リ從來同一視來リタル職工ニ對シ其ノ死傷事故發生ノ場所ニ因リ扶助料ノ内容ニ差別ヲ設ケテ支給スルコトハ對職工(労働者ヲ含ム)關係上之ヲ好マス又倉庫ニ從事スル労働者ハ全部健康保險法ノ被保險者タル關係上從來通りノ取扱方ニ付希望シ居ル次第ナルカ右扶助法ノ適用ヲ如何ニ取扱フヘキヤ

答 工場附屬ノ倉庫トシテ從來ノ通工場法適用相成可然(昭和七年二月十七日
社會局労働部長通牒)

問 法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ後片附行爲ハ當該工事ニ當然包含セラルヘキモノニシテ工事引渡ノ前後ヲ問ハサルモノト解スヘキヤ

又ハ工事ノ引渡ヲ以テ工事ノ終了トシ引渡後ノ後片附行爲ハ契約内ニ包含セラルルモノナ

労働者災害扶助法一條

ルト否トヲ問ハス各個ニ觀察シ其ノ規模ニ依リ各々土木又ハ工作物ニ關スル工事トシテ本法ノ適用ヲ決スベキヤ

答 後片附作業ハ其ノ主タル工事ニ附隨シテ行ハルル限リ工事引渡ノ前後ヲ問ハス當該工事ニ包含セラレルモノトス(昭和九年五月十六日 社會局労働部長通牒)

問一、第一條第一項第五號ニ謂フ所ノ危険ナル事業又ハ衛生上有害ナル事業(勅令指定事項)ノ範圍如何

二、第一條第二項ニ謂フ所ノ貨物取扱ノ事業ニ付本法ヲ適用セラル、コトアルヘキ地域(主務大臣決定事項)ノ範圍如何

答 一、第一條第一項第五號ノ事業ハ將來適用ノ必要アリト認メタルトキニ指定セラル、モノトス

二、第一條第二項ノ地域トハ石切業、停車場、港灣ニ於ケル仲仕業等ニシテ適用範圍ヲ労働者十人以上ト限界シタル爲適用事業ト非適用事業トカ併存シ法ノ施行上圓滿ヲ缺ク處アル場合ニ於テ之等十人未滿ノ事業ニ本法ヲ施行スルコトカ公平ナリト認メラル地方ヲ謂フ(昭和六年六月九日 社會局労働部長通牒)

問 労働者災害扶助法中労働者ノ意義ニ付キ地方鐵道軌道ニ於テ左ノ通解釋可然哉

一、屋外作業ニ從事スル現業従事員但シ監督、計畫ノ任ニ當ル者ヲ除ク

二、除雪人夫、水害防備人夫等所謂狩出ニカ、ル者ハ本法ノ適用ヲ受ケサルコト

答一、労働者災害扶助法上地方鐵道軌道ニ於ケル労働者トハ鐵道軌道ノ運輸及之ト密接ナル

作業ニ從事スル總テノ者ヲ謂ヒ單ニ其ノ作業スル場所ノ屋内ナリヤ屋外ナリヤニ依リテ之ヲ區別スルコトヲ得ス又監督、計畫ノ任ニ當ル者ト雖モ專ラ現場監督即チ勞役ヲ直接指揮監督スルノ任ニ在ル者ハ之ヲ本法ニ所謂労働者ト爲スヘク間接的總括的ノ監督監視ノ任ニ在ル技師等ハ之ニ該當セサルヘシ

二、青年團在郷軍人其ノ他地方有志カ山崩、洪水、大雪等ニ際シ警備復舊等ノ任ニ當ル場合ニ於テ事業主ヨリ賃金ヲ支拂フコトナク單ニ事業主ノ一方的ニ定ムル謝禮ヲ支出スルニ留マル場合ニ於テハ本法ノ労働者ト看ルヘキニ非サルヘキモ事業主カ雇傭契約、勞務供給契約等ニ基キテ水害防備人、除雪人夫等ヲ使用シ之等ノ者カ其ノ報酬トシテ賃金ヲ受クル場合ニ於テハ之等ノ者ハ本法ノ労働者トス(昭和七年一月七日 社會局労働部長通牒)

問一、或會社ヨリ鐵道積込ヲ請負タル者カ其ノ専務トシテ十人以上ノ荷馬車輓ヲ使役シ居レルカ同荷馬車輓カ積込驛ニ於テ仲仕ト共同作業ヲナス者トナササル者ト在リ扶助法ノ適用アリヤ

二、或會社ノ全部注文ニ依ル石灰石採取業者ノ専務トシテ十人以上使役セラル、船荷業者カ採取場タル島ヨリ會社迄送荷スル者カ積卸ニ關係スル場合ト否トアリ法ノ適用如何

答一、積込驛ニ於テ仲仕ト共同作業ヲ爲ス荷馬車輓カ仲仕ト同一ノ事業主ニ使用セラレ其ノ指揮命令ノ下ニ貨物積卸作業ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ荷馬車輓ニモ扶助法ノ適用アリ反之荷馬車輓カ仲仕ト異ル事業主ニ使用セラレ又ハ全然獨立ニ事業ヲ營ミ荷馬車輓ノ積込驛ニ於ケル貨物取扱作業カ運搬作業ノ準備又ハ完了トシテ行ハル、モノト解セラル

労働者災害扶助法一條

ル場合ニハ扶助法ノ適用無之

二、右ト同一ノ主旨ニ解シ可然(昭和七年四月十二日
社會局労働部長通牒)

問 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ノ直營ニ係ル工事例之電氣事業者カ電氣電熱等ノ申込ニ應シ屋内配線ニ施行スルハ素ヨリ發電所ノ新設又ハ新設發電所内ノ機械据付工事等ヲ施行スルトキハ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ所謂「其ノ事業ノ爲ニスル直營工事」ニ該當シ労働者災害扶助責任保險法適用工事ニ在ラストノ説アルモ右ノ所謂「其ノ事業ノ爲ニスル直營工事」ニ該當スルヤ否ヤハ貴部御編纂ニ係ル「労働者災害扶助法令及労働者災害扶助責任保險法令說明」第四十頁第八行目以降ノ主旨ヨリ考察スルモ一定ノ場所ニ於テ労働者ノ使用上獨立ノ一單位ヲ爲ス工事ナリヤ否ヤニ依リ決定スヘキモノニシテ即チ獨立ノ一單位ヲ爲ス工事ナルトキハ之ニ該當セサル工事トシテ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ニ依リテ法ノ適否ヲ決定シ然ラサルトキハ(ロ)ノ適用アルモノト解スヘク被存候得共些カ疑義有之候條右「其ノ事業ノ爲ニスル直營工事」ノ解釋方御指示相成度

答 労働者災害扶助法第一條第二號(ロ)ノ所謂「其ノ事業ノ爲ニスル直營工事」ニ該當シ労働者災害扶助責任保險法適用工事ニ在ラス(昭和九年十月一日
社會局労働部長通牒)

問 現下ニ於ケル労働者ノ拂底ヲ補充センカ爲土木建築請負業者中刑務所ヨリ囚人ノ供給ヲ受ケ之ヲ自己請負ニ係ル土木工事ニ使役シ居ルモノ漸次多カラントスル現況ニアルカ該囚人ハ労働者災害扶助法上ニ於ケル労働者ニアラサルハ勿論ナルモ之ヲ労働者ト見做ス場合

ハ一定ノ規模ニ該當スルトキハ労働者災害扶助法令ノ適用ヲ受ケ事業主ニ於テ労働者災害扶助責任保險法令ニ依ル保險契約ノ手續ヲ爲スヘキ要アリテ左記ニ關シ取扱上疑義相生シ候條何分ノ御指揮方相煩度此段及稟請候也

一ノ土木工事ニ付労働者ノミヲ以テ計算スルトキハ使用労働者延人員一千名以上(又ハ一定ノ機械、軌道其他ノ制限アル場合ハ同三百名以上ノトキ)ニ達セサルモ該工事ニ囚人ヲ使役スルトキ労働者災害扶助法施行令第二條各號ノ一ニ該當スル規模ノモノナル場合ニ於テハ囚人ヲ労働者ト見做シテ該労働者ノミニ對シ扶助ヲ適用シ事業主ニ保險契約ノ手續ヲ爲サシムヘキモノナリヤ

答 囚人ハ労働者災害扶助法施行令第二條ノ適用ニ關シテハ労働者ト見做スヘカラサル儀ト御了知相成度

追而工事着手前ニ於ケル豫定計畫ニ於テハ囚人使用ノ見込アル場合ニ於テモ總テ労働者ヲ使用スルモノトシテ届出ツル線指導相成度(昭和十四年十月三十一日
厚生省労働局長通牒)

問 労働者災害扶助法施行令第一條第一號ノ「市町村内ノ區」ハ市制第六條ニ基キ指定セラレタル市ノ區並財產區ヲ意味スルモノニシテ町村制第六十八條ニヨリ處務便宜ノ爲設ケラレタル町村内區ヲ包含セサルモノト存候モ疑義有之候條何分ノ御回示相煩度候

答 貴見ノ通ニ有之(昭和八年三月十四日
社會局労働部長通牒)

法第二條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベ

労働者災害扶助法二條

△令第三條 事業主ハ労働者カ業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本法ニ依リ扶助ヲ爲スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ事業主ハ扶助金額ヲ控除スルコトヲ得

- 前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ請フ
 - 一 負傷ニ因リ發シタル疾病
 - 二 異物ニ因ル眼疾患、重量物體ノ取扱ニ因ル腿鞘炎其ノ他災害ニ因ル疾病
 - 三 毒性、劇性又ハ刺激性料品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍
 - 四 氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病
 - 五 有害ナル光線ニ因ル眼疾患
 - 六 其ノ他厚生大臣ノ指定スル疾病
- 第一項ノ扶助義務ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外労働者ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ
- 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ニ付テハ本令ニ依ル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ
- 則第五條 労働者業務上ノ負傷又ハ労働者災害扶助法施行令第三條第二項ノ疾病ニ因リ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スベキトキ又ハ死亡シタルトキハ事業主ハ遲滞ナク様式第一號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ
- 労働者災害扶助法施行令第三條第六號ノ疾病ハ左ノ通トス

(昭和十年十一月二十八日
内務省告示第五九九號)

- 一 炭疽病
 - 二 硅肺
 - 三 「ワイル」氏病
 - 四 恙虫病
 - 五 第二度以上ノ凍傷
 - 六 日射病及熱射病
- △令第四條 労働者負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ事業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ
- △令第五條 労働者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ事業主ハ労働者ノ療養中一日ニ付標準賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ニシテ繼續使用セラルルコト十日未満ノ者ニ付テハ事故發生ノ日ヨリ起算シ三日間ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ
- 労働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テハ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ標準賃金ノ百分ノ二十トス
- △令第六條 労働者ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ事業主ハ別表(本書第四編工場法ノ第六四頁乃至七一頁參照)ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ標準賃金百八十分(其ノ金額男子ニアリテハ百五十

労働者災害扶助法二條

圓女子ニアリテハ九十圓ニ滿チザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支
給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金
額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級
 - 二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級
 - 三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級
- 別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害
ニ應ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ
加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料
ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

△令第七條 勞働者重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且事業主其ノ事實ニ付地方長官
(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ認定ヲ受ケタルトキハ休業扶助料及障害扶助料ハ
之ヲ支給スルコトヲ要セズ

△令第八條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ
維持シタル者ニ標準賃金四百日分(其ノ金額男子ニアリテハ三百二十圓、女子ニアリテハ二百

圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

△令第九條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ
依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ標準賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザル
トキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スベシ

△令第十條 第四條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベ
シ但シ本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回以上之ヲ支給スベシ

障害扶助料ハ勞働者ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ事業主ガ引續キ雇傭
スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ勞働者ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ
事業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回
ニ分割シテ支給スルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險セラルル場合ニ於テハ第二項但書及前項ノ規定ハ之ヲ適
用セズ

○則第六條 事業主扶助ヲ爲シタルトキ又ハ勞働者災害扶助法施行令第十條第二項但書ノ規定ニ
依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第二號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

△令第十一條 第四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支
給ヲ受クル勞働者療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セザルトキハ事業主ハ標準賃
金五百四十日分(其ノ金額男子ニアリテハ四百三十圓、女子ニアリテハ二百七十圓ニ滿チザル

トキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓ノ打切扶助料ヲ支給シ以後前七條ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ扶助料ハ第七條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ二分ノ一トス

△令第十二條 別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受クル勞働者扶助ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ事業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スベシ

○則第一條 勞働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業主ハ扶助ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル扶助代理人ヲ選任スルコトヲ得

事業主ガ事業ノ行ハルル場所ニ居住セザルトキ又ハ事業主法人ナル場合ニ於テ主タル事務所ガ事業ノ行ハルル場所ニ在ラザルトキハ扶助代理人ヲ選任スベシ

前二項ノ規定ニ依リ扶助代理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滞ナク地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出ヅベシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ扶助代理人ノ改任ヲ令ズルコトヲ得
扶助代理人ハ本則ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

法第三條 前條ノ事業主トハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ全部又ハ一部分ガ數次ノ請負ニ依リ爲サルル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負

人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

法第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ專ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦其ノ事業ニ付事業主トス船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力ニ依リ運搬スル揚重機ヲ用フルモノニ限ル)ニシテ注文ニ依リ爲サルモノ又ハ同項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其ノ注文者(數次ノ注文ニ依ル場合ニ於ケル上級注文者ヲ含ム)モ其ノ注文ニ依ル作業又ハ工事ニ關シ亦同ジ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ニ對シ、尙數次ノ注文ニ依ル場合ニ於テハ其ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得前條第三項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ適用ス

法第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

事業主及勞働者ノ出捐スル共濟組合、勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

△令第十三條 事業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業主及勞働者ノ出捐スル共濟組合

ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ
地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

△令第十四條 勞働者災害扶助責任保險法第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ガ扶助ヲ受クベキ者ニ
保險金ヲ支拂ヒタルトキハ事業主ハ其ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セ
ズ

法第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

法第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

△令第十五條 標準賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事又ハ同號(ハ)ノ工事ニ使用セ
ラルル者ニ付テハ一日ニ付十六歳未満ノ者ハ五十五錢、十六歳以上ノ女子ハ八十錢、其ノ他
ノ者ハ一圓三十錢

二 勞働者災害扶助法第一條第一項第四號ノ事業ニ使用セララルル者ニ付テハ事故發生前(賃金
締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)一月間當該事業ニ繼續使用セラレタル同種勞
働者ノ賃金總額ヲ其ノ勞働者ノ數ニ其ノ期間ノ日數ヲ乗ジタル數(業務上負傷シ又ハ疾病ニ
罹リ療養ノ爲休業シ賃金ヲ受ケザル日數ヲ控除ス)ヲ以テ除シタル金額

三 前二號以外ノ事業ニ日日雇入れラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セ
ラルル者ニ付テハ事故發生ノ日ニ於テ當該事業ニ使用セラレタル同種勞働者ノ平均賃金ノ三
分ノ二

四 前三號ニ該當セザル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日
以前)三月間(雇入後三月ニ滿チザルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ
以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ
除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ズ

五 健康保險法ノ被保險者ニ付テハ前四號ノ規定ニ拘ラズ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタ
ル標準報酬日額

六 前各號ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト能ハザル者ニ付テハ地方長官ノ定ムル金額
厚生大臣ハ業務ノ種類又ハ地域ヲ限リ前項第一號ノ金額ヲ増加又ハ減少スルコトヲ得

第一項第四號ニ規定スル期間中ニ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間アルト
キハ其ノ日數及其ノ期間中ニ於ケル賃金ハ第一項第四號ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

第一項第四號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲
ニ對スル手當ヲ包含セズ

△令第十六條 前條ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト不適當ナル場合ニ於テハ事業主ハ地方
長官ノ認可ヲ受ケ別段ノ標準賃金ヲ定ムルコトヲ得

△令第十七條 工場法施行令第十條乃至第十二條、第十三條ノ二、第十五條及第十八條ノ規定ハ
本令ノ扶助ニ付之ヲ準用ス

△令第十八條 國ノ直營スル事業ニ於ケル勞働者ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

○供給勞働者扶助令 (昭和七年一月七日)

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ職工及鑛夫並ニ勞働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ勞働者ニシテ勞務供給契約ニ基キ政府ノ使用スル者業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ政府ハ勞働者災害扶助法施行令第四條乃至第十二條及第十五條乃至第十七條ノ規定ニ準シ扶助ヲ爲ス但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ地方長官ニ屬スル職務ハ所轄官廳之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○則第二條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備置クベシ但シ其ノ附近ニ適當ナル施設ノ利用シ得ベキモノアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

○則第三條 事業主ハ其ノ住所氏名、扶助ニ關スル事項ノ要旨及扶助代理人アルトキハ其ノ住所氏名ヲ事業ノ行ハルル場所ノ見易キ箇所ニ揭示スベシ

前項ノ揭示ニハ勞働者災害扶助法第三條第二項ノ元請負人又ハ同法第四條第一項ノ注文者アルトキハ其ノ住所氏名ヲモ記載スベシ

○則第四條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル職タル事務所ニ勞働者ノ扶助ニ關スル書類ヲ備置クベシ前項ノ扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

●勞働者災害扶助法施行規則第一條第二項ニ於テ扶助代理人選任方ヲ規定セラレタルハ扶助ノ實行並ニ法令ニ依ル種々ノ手續履行上支障ナカラシメシムコトヲ期シタルモノニ有之同項「事業主事業ノ行ハルル場所ニ居住セザルトキ又ハ事業主法人ナル場合ニ於テ主タル事務所ガ事業ノ行ハルル場所ニ在ラザルトキ」トハ事業主ノ住所又ハ法人ノ主タル事務所々在地方事業現場ト道府縣ヲ異ニスルカ又ハ同一府縣内ニ在ルモ交通上不便ナル場所ニ在ル場合ヲ指スモノト解スヘク從テ事業主ノ住所又ハ主タル事務所々在地方同一道府縣内ニ在リテ交通其ノ他ノ關係上扶助義務及諸手續履行ノ責ニ任シ支障ヲ來ササルヘシト認メラル、ニ於テハ扶助代理人ノ選任ヲ強制セサルヘク尙又同一人ヲシテ同一道府縣内ニ於ケル二以上ノ事業ニ付扶助代理人ニ選任スルコトモ差支ナキ儀ト御了知相成度(昭和七年一月十九日 社會局勞働部長通牒)

●七月三十一日内務省令第四十八號ヲ以テ勞働者災害扶助法施行規則中改正相成候處様式第一號乙ニ付テハ從來死傷報告中ニハ療養擔當者ノ住所氏名記載ナク勞働者ニ付キ保險金給付ノ原因タル扶助ノ内容ヲ調査スルニ困難ヲ生シタル實情ニ鑑ミ殊ニ將來視察員ヲ設置セラルルカ如キ場合特ニ此ノ必要有ルヲ認メラレ又様式第二號甲ニ付テハ健康保險法ノ改正ニ依リ勞働者災害扶助法ノ適用事業ニシテ健康保險ノ強制加入トナリタルモノ有之依テ之カ様式ノ改正ヲ見タル義ニ有之候條左記ニ依リ御取扱ノ上當業者ニ趣旨周知方御配慮相煩度

記

一、死傷報告ニ付テ

一、大體休業四週間以上ノモノニ付テハ臺帳ヲ作成スルカ又ハ死傷病者票ニ療養擔當者ノ

勞働者災害扶助法四條

住所氏名ヲ記入シ置キ傷病ノ部位又ハ經過等ニ照シ休業見込日數ノ過長ト認メラルルモ
ノ或ハ果シテ勞務不能ノ爲休業ヲ要スルモノナリヤ等ニ付隨時調査スルコト

二、休業八日以上ノ見込ノ者ノ休業見込日數カ三週間以上延長シタルトキ又ハ療養擔當者
ヲ變更シタルトキニ提出シタルモノニ付テハ社會局ニ送付スルコトヲ要セス

三、負傷當時ニ於テ單ニ應急處置ヲ爲シタル者ノ氏名ハ療養擔當者トシテハ記載セサルコ
ト

四、現在ノ用紙ヲ使用スル場合ニ於テハ欄外適當ノ個所ニ之ヲ記入セシムルコト

二、扶助報告ニ付テ
一、健康保險ニ於テ爲シタル給付ハ届出ヲ要セス事業主ノ届出ヲ要スルハ左ノ場合ニ限ル
モノトス

(イ) 健康保險ノ被保險者ニ非サル勞働者ニ對スル扶助
(ロ) 健康保險ノ被保險者タル勞働者ニ對シ支給シタル障害扶助料、遺族扶助料又ハ打

切扶助料及ヒ保險給付期間ヲ超エテ支給シタル療養費又ハ休業扶助料
(ハ) 健康保險法ニ依ル傷病手當金又ハ埋葬料ヲ受クル者ニ對シ補給シタル休業扶助料

又ハ葬祭料(備考欄ニ保險給付補給トシテ記載スルコト) (昭和十年八月八日 社會局勞働部長通牒)

●勞働者災害扶助法施行令第十六條ノ規定ニ依リ別段ノ標準賃金ニ付認可ヲ受ケタル場合何レ
ノ期日ヨリ別段ノ標準賃金ニ據ルヘキヤニ付多少疑義有之候處右ハ當該認可ノ指令ノ發セラ
レタル日(認可ニ於テ特ニ發令ノ日以後ニ於ケル期日ヲ定メ效力發生ノ始期ト爲シタルトキ

ハ其ノ日)以後ニ生スル扶助料(休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料等具體的扶助料ニシ
テ扶助ノ原因タル災害事故ニ非ス)ニ付別段ノ標準賃金ニ據ルヘキ儀有之候尙第十五條第二
項ニ依リ同條第一項第一號ノ賃金ヲ増加又ハ減少シタル場合モ同様ト御了知相成度
追而勞働者災害扶助責任保險法適用工事ニ付右ノ標準賃金ヲ認可シタルトキハ其ノ都度左
記事項御報告相成度

記

一、保險證書記號番號又ハ保險契約申込年月日
二、保險契約者又ハ保險契約申込者ノ住所氏名

三、工事ノ場所及名稱
四、勞働者災害扶助法施行令第十六條ニ依リ認可シタル標準賃金ノ額

五、右ノ認可指令ヲ發シタル年月日
六、別段ノ標準賃金ニ據ルヘキ期日ヲ定メタルトキハ其ノ年月日 (昭和七年六月二十二日 社會局勞働部長通牒)

問 扶助代理人ノ施行規則第一條第一項ノ權限及同規則上ノ義務ハ事業ノ繼續スル間ノミニ
限リ假令繼續扶助ヲ要スヘキ勞働者事業ノ行ハル、場所ニ居住スル場合ト雖モ其ノ事業
(工事)ノ終了ト共ニ其ノ資格消滅シ爾後其ノ選任ヲ強制セラレサルモノト解スヘキヤ又ハ
扶助ニ關スル手續ノ履行上、事業終了後ト雖モ其ノ選任ヲ強制セラレヘキモノト解スヘキ
ヤ

答 扶助代理人ハ解任セラレサル限リ事業終了後ト雖モ當該事業ニ於ケル扶助ニ關シ一切ノ
勞働者災害扶助法四條

權限ヲ有シ及ヒ法令ノ規定スル義務ヲ負フヘキモノトス尤モ事業終了後ハ繼續扶助ヲ受ク
ル者ノ有無ニ拘ラス施行規則第一條第二項ノ適用ハ無之ニ付選任ヲ強制セサル儀ニ有之
(昭和九年五月十六日
社會局労働部長通牒)

問 所謂請負業ト稱スル者ニシテ營業ノ規模其ノ他ノ事情ヲ考察スルニ其ノ實體ハ單ナル賃
金ノ算出算定ノ手段乃至方法ニ過キサル場合ニ在リテハ法ニ所謂事業主ニ非スト解シ支障
ナキヤ

答 見解ノ通(昭和七年四月十四日
社會局労働部長通牒)

問 各勞務出資ノ仲仕組合員中ヨリ業務執行者ヲ定メ令第十六條ノ認可申請アルモ本組合ハ
民法上ノ組合ニシテ法人ニ非ス從テ組合ト其ノ組合員乃至勞働者トノ間ニハ使用關係ヲ抽
出シ難キ状態ニ在ルトキハ法ノ所謂事業主トシテノ資格ナキモノトシテ取扱支障ナキヤ

答 然リ此ノ如キ場合ニ於テ此ノ組合ニ繼續シテ貨物ノ取扱ヲ注文スル一定ノ注文者アルト
キハ注文者ヲ以テ事業主ト解スヘキ場合多カルヘシ(昭和七年四月十四日
社會局労働部長通牒)

問 「注文」及「事業」が専ラ同一注文者ノ注文ニ依リ爲サル、モノナルトキノ意義並ニ注文ト
當事者間ニ於ケル契約トノ關係如何

答 第四條ハ例ヘハ「セメント」工場附屬ノ採石ノ事業、工場内ニ於ケル貨物ノ積卸事業ヲ工
場經營者カ直營セス他ノ者ヲシテ請負ハシムル場合ノ如キ勞働者ヲ使用スル者ハ請負人ナ
ルモ請負人ハ注文主タル工業主ニ專屬關係ニアリ經濟上工業主ノ事業ノ一部ヲ爲ス場合ニ
適用アルモノトス(昭和六年六月九日
社會局労働部長通牒)

問 勞働者災害扶助法施行令第五條第三項ノ「本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者」トハ戶籍
上ノ關係ヲ要スルヤ、又事實上一家中ニ同居ヲ要スルヤ、又本籍地ノ家族ニ送金スルカ如
キ場合又ハ家計ノ補助ハ要スルモ未ダ出稼先ヨリ送金ヲ爲シタルコトナキカ如キ者ハ如
何、尙次男、三男等ノ獨身者カ他府縣ニ出稼シ營テ郷里ノ實家ニ送金シタルコトナキ者ハ
如何

答 本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ範圍ニ付テハ

- (1) 戶籍上ノ關係ハ間ハサルモ家族トシテノ緣故關係アルコトヲ要ス
- (2) 原則トシテ居住ヲ共ニスルコトヲ要スルモ單ニ出稼等ノ爲一時其ノ家族ト共ニ居住ス
ルコトヲ得サルカ如キ事情ニ在ル爲居住ヲ共ニセサル者ハ之ヲ包含スルモノトス、次男、
三男、娘等ノ繼續ノ出稼ノ場合ノ如ク單ニ其ノ所得ノ餘裕ヲ以テ任意ニ家計ノ補助ヲ爲
スニ止ル場合ニ於ケル國元ノ家族等ハ包含セサルモノトス(昭和八年十月三日
社會局労働部長通牒)

問 三日目毎ニ繼續出働スルモノカ假ニ本月一日ヨリ出働シ十日目毎ニ負傷シタリトセハ
(事實一日、四日、七日、十日ノ四日間ノ就業ナリ)同令第五條ノ待期ナク即日ヨリ休業扶
助料ヲ支給スヘキモノナリヤ

答 同令第五條第一項但書ニ所謂繼續使用セラル、者トハ當該事業ニ於ケル休業日ヲ除キ毎
日繼續シテ使用セラル、者ニシテ例示ノ如ク三日目毎ニ出働スルカ如キ者ハ所謂繼續使用
セラル、コト十日未滿ノ者ニ該當スルモノトス(昭和七年三月十九日
社會局労働部長通牒)

問 管下鐵道工業株式會社所屬ノ事業中災害保險ノ適用ヲ受ケツ、アル隧道工事アリ假ニ此
勞働者災害扶助法四條

ノ事業ヲAト稱シAヨリ數里ヲ隔ツル箇所ニ同會社所屬ノ鐵道工事ニシテ災害保險ノ適用ナク扶助法ノ適用ヲ受クル事業アリ假ニ之ヲBト稱スA所屬ノ勞働者(坑夫)ニシテ會計補助事務(帳附)ヲ兼掌シ居ル者カB所屬ノ勞働者ニ支拂フヘキ賃金貳千餘圓ヲA事務所ヨリBニ携行スヘキ命ヲ受ケ會社常備トラックニ便乘疾走シタルニ途中運轉手ノ過失ニヨリ約十尺ノ崖下ニ車體ト共ニ轉落シ休業約五十日ヲ要スル重傷ヲ負ヒタル事案アリ

右勞働者ノ負傷ハ業務上ト見ルヲ得ベキヤ

尙自動車運轉助手モ受傷病院ニ收容シタルモノナルカ事業專屬勞働者トシテノ業務上ノ負傷ト解シ得ヘキヤ

答 孰レモ業務上ノ事由ニ因ル負傷ト御了知相成度(昭和八年二月二十日 社會局勞働部長通牒)

問 扶助責任保險法ノ適用ヲ受クル鐵道工事ニ於テ「セメント」其ノ他ノ物資ノ運搬ヲ爲サシムル爲貨物自動車營業者ヲ專屬トシテ雇上ケ運搬數量ニ應ジテ賃金ヲ支拂フコト、シ運轉手及自動車ノ管理經營ハ該營業者ノ計算ニ於テ之ヲ爲シツ、アリ

右營業者當日ノ運搬業務ヲ終了歸宅シタル後午後七時半頃翌日ノ運搬業務ニ付打合ノ爲メ宿舍ヨリ約一丁ヲ隔ツル事務所ニ徒歩ニテ歩行中前方ヨリ疾走シ來リタル無燈ノ自轉車ニテ腹部ヲ強打セラレ昏倒シ即時病院へ收容シタルモ腹膜炎ヲ併發シ死亡シタル事案アリ右ハ業務上ニ因ル死傷トハ認メ難キヤニ考ヘラル、モ翌日ノ運搬業務ヲ前日中ニ打合セスルヲ例トシ事業主モ之ヲ容認シ來リタル點ヨリ見テ之ヲ業務上ニ因ル死傷ト解スヘキモノナルヤ

答 本件ノ如キ自宅ヨリ作業場、作業事務所其ノ他事業用施設ヘノ往復途中ニ於ケル災害ニ

因ル死傷ハ業務上ノ死傷ニ該當セサル義ニ付御了知相成度(昭和七年十一月三十日 社會局勞働部長通牒)

問 勞働者某ハ本年五月十九日右大腿骨復雜骨折其ノ他ノ負傷ヲナシ入院加療ニ依リ骨折ノ癒着略々完全トナリタルヲ以テ八月三十一日退院其ノ後松葉杖ニテ通院加療ノ傍溫泉療養(現住所ハ溫泉場)中雨天ノ爲メ道路ニ於テ過ツテ轉倒シ癒着部再度完全骨折ヲ起シ再入院ヲ要スルニ至リタルモノニ有之右ハ本人ノ過失ニ依リ症狀ヲ悪化セシメタルモノニシテ前ノ傷害ノ延長トシテ引續キ扶助(保險ニ依リ療養ノ給付)スヘキモノト思料セラレ候得共一應御意見拜承致度

答 御見解ノ通ニ有之(昭和十年十一月八日 社會局勞働部長通牒)

問 大阪府直營土木工事從業中ノ勞働者落雷ノ爲死亡セリ此ノ場合業務上ノ死亡ト解スヘキヤ否ヤ

答 業務上ト認ム(昭和八年八月十九日 社會局勞働部長通牒)

問 勞働者災害扶助法施行令第十六條ニヨリ標準賃金ノ認可ハ法人格ヲ有セサル團體又ハ民法ノ組合ニモアラス單純ナル荷捌同業組合ト云フカ如キ申合組合(組合ノ存在ハ其ノ地方住民官公吏ハ之レヲ知り日常取引ヲ行フ)ヨリ組合名儀ニテ組合員連署シテ標準賃金ノ認可ヲ申請シ來リタル場合認可シ得ルヤ

答 人格ノ有無ヲ問ハス同業者ノ組合ヨリ組合員連署シテ認可申請シタル場合之ニ對シ認可シテ差支ナシ(昭和七年十一月十六日 社會局勞働部長通牒)

法第五條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衛生ニ

關シ必要ナル事項ヲ事業主又ハ勞働者ニ命ズルコトヲ得

法第六條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

○則第七條 事業主ハ毎年十月末日迄ニ様式第三號ニ依リ十月一日現在ニ於ケル勞働者數ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

○則第八條 第一條乃至第三條、第五條乃至第七條ノ規定ニ於テ事業主トアルハ勞働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニハ下請負人タル事業主、同法第四條第一項ノ場合ニハ勞働者ヲ使用スル事業主トス

○則第九條 事業ノ行ハルル場所ガ二以上ノ府縣ニ亘ル場合ニ於テハ本則ニ依ル届出ハ其ノ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

法第七條 事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

法第八條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

●勞働者災害扶助法第七條ニ所謂「資力」ノ解釋ニ就テハ積極的財産アル場合ノミナラス融通能力アル場合ヲモ包含スルモノト解シ居タル處往々積極的財産アル場合ノミニ限ル旨解釋セル尙有之哉ニ仄聞セルヲ以テ司法省宛照會致候處左記ノ通回答有之候ニ付爲念通知致候也

記

法第七條ニ所謂資力トハ積極的財産ノミナラス融通能力アル場合ヲモ指稱スルモノト思考致候(昭和九年六月二十五日 社會局勞働部長通牒)

○則第十條 第一條第二項若ハ第三項又ハ第二條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

法第九條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第十一條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

法第十條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

○則第十二條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法第十一條 本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

△令第十九條 勞働者災害扶助法第十一條ノ公共團體ハ道府縣又ハ市町村ニ準ズベキモノトス

勞働者災害扶助法五條—十一條

△令第二十條 本令中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

○則第十三條 本則中扶助代理人ニ關スル規定及事業主ニ適用スベキ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用セズ

○則第十四條 本則中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十年三月)
(法律第十八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十二月勅令第四四六號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

勞働者災害扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始マリタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル、但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第四條ノ三ノ規定ヲ適用ス

勞働者災害扶助責任保險法 (昭和六年四月一日) (法律第五五號)

勞働者災害扶助責任保險法施行令

(昭和六年十一月二十八日勅令第二七七號)
(昭和十五年九月十八日勅令第六一四號改正)

勞働者災害扶助責任保險法施行規則

(昭和六年十一月二十八日內務省令第三二二號)
(昭和十五年九月十八日厚生省令第三五號改正)

法第一條 政府ハ本法ニ依リ勞働者災害扶助責任保險ヲ管掌ス

法第二條 勞働者災害扶助責任保險ニ於テハ勞働者災害扶助法、工場法又ハ鑛業法ニ基ク扶助責任ヲ保險スルモノトス

扶助責任ノ保險ヲ付スベキ事業ノ種類、保險スベキ扶助責任ノ範圍及保險料率、保險料納付期日其ノ他保險料ニ關スル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第一條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル事業ハ勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事(以下(ロ)ノ工事ト稱ス)及同號(ハ)ノ工事トス
(ロ)ノ工事ニ於テハ工事ノ注文ヲ受ケタル者ヲ以テ勞働者災害扶助責任保險法第三條ノ事業主トス

前項ノ場合ニ於テ(ロ)ノ工事ノ全部又ハ一部分ガ數次ノ注文ニ依リ爲サルトキハ注文ヲ受ケタル最上級者ヲ以テ事業主トス

責任保險法一條—二條

労働者災害扶助責任保険法第三條ノ規定ニ依リ政府ト保険契約ヲ締結スベキ者ハ工事ノ開始前十四日迄ニ保険契約ノ申込ヲ爲スベシ但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ其ノ後ニ於テ保険契約ノ申込ヲ爲スコトヲ妨ケズ

△令第二條 保険スベキ扶助責任ノ範圍左ノ如シ

- 一 療養費中五圓ヲ超ユル部分
- 二 休業扶助料中四日以後ノ休業ニ付支給スル部分
- 三 障害扶助料
- 四 遺族扶助料
- 五 打切扶助料

△令第三條 前條第一號ノ療養費ノ範圍ハ左ニ掲グル療養ノ費用トス

- 一 診察(扶助請求ニ必要ナル診斷書意見書等ノ作成ヲ含ム)
 - 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
 - 三 處置及手術(齒科補綴ヲ含ム)
 - 四 物理的治療
 - 五 病院收容
 - 六 看護
 - 七 移送
- 前項ノ療養ノ費用ハ政府ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算定ス

第一項第一號乃至第五號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ受クルモノニ限ル
第一項第四號乃至第七號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル

●労働者災害扶助責任保険法施行令第三條第三項ノ政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ハ左ノ通トス(昭和六年十二月十四日 内務省告示第二八一號)

- 一 健康保険法施行令第七十五條ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師
- 二 昭和二年勅令第二百六十八號健康保険ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件第四條ノ規定ニ依リ内務大臣(厚生大臣)ノ定メタル病院

○則第九條 保険金受取人労働者災害扶助責任保険法施行令第三條第三項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

- 一 保険證書ノ作成年月日及記號番號(保険金受取人保険契約者ナラザルトキハ保険金受取人證書ノ作成年月日及記號番號)但シ保険證書又ハ保険金受取人證書受領前ニ在リテハ保険契約者又ハ保険金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱
- 二 労働者災害扶助法施行規則第五條ノ労働者死傷報告届出ノ年月日
- 三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日
- 四 療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名、職業及學位又ハ稱號
- 五 傷病ノ部位及經過
- 六 療養ノ内容

責任保険法二條

七 療養ニ要スル費用ノ見込額

八 政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ療養ヲ受クルコト能ハザル事由

○則第十條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第四項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ前條第一號乃至第四號及第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ
前項ノ申請ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添付スベシ

○則第十一條 前二條ノ規定ハ勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ政府ヨリ保險金ノ支拂ヲ受クル者ガ勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス但シ申請書ニ保險證書、保險金受取人證書又ハ勞働者死傷報告ニ關スル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ保險金受取人ノ住所氏名、工事ノ場所及名稱、事故發生ノ年月日並ニ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

○則第十二條 勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ノ申請ハ療養ヲ擔當スル者ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條、第十條及前條但書ノ規定ヲ準用ス

○則第十二條ノ二 保險金受取人療養擔當者ヲ變更セントスルトキハ左記事項ヲ具シ豫メ地方長官ニ届出ヅベシ但シ新ニ療養ヲ擔當セントスル者現ニ療養ヲ擔當スル者ト同一道府縣内ニ居住スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 保險證書ノ作成年月日及記號番號(保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記號番號)但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約

約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱

二 勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ勞働者死傷報告届出ノ年月日

三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日

●令第三條第三項ノ承認申請アリタルトキハ指定醫師(齒科診療ニ付テハ齒科醫師以下之ニ同シ)又ハ指定病院ニテハ診療ノ目的ヲ達セズト認めラル、場合ニ限リ之ヲ承認スルコト但シ公立病院ニ付テハ成ルベク之ヲ承認スルコト
承認指令書ニハ費用ハ指定醫師ガ診療スル場合ヲ標準トシテ査定セラルベキモノナルコトヲ記載スルコト(昭和六年十二月二日
社會局勞働部長通牒)

●令第三條第四項ノ承認申請アリタルトキハ左記ニ依リ處理スルコト

一 物理的治療及看護ニ付テハ必要ニ應ジ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵シ同様ノ場合ニ健康保險ニ於テモ給付スルモノナル場合ニ限リ之ヲ承認スルコト

看護ノ承認ニ付テハ健康保險ノ例ニ依リ金額ノ限度ヲ示スコト

二 病院收容ニ付テハ入院スルニ非ザレバ處置又ハ手術ヲ爲スコト能ハズト認めラルル場合ニ限リ之ヲ承認スルコト

三 移送ノ承認ニ付テハ災害ノ場所ヨリ療養所迄ノ運搬費ノ如キ應急處置ト認めムベキモノノハ之ヲ承認セザルコト

療養上特ニ必要アル場合ニ醫師又ハ病院ヨリ他ノ醫師又ハ病院ニ移轉セル場合ニハ之ヲ承認スルコト此ノ場合ニハ費用ハ健康保險ノ例ニ依リ算定シタル額ヲ限度トスルコト

責任保險法二條

其ノ他ノモノニ付移送ノ承認ヲ爲サントスルトキハ當分ノ内社會局ニ稟議スルコト(右同)

△令第四條 第二條第五號ノ打切扶助料ハ政府ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ指示ニ依リ支給スルモノニ

限ル

保險金受取人前項ノ指示ニ從ハザルトキハ政府ハ當該負傷又ハ疾病ニ付以後ノ療養費及休業扶

助料ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ

○則第十三條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第四條第一項ノ承認ヲ受ケントス

ルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

一 第九條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

二 扶助ニ關スル從來ノ經過及扶助ヲ打切ラントスル事由

前項ノ申請ニハ扶助ヲ受クル者ノ現在ノ症狀及將來ノ療養見込日數ニ關スル醫師ノ意見書ヲ添

附スベシ

○則第十四條 保險金受取人保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ勞働者毎ニ左記事項ヲ記載シタ

ル請求書ヲ厚生大臣ニ提出スベシ

一 第九條第一號、第二號及第五號ニ掲グル事項

二 傷病者又ハ死亡者ノ住所氏名及生年月日

三 勞働者治癒シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ年月日、未治癒ノトキハ其ノ旨

四 扶助種別保險金額、療養ノ扶助ニ付テハ費用ノ詳細、休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務

ニ服スルコト能ハザリシ日數及年月日、障害扶助料ニ付テハ障害ノ概要及該當等級、遺族扶

助料ニ付テハ之ヲ受クル者ノ住所氏名、生年月日及本人トノ續柄

前項ノ請求書ニハ左記書類ヲ添附スベシ

一 療養費ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ受取書但シ療養ヲ擔當スル者保險金受取人ノ委任ヲ受

ケテ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

二 休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付テハ扶助料ヲ受ケタル者ノ受取書

其ノ他扶助料ヲ支給シタルコトヲ證スル書類但シ扶助ヲ受クベキ者保險金受取人ノ委任ヲ受

ケ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

三 休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシコトニ關スル醫師又ハ齒科醫師

ノ意見書

四 病院收容ノ場合ニ於テハ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ之ヲ證スル書類

五 障害扶助料ニ付テハ當該等級ニ相當スルコトヲ證スル醫師又ハ齒科醫師ノ診斷書

六 遺族扶助料ニ付テハ醫師ノ死亡診斷書、警察官署ノ檢死證又ハ市町村長ノ埋火葬認許證寫

其ノ他死亡ヲ證スル書類及死亡者ノ戶籍謄本其ノ他遺族扶助料ヲ受クベキ者ト本人トノ續柄

ヲ證スル書類

●令第四條ニ依ル打切扶助料支給ノ承認申請アリタルトキハ當該傷病者ノ診療ヲ擔當スル醫

師ノ意見ヲ徵シ治癒迄ニ要スル休業扶助料及療養費ノ見込額並ニ治癒後障害ヲ殘ス見込ノ

トキハ其ノ見込障害扶助料ノ合計ガ打切扶助料ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ承認スルコト

打切扶助料支給承認ノ申請ナキモ療養開始後一年ヲ經過シタル場合ニ於テハ診療ヲ擔當ス

ル醫師ノ意見ヲ徵シ治癒迄ニ要スル休業扶助料及療養費ノ見込額並ニ治癒後障害ヲ殘ス見込ノトキハ其ノ見込障害扶助料ノ合計ガ打切扶助料ヲ超ユル場合ニ於テハ打切扶助料支給ノ指示ヲ爲スベキコト

情狀ニ依リ右ニ依ルコトガ労働者ニ酷ナリト認メラル、場合其ノ他右ニ依リ難キ場合ニハ事情ヲ具シテ社會局(厚生省)ニ稟議スルコト(昭和六年十二月二日 社會局労働部長通牒)

△令第五條 保險期間ハ工事ノ開始ヨリ終了迄トス但シ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付テハ拂込ノ翌日ヨリ工事終了迄トス

△令第六條 保險料ハ左ノ金額トス

- 一 請負金額ノ定アル工事(工作物ノ破壊工事ヲ除ク)ニ付テハ請負金額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
 - 二 前號以外ノ工事ニ付テハ労働者ノ賃金總額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
注文者ガ工事用物ヲ支給スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ算定シタル價額ヲ其ノ工事ノ請負金額ニ加算シタルモノヲ以テ前項第一號ノ保險料算定ノ基礎タル請負金額トス
 - 一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格
 - 二 注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格
 - 三 前二項ノ規定ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格
- 政府ハ第一項第一號ノ規定ニ依ルヲ著シク不適當ナリト認ムルトキハ同項第二號ノ規定ニ依リ

保險料ヲ定ムルコトヲ得

政府ハ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付工事開始後ノ拂込ガ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ルモノト認メタルトキハ工事開始ノ日ヨリ保險料拂込ノ日迄ニ於ケル工事進捗ノ狀況又ハ使用労働者延人員數ニ應ジテ保險料ヲ減額スルコトヲ得

△令第七條 保險契約ノ申込ヲ爲シタル者ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外工事開始前ニ保險料ヲ政府ニ拂込ムベシ但シ工事期間一年ヲ超ユルモノニ付テハ最初ノ一年分ノ保險料ヲ工事開始前ニ拂込ミ爾後各年(一年ニ滿テザルトキハ其ノ期間)分ノ保險料ヲ其ノ期間開始前ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ保險料ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ保險契約申込ノ時ニ於テ定メラレタル請負金額(注文者ガ工事用物ヲ支給スル場合ニ於テハ前條第二項ニ規定スル價格ノ見積額ヲ加算ス)ニ、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額ニ保險料率ヲ乗ジタル金額トス第一項但書ノ一年分ノ保險料ハ保險料總額ヲ豫定工事期間ノ日數ヲ以テ除シタルモノニ三百六十五(閏年ノ二月末日ヲ含ム場合ニハ三百六十六)ヲ乗ジタル金額トス但シ政府ハ工事施工計畫ノ狀況ニ應ジ異ル方法ニ依リ一年分ノ保險料ヲ定ムルコトヲ得
政府ハ第二項ノ請負金額又ハ賃金總額ノ見込額ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他必要アル場合ニ於テハ保險料ノ追加拂込ヲ命ズルコトヲ得

△令第八條 第六條第一項第二號及前條第二項第四項ノ賃金總額ハ労働者災害扶助法施行令第十責任保險法二條

五條及第十六條ノ規定ニ依リ定ムル標準賃金額ニ使用労働者延人員（工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク）ノ數ヲ乗ジタル金額トス
 前項ノ規定ノ適用ニ付テハ十六歳未満ノ者ハ十六歳以上ノ者ト看做ス
 △令第九條 保険料率ハ厚生大臣之ヲ定ム
 △令第十條 第七條ノ規定ニ依リテ拂込ミタル保険料ガ工事終了後第六條ノ規定ニ依リテ算定シタル保険料ニ比シ過不足アルトキハ政府ハ保険料ノ追加拂込ヲ命ジ又ハ之ヲ返還ス

●労働者災害扶助責任保険ニ於ケル保険料率告示（昭和十五年九月十八日）
 （厚生省告示第二八八號）

工事ノ種類	請負金一萬圓當リノ 保險料	賃金一圓當リノ 保險料
労働者災害扶助法第一條 第一項第二號（ロ）ノ工事	四三	六三
隧道工事	一一四	四五
地下鐵道建設工事 <small>（但シ開鑿式ニシテ上表 部ヲ一般交通ノ用ニ供 セサルモノヲ除ク）</small>	一六六	三二〇
水力發電所建設土木工事	二一四	一〇五
鐵道軌道工事	六六	三八

河川工事	二三	一六
土地整理工事	五六	三四
道路舗装工事	四六	二二
道路鋪裝工事	一八	二〇
工作物ノ破壊工事	—	四五
建築工事	一八	二〇
鐵骨鐵筋又ハ鐵筋混凝土造家屋建築工事	二七	三八
鐵骨家屋建築工事	二〇	三五
家屋附帶設備工事	六	一二
機械器具ノ組立又ハ据付工事	二二	六五
橋梁工事	五二	三二
其ノ他ノ工事	三五	二九

●昭和十四年十月二十四日厚生省告示第二二號ヲ以テ標記ノ件公布セラレ本年十一月一日以後
 責任保險法二條

ノ保險契約申込ニ對シ改正料率ヲ適用スルコト相成候處今回ノ改正ハ最近請負金額ニ依ル保險料率ノ算定ノ基礎ニ異動ヲ生シタルノ情況ニ鑑ミ從來ノ保險料率ヲ改訂シタルト同時ニ從來ノ建築工事、鐵骨鐵筋又ハ鐵筋混凝土造家屋建築工事及其ノ他ノ工事ノ料率ヲ區分シテ新ニ鐵骨家屋建築工事、家屋附帶設備工事、鐵道軌道工事、土地整理工事、道路工事、河川工事、機械器具ノ組立又ハ据付工事ノ七種目ノ保險料率ヲ設定シタルモノニ有之候條御了知相成度尙關係營業者ニ周知方可然御取計相成度候

追テ今回ノ保險料率改正ヲ機トシ別紙ノ通勞働者災害扶助責任保險料率適用工事分類表ニ作成及別途送付致置候條關係者ニ可然御配付相成度尙工事區分ニ關スル注文者ノ證明等ニ付テハ從來ノ取扱例ヲ左記ノ通改メ候條爾今右ニ依リ御取扱相成度候

記

- 一 工事ニシテ二種類以上ノ工事ヲ包含スル場合ノ工事區分ニ關スル注文者ノ證明ハ當該工事注文者(本人若クハ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者)ノミノ證明ニ限ラス當該工事施行上ノ注文者側ノ責任者(例ヘハ主務部長、主務課長、出張所長、支店長、工事主任又ハ現場主任等)ノ證明ニテモ差支ナキコトトス
- 二 機械器具ノ組立又ハ据付工事ノ終了届ニ添付スル機械器具ノ價格ヲ明示シタル契約書、協定書、證明書等ニ付テモ前號ニ準シ取扱フコトトス
- 三 請負者ニ支給シタル工食用物申告ノ申告書ニ付テモ第一號ニ準シ取扱フコトトス

(昭和十四年十月二十四日
保險院社會保險局長通牒)

●勞働者災害扶助責任保險法施行令第五條ニ關シ保險契約申込者カ振替貯金又ハ當局ノ加入スル第一銀行當座付替ノ方法ニ依リ保險料ヲ官接社會局宛送付シタル場合ニ於ケル保險料拂込ノ日ニ付疑義有之候處保險契約者カ保險料拂込ニ必要ナル手續中自己ノ爲スヘキ部分ヲ完了シタル日即チ振替貯金ニ在リテハ申込者ニ於テ郵便局ニ拂込ヲ爲シタル日、第一銀行當座付替ニ在リテハ第一銀行本支店又ハ其ノ取引銀行ニ於テ當座付替ノ手續ヲ終リタル日ヲ以テ同條ニ所謂保險料ノ拂込アリタルモノト解スヘキ儀ニ有之尤モ申込者ニ於テ右手續ヲ完了シタル場合ト雖拂込アリタル金額カ法定ノ額ニ達セサルコト其ノ他ノ事由ニ因リ社會局收入官吏ニ於テ之ヲ收納スルコト能ハサルトキハ保險料ノ拂込アリタルモノト爲スコトヲ得サルモノニ有之候條御了知相成度

追テ本年一月二十日附勞發第一五號ヲ以テ送付シタル「土木建築業者ヘノ注意」及本年三月十一日附勞發第九七號ヲ以テ送付シタル「勞働者災害扶助責任保險ニ關シ保險契約ヲ急ク爲納入告知書ヲ待ツ暇ナキ場合ニ於ケル保險料納付方ニ就テ」ノ六ニ記載セラレタル政府カ調定ヲ爲シ國庫ニ又ハ收入官吏カ收納シタル日ヲ以テ保險料拂込ノ日ト爲ス取扱ハ右ニ依リ變更セラレタルモノニ付爲念(昭和七年四月十四日
社會局勞働部長通牒)

●昭和七年一月三十日內務省告示第十七號ニ依ル保險料率ノ改正ニ依リ一工事ニシテ二以上ノ種類ノ工事ヲ包含シ請負金額又ハ使用勞働者延人員カ工事ノ種類毎ニ區分セラルル場合(請負金額ノ區分ニ付テハ工事ノ設計變更等ノ場合ニ於テ請負金額増減ノ基準タル內譯書ノ協定セラルルカ如ク豫メ工事ノ種類毎ニ請負金額カ決定セラレル場合、使用勞働者延人員ノ區分

ニ付テハ種類ノ異ナル工事ニ使用セラルル労働者カ混淆セラルルコトナク且正確ニ工事ノ種類毎ニ区分シテ使用労働者カ計算記録セラレタル場合ニハ概算保険料ハ高キ料率ニ據リ算定スルモ工事終了後工事ノ種類毎ニ請負金額又ハ賃金總額ニ依リ保険料ヲ算定スヘキヲ以テ右ノ場合ニ於テハ左記書類ヲ工事終了届ニ添付スル様致度工事終了届ニ請負金額又ハ賃金總額ノ区分ニ關シ記載ナク或ハ添付書類不備ノトキハ工事ノ種類毎ニ区分セラレサルモノトシテ取扱フモノニ有之右關係業者ニ對シ周知方可能御取計相成度

記

- 一 工事ノ種類毎ニ請負金額及使用労働者延人員ヲ区分シ且工事ノ種類毎ニ其ノ構造長サ高サ其ノ他工事ノ規模ヲ知ルニ必要ナル事項ヲ記載シタル書類(但シ請負金額ノ定ナキ工事ニ付テハ請負金額ノ区分ニ關スル事項ヲ記載スルヲ要セス又請負金額ノ定アル工事ニシテ注文者ヨリ工事材料ノ支給ヲ受ケサルモノニ付テハ特ニ當局ヨリ照會ナキ限リ使用労働者延人員ノ区分ニ關スル事項ヲ記載スルコトヲ要セス)
 - 二 工事ノ種類毎ニ請負金額カ区分セラレタルコトヲ證スル書類例ヘハ契約書ノ寫及内譯書等ニシテ注文者ノ署名捺印アルモノ
- 追テ本件ニ關シテハ從來ハ請負金額又ハ賃金總額カ工事ノ種類毎ニ区分セララルモノニ付各個ノ保險契約者ニ右ノ主旨ヲ示達致居候處保險契約申込書ニ請負金額ノ区分ノ有無ニ付明白ナル記載ナキトキハ右書類ヲ送付セサルコトナルヲ以テ爾今一般的ニ周知方ヲ講シ各個ニハ示達セサルコト致シタル次第ニ有之申添候(昭和七年三月十六日 社會局労働部長通牒)

●標記ニ關シ從來家屋ノ建築及通常之ニ附帶スル工事若ハ屋内設備ノ工事ニハ建築工事ノ保險料率ヲ、家屋以外ノ建築物ノ工事ニハ「其ノ他ノ工事」ノ保險料率ヲ適用致居候處今同右後段ノ建築物例ヘハ鐵塔、タンク、煙突其ノ他記念塔、銅像等ノ工事ニモ「建築工事」ノ保險料率ヲ適用シ保險料ヲ算定スルコトト致候條御了知相成度

尙右ニ該當スルモノニシテ從前「其ノ他ノ工事」ノ料率(請負金ニ對スル料率)ニ依リ算定シタル保險料ヲ拂込ミタル者ニ對シテハ「建築工事」ノ料率ニ依リ算定シタル保險料トノ差額ヲ返還スルモノニ有之候得共右返還ハ既ニ工事終了届ニ依リ保險料ヲ精算シタルモノニ付テハ再精算ノ上、未タ工事力終了セサルモノニ付テハ工事終了後工事終了届ニ依リ保險料ヲ精算ノ上之ヲ爲スコトト可相成候條爲念(昭和七年十月二十二日 社會局労働部長通牒)

●労働者災害扶助責任保險ニ於ケル療養費及休業扶助料ノ請求書ノ内容ニ不備ノ點アルトキハ之カ照會往復ニ日子ヲ要シ自然支拂ヲ遅延シ遺憾ニ存候ニ付請求書ヲ受理シタルトキハ左記各項ニ留意シ御取扱相成様致度

記

- 一、療養費ハ健康保險ニ於ケル醫師會ノ査定方針ニ準シ支拂フモノニ付次ノ點ニ注意シ不審アルトキハ醫師會ニ照會シ請求書ヲ整備ノ上速ニ進達スルコト
- (1) 入院中ノ藥劑及處置ノ料金ハ總テ入院料ノ定額中ニ包含スルモノトシテ削除セラルルニ付同一請求書ニ入院前後ノ藥劑及處置ノ料金ヲ混記セル場合ハ入院前又ハ退院後ノ分ヲ区分シ明記セシムルコト

- (2) 入院中ノ注射料、検査料、理學的療法及外傷、火傷ノ治療料一日計六點ヲ超ユル場合ハ其ノ超過額ヲ入院料以外ニ支拂フモノナルヲ以テ右超過額ハ診療月日別ニ診療種類及回數等ト共ニ明記セシムルコト
 - (3) 入院中ノ理學的療法ノミノ料金カ一日計六點ヲ超ユル見込ノ場合ハ豫メ物理的治療ノ承認ヲ受ケシムヘキコト
 - (4) 指定醫以外ノ醫師カ入院料ヲ請求スル場合ニ其ノ入院料カ診療所所在地道府縣ノ健康保險ニ於ケル入院料定額ニ至ラサル額ナルトキニ於テ入院中ノ藥劑、處置ノ料金並ニ注射料、検査料、理學的療法及外傷、火傷ノ治療料ニシテ一日計六點未滿ノ料金ヲ請求スル場合ハ各請求書毎ニ入院料總額ト健康保險ノ入院料定額ノ總額トノ差額ノ範圍ニ於テ入院中ノ前記諸料金ヲ支拂フモノナルコト
 - (5) 指定醫以外ノ醫師カ入院中ノ注射料、検査料、理學的療法及外傷、火傷ノ治療料一日計六點ヲ超ユル部分ヲ請求スル場合ニ於テハ(2)ト同様ニ取扱フコト
 - (6) 指定醫ニ在リテモ健康保險ノ入院料ノ定額ニ滿チサル額ヲ請求スル場合ニハ(4)ト同様ニ取扱フコト
- 二 休業扶助料ノ請求ニ付テハ労働者ノ請求ニ依リ療養擔當者カ漫然之ニ證明ヲ與ヘタルカ如ク認メラルモノニ在リテハ療養費ノ請求書ト能ク之ヲ對照シ又ハ療養擔當者若ハ本人ニ就キ實地調査ノ上不都合無キニ努メラレタシ
- 尙請求書ノ様式(第十三號)ヲ改正シ勞務不能期間ニ關スル療養擔當者ノ證明ハ入院又ハ通

院等眞ニ療養ヲ受ケシ期間ノミニ限ルコトトシ療養擔當者ノ注意ヲ喚起スルコトト爲シタルヲ以テ注意ノコト、尤モ稀ニハ醫藥、處置ハ廢スレトモ自宅ニ於テ安靜ヲ保チ時折リ診察ヲ求ムルカ如キ程度ニ在リテモ勞務不能ナル者アリ得ヘク斯ノ如キ者ノ休業扶助料ヲ削除スル趣旨ニアラサルニ付斯ノ如キ場合ニハ醫師ノ意見書ニ特ニ其ノ旨附記セシムルコト

(昭和十四年九月二十八日)
社會局労働部長通牒

問 労働者災害扶助法施行令第二條ノ規模ニ該當スル小學校ノ建築ヲ請負ヒ保險契約ヲ締結シ工事施行中其ノ半ヲ完了シタル時従業員ノ過失ニ依リ其ノ大半ヲ燒燬シ請負業者ノ損害ニ歸シ保險契約者ニ於テ更ニ前申込ト同一規模ノ小學校ヲ再建築スル場合保險料算定ノ基礎タルヘキ請負金額ニハ増減ナキモ使用労働者數ハ前工事ト略同數ノ員數ヲ使用スルコトトナル此ノ場合請負金額ノ増減ナキヲ以テ保險料ノ追加拂込ヲ要セサルモノトシテ取扱フヘキヤ又再建築ニ使用スル労働者ヲ基礎トシテ資金總額ニヨリ保險料ノ追加拂込ヲ要スルカ如クニモ思料セラレ或ハ單ニ工事終了豫定年月日ノ變更屆ノミニテ足ルモノノ如クニモ解セラレ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成様致度及御伺候也

答 本件ノ如キ事情ノ下ニ於テモ賃金額ニ依リ保險料ヲ算定セサル方針ニ有之候得共保險契約者カ工事ノ注文者ヨリ見舞金其ノ他名目ノ如何ヲ問ハス罹災ニ對スルモノトシテ金錢ヲ收受シタルトキハ之ヲ加算シタルモノヲ請負金額トシテ保險料ヲ算定スルコトト相成ヘク候條御了知相成度(昭和九年七月十四日)
社會局労働部長通牒

問一 工場法適用工場ノ工業主カ其ノ工場ノ職工ヲ労働者災害扶助法第一條第一項第二號

責任保險法二條

(ハ)ノ工事ニ使用シタル場合ニ於テ健康保険ノ被保険者タル職工ニ付テハ特ニ解雇手續ヲ探ラサル限り引續キ被保険者タル資格ヲ保有スルヲ以テ健康保険ニ依リ給付ヲ受クベキ期間勞働者災害扶助法上ノ給付ヲ受ケス從ツテ勞働者災害扶助責任保險法ニ依ル保險金ノ支給ナキコトハ昭和七年四月二十六日附發勞第五三號ニテ御通牒有之候處ナルカ其ノ場合ニ於テ被保險者ハ看護、移送、入院及指定外醫師ノ診療ヲ受クル等ノ場合ハ健康保險法施行令第七十四條及第七十五條ニ依リ地方長官ノ承認ヲ要スルニ付勞働者災害扶助法ニ依ル同種ノ承認申請ノ手續ヲ省略シ差支無キヤ

二 問一ノ職工ナラサル者ニテモ健康保險法ニ依ル被保險者ニ付同様ニ取扱差支無キヤ
答一 健康保險ニ依ル給付期間滿了後本法ニ依リ保險セラルルニ至リタルトキハ本法ニ依リ更ニ承認申請ヲ爲サシムルモノトス

二、前項ニ同シ(昭和七年八月十六日
社會局勞働部長通牒)

法第三條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

○則第一條 保險契約ノ申込ヲ爲サントスル者ハ保險契約申込書ニ左記事項ヲ具シ記名捺印ノ上厚生大臣ニ提出スベシ但シ保險契約ノ申込當時第二號ノ工事ノ主タル事務所、設ケナキトキハ之ヲ設ケタル後遲滞ナク届出ツベシ
一 工事ノ場所、名稱及種類

- 二 工事ノ主タル事務所ノ所在地
 - 三 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
 - 四 保險契約申込者ノ住所氏名
 - 五 請負ニ依ル工事ニ在リテハ注文者ノ住所氏名
 - 六 使用勞働者(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク以下之ニ同ジ)男女別豫定延人員ノ概數
 - 七 工事ノ豫定費用概算額(請負ニ依ル工事ニシテ請負金額ノ定マレルモノニ在リテハ請負金額)
 - 八 注文者ヨリ工事材料ノ支給ヲ受クル場合ニ在リテハ其ノ種類別豫定數量及價格ノ見積額
 - 九 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ貸金總額ノ見込額
 - 十 保險料率
 - 十一 勞働者災害扶助責任保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ拂込ムベキ保險料(以下概算保險料ト稱ス)ノ總額及工事開始前ニ拂込ムベキ概算保險料額
 - 十二 工事設計ノ概要
- 前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ厚生大臣ニ届出ツベシ但シ勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第三項又ハ同令第七條第四項ノ規定ニ依リ政府ガ前項第十號及第十一號ノ事項ヲ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ保險契約申込書ヲ提出シタルトキハ其ノ寫本ヲ添ヘ其ノ旨地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出ツベシ

○附第二條 厚生大臣保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ保險契約者ニ之ヲ交付ス

保險證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ厚生大臣記名捺印ス

- 一 保險證書作成ノ年月日及記號番號
- 二 保險契約者ノ住所氏名
- 三 工事ノ場所、名稱及種類
- 四 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
- 五 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ請負金額、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額
- 六 保險料率
- 七 概算保險料額
- 八 拂込ミタル概算保險料ノ額及拂込年月日、概算保險料未拂込ノ部分アルトキハ其ノ額及拂込時期

●近時軍ノ注文ノ工事ニシテ機密ニ屬スル爲之カ工事場所及名稱、設計概要、支給工費用物等ヲ勞働者災害扶助責任保險關係書類ニ明記シ得サルモノアルヲ以テ今般海軍省ト左記ノ通協議決定候條御諒知相成度

記

工事ノ名稱 符號ヲ以テスルモ差支ナシ

工事ノ場所 府縣郡市迄記載

工事設計ノ概要 保險料率適用上必要トスル程度ノ記載

支給ヲ受クル工費用品 完成シタル兵器機械器具等ハ其ノ種類及數量ヲ省略シ金額ノミ

記載シ差支ナシ(昭和十三年十月七日
社會局勞働部長通牒)

●本法ノ適用アルベキ工事ノ事業主ノ保險契約ノ申込ヲ怠ルコトヲ防グ爲左記ノ方法ヲ講ズルコト

- 一、土木建築請負業者ニ對シ法規ノ趣旨徹底ニ努ムルコト
- 二、官公署、市町村、公共團體其ノ他本法適用工事ヲ注文スルコトアルベキ者トハ常ニ連絡ヲ保チ本法ノ適用ヲ受クベキ工事ヲ注文シタルトキハ遲滞ナク左記事項ノ通知ヲ爲ス様手配シ置クコト
- 一、工事ノ場所、名稱及種類
- 二、工事請負人ノ住所氏名
- 三、工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
- 四、請負金額ノ定アルモノハ請負金額、請負金額ノ定アルモノモ主要材料ヲ注文主ニ於テ供給スルモノニ付テハ請負金額ノ外供給スベキ主要材料ノ種類別豫定數量及價格ノ概要並ニ使用勞働者豫定延人員ノ概數

責任保險法三條

五 請負金額ノ定ナキモノ及工作物ノ破壊工事ニ付テハ使用労働者豫定延人員ノ概數
 三 市街地建築物法ノ出願又ハ届出ニ依リ本法ノ適用アリト推定セラルル工事アルトキハ工
 事ノ場所、名稱構造及大サ(建坪及延坪)竝ニ見込工事費用額ヲ本保險施行係ニ通報スル様
 手配シ置クコト(昭和六年十二月二日
 社會局労働部長通牒)

法第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人ガ保險契約ヲ
 締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ヲ以テ保險金受取人トス

政府ハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

△令第十一條 削 除

△令第十二條 保險金受取人ノ行方不明、資力薄弱其ノ他ノ事由ニ因リ扶助ヲ受クルコト困難ナ
 リト認ムル場合ニ於テハ政府ハ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

○則第三條 労働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ規定ニ依リ下請負人ガ保險金受取人タル場
 合ニ於テハ保險契約者ハ其ノ下請負人ガ扶助ヲ引受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ左記事項ヲ
 厚生大臣ニ届出ヅベシ

- 一 保險證書ノ作成年月日及記號番號(保險證書ノ受領前ニ在リテハ工事ノ場所及名稱)
 - 二 保險契約者ノ住所氏名
 - 三 保險金受取人ノ住所氏名及其ノ工事ニ於ケル主タル事務所ノ所在地
 - 四 扶助ヲ引受ケシメタル工事ノ種類、範圍及其ノ使用労働者男女別豫定延人員ノ概數
- 前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ厚生大臣ニ届出ヅベシ

○則第四條 厚生大臣ハ前條第一項ノ届出アリタルトキハ保險金受取人證書ヲ作成シ保險金受取
 人ニ交付ス

保險金受取人證書ニハ前條第一項各號ノ事項竝ニ保險金受取人證書作成ノ年月日及記號番號ヲ
 記載シ厚生大臣記名捺印ス

○則第五條 保險證書又ハ保險金受取人證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ保險契約者又ハ
 保險金受取人ハ遲滞ナク保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ添ヘ其ノ訂正ノ申請ヲ爲スベシ
 労働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ保險金受取人タル下請負人ガ保險金受取人タラザルニ
 至リタルトキハ保險契約者ハ其ノ旨厚生大臣ニ届出ヅベシ

○則第六條 保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ保險契約者又ハ保險金
 受取人ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

○則第七條 保險契約者ハ日日ノ使用労働者男女別人員數ヲ記録シ毎月十日迄ニ前月分ヲ地方長
 官ニ届出ヅベシ但シ請負金額ニ依リ保險料ヲ定メタル場合ニ於テハ日日ノ使用労働者男女別人
 員數ヲ記録スルヲ以テ足ル

○則第八條 保險契約者ハ工事終了後遲滞ナク左記事項ヲ厚生大臣ニ届出ヅベシ

- 一 保險證書作成ノ年月日及記號番號
- 二 保險契約者ノ住所氏名
- 三 工事ノ場所、名稱及種類
- 四 工事ノ開始及終了年月日

責任保險法四條

五 使用労働者男女別延人員

六 請負金額ノ定アル工事ニ付テハ請負金額

七 注文者ヨリ支給ヲ受ケタル工費用物ノ有無

前項ノ届出ニ際シテハ第二十條第三項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル注文者ノ申告書ヲ併セテ提出スベシ

○則第十五條 削除

○則第十六條 扶助ヲ受クベキ者労働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ厚生大臣ニ提出スベシ

一 第十四條第一項各號ノ事項

二 事業主ヨリ扶助ヲ受クルコト困難ナル事由

三 既ニ受ケタル扶助ノ内容(療養ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名及療養費、休業扶助料ニ付テハ休業年月日及期間並ニ金額、障害扶助料ニ付テハ其ノ該當等級及金額)

前項ノ請求書ニ付テハ第十一條但書及第十四條第二項(第二號ヲ除ク)ノ規定ヲ準用ス

厚生大臣第一項ノ請求書ヲ受ケ扶助ヲ受クベキ者ニ直接保險金ヲ支拂ヒタルトキハ保險金受取人ニ其ノ旨通知ス

●労働者災害扶助責任保險法施行規則第三條第一項ニ依ル保險金受取人届(災保様式甲第三號)ニ添附スヘキ下請負人カ扶助ヲ引受ケタルコトヲ證スル書面ノ書式ハ一定スルノ要ナキモ書式ニ付伺出アリタル場合又ハ届出カ體ヲ爲ササルトキハ左記參考案ニ依ラシムル様致度

記

參考案ノ一

扶助引受證

一 元請負人ノ住所氏名

一 工事ノ場所

一 工事ノ名稱

一 労働者災害扶助責任保險契約ノ保險證書記號番號(未ダ證書ヲ受ケザルトキハ保險契約申込年月日)

右工事ノ全部ヲ拙者(弊社)ニテ貴殿(貴社)ヨリ下請負仕候處之ニ使用スル労働者ノ扶助ニ關シ労働者災害扶助法令ニ基ク扶助義務ノ一切ヲ拙者(弊社)ニ於テ引受候也

昭和 年 月 日 住 所

下請負人 氏

名 ㊦

元請負人 何 某殿

法第五條 保險契約者ガ悪意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

△令第十三條 労働者災害扶助責任保險法第五條ノ場合ニ於テハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ保險契約者告知セザリシ事實ヲ告知シ又ハ不實ノ告知ヲ訂正シタル場合ニ於テ其ノ後ニ生ジタル事故ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

責任保險法五條

法第六條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遲滞シタルトキハ其ノ遲滞期間ニ於テ生ジタル事故ニ對スル保險金ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

△令第十四條 保險契約者第七條第一項但書ノ規定ニ依ル第二回以後ノ保險料ノ拂込又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル保險料ノ追加拂込ヲ遲滞シタルトキハ政府ハ遲滞期間中ニ生ジタル事故ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

●労働者災害扶助責任保險法施行令第七條第一項但書ニ依リ保險料ヲ分割シテ拂込ム場合ニ於テ第二回以後ノ拂込ヲ遲滞シタルトキハ已ムコトヲ得サル事由ニ因ル場合ノ外同施行令第十四條ニ依リ遲滞期間中ニ生シタル事故ニ對スル保險金ヲ支拂ハサルコトト相成居候處右ニ關スル地方廳ノ取扱方區々ニ亘ル處ナキニ非サルヲ以テ爾今請求書ノ提出アリタルモノニ付テハ遲滞事情ヲ調査シ請求書ニ意見ヲ附シテ一應當局ニ進達相成度(昭和十二年三月一日 社會局労働部長通課)

法第七條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ故意若ハ重大ナル過失ニ依リ又ハ労働者災害扶助法、工場法若ハ鑛業法ニ基ク危害豫防若ハ衛生ニ關スル命令ニ違反シタルニ依リ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

法第八條 保險金支拂ノ義務及保險料支拂ノ義務ハ二年、保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

△令第十五條 保險契約者又ハ保險金受取人故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ

△第十六條 政府ハ事業主ガ扶助ヲ爲ス資力ナシト認ムル場合ニ於テハ前三條ノ規定ニ拘ラズ保險金ヲ支拂フコトヲ得

法第九條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ労働者災害扶助責任保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ労働者災害扶助責任保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

法第十條 労働者災害扶助責任保險審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

法第十一條 本法ニ依ル保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

法第十二條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ本法ニ依リ扶助責任ノ保險ヲ付シ又ハ付スベキ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

法第十三條 第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

問 労働者災害扶助責任保險法第十三條ニ「第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ」トアル保險契約ヲ締結セザルトキノ意義ハ保險契約ノ申込ヲ爲スモ保險料ヲ納付セザル場合ヲモ指稱スルモノニ候哉同條適用上必要ニ候條至急何分ノ御指示相仰度此段及經伺候也

答 保險契約申込書ヲ受理シ保險料ノ調定ヲ爲シタルトキヲ以テ保險契約ノ締結ト解シ從テ保險料納付ノ有無ニ不拘議ト御了知相成度(昭和十二年六月四日 社會局労働部長通課)

法第十四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

△令第十七條 勞働者災害扶助責任保險ハ厚生大臣ニ於テ之ヲ掌ル但シ第三條第三項第四項又ハ第四條第一項ノ承認又ハ指示ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ爲ス

○則第十七條 第九條乃至前條ノ適用ニ付勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ規定ニ依ル勞働者死傷報告ノ届出ヲ爲スコトヲ要セザル場合ニ於テハ勞働者死傷報告届出ノ年月日ニ代ヘ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

○則第十八條 保險契約者及保險金受取人ハ工事ノ主タル事務所(工事終了後ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所)ニ保險ニ關スル書類ヲ備置クベシ
保險ニ關スル書類ハ扶助ノ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

○則第十九條 本則ニ依リ厚生大臣ニ提出スベキ書類ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(保險金ノ請求ニ付テハ扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ第一條第一項ノ保險契約申込書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

●勞働者災害扶助責任保險法適用工事ニ於ケル工事ノ主タル事務所ハ工事ノ行ハルル場所ニ設置セシムル趣旨ニ有之候得共鐵道軌道等ノ建設工事、道路、河川、電線路等ノ工事ニ於ケル工事場所カ他ノ隣接府縣ニ移動シタル場合ニ於テ其ノ工事期間カ短期間ナルトキ又ハ地理的關係上特殊ノ事情ニ依リ工事ノ主タル事務所ヲ從前ノ工事場所ヲ管轄スル府縣内ニ置クコト

ヲ事業主カ希望スル場合ニハ之ヲ容認スル方實情ニ添フヘク、而シテ此ノ場合ニハ工事ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル府縣ハ他ノ府縣内ニ於テ發生シタル事故ニ對スル届書又ハ保險ニ關スル書類ヲ取扱フコトト相成候ニ付テハ寫本届及保險契約票ノ寫等ヲ工事場所管轄府縣ニ送付シテ相互連絡ヲ保テ實地調査等ニ當リ遺憾ナキヲ期セラレ度爲念及通牒候

(昭和十年五月十八日
社會局勞働部長通牒)

○則第二十條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者請負者ニ工費用物ヲ支給シタルトキハ工事終了後遲滞ナク其ノ支給シタル物ノ種類別數量及左ノ各號ニ依リ算定シタル價額ヲ厚生大臣ニ申告スベシ

一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格

二 注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格

三 前二號ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

地方長官ハ前項ノ注文者ニ對シ請負金額其ノ他必要ト認ムル事項ノ申告ヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ申告書ハ保險契約者ニ委託シテ之ヲ提出スベシ

○則第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條第一項但書、同條第二項、同條第三項、第七條、第八條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 前條ノ申告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者

責任保險法十四條

三 本則ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ提出スル書類ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタル者

○則第二十二條

勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者、保險契約者、保險金受取人又ハ扶助ヲ受クベキ者未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第二十三條

勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者、保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

○則第二十四條

本則ノ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ニ之ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニシテ本法施行前ニ著手(請負ニ依ルモノニ付テハ請負契約ノ締結)セラレタルモノニ付テハ第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

昭和十五年九月十八日勅令第六百十四號附則

本令ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ(ロ)ノ工事ニシテ本令施行前注文ニ付セラレタルモノニハ之ヲ適用セズ
本令施行前生シタル事故ニ對シ保險スベキ扶助責任ノ範圍ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十年三月二十六日內務省令第十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ニ關スル注文者ノ支給物ニ關スル届出ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

國民體力法

(昭和十五年四月八日法律第百五號
改正昭和十七年二月法律第三十七號)

第一條 政府ハ國民體力ノ向上ヲ圖ル爲本法ノ定ムル所ニ依リ國民ノ體力ヲ管理ス

前項ノ管理トハ國民ノ體力ヲ検査シ其ノ向上ニ付指導其ノ他必要ナル措置ヲ爲スヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ被管理者ト稱スルハ本法施行地内ニ居住地(一定ノ居住地ナキ者ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル地トス以下之ニ同ジ)ヲ有スル帝國臣民タル年齡二十六年未滿ノ男子及年齡二十年未滿ノ女子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノヲ謂フ

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ(未ダ入營セザル者及歸休下士官兵ヲ除ク)又ハ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノモノ

二 陸海軍ノ學生生徒

三 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者

第三條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ニ掲グル者ニシテ本法施行地内ニ居住地ヲ有スルモノヲ謂フ

一 未成年者タル被管理者ニ付親權ヲ行フ者(親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者)

二 禁治產者タル被管理者ノ後見人

第四條 被管理者ニシテ其ノ年十一月三十日ニ於テ年齡二十六年ニ達セサル男子及年齡二十年ニ

體力法一條―四條

達セザル女子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

保護者ハ前項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者(以下第四條第一項ノ被管理者ト稱ス)ヲシテ體力検査ヲ受ケシムル義務ヲ負フ但シ被管理者ヲ教育、監護又ハ使用ノ目的ヲ以テ寄寓セシムル者アル場合ハ其ノ者ニ於テ其ノ義務ヲ負フ

第五條 市町村長ハ第四條第一項ノ被管理者ニシテ其ノ市町村内ニ居住地ヲ有スルモノノ體力検査ヲ行フベシ但シ事務所、商店、工場、事業場等ノ事業主又ハ管理人ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヨリ體力検査ヲ行フコトヲ命ゼラレタルモノハ其ノ事務所、商店、工場、事業場等ニ使用セラルル被管理者ニシテ同條同項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スルモノノ體力検査ヲ行フベシ

勅令ヲ以テ定ムル學校及ハ幼稚園ニ在學又ハ在園スル第四條第一項ノ被管理者ノ體力検査ハ前項ノ規定ニ拘ラズ當該學校長又ハ園長之ヲ行フベシ

第六條 第四條第一項ノ被管理者(同條第二項ノ規定ニ依ル義務者アル場合ハ其ノ義務者)被管理者ノ氏名、生年月日其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ被管理者ノ居住地ノ市町村長ニ届出ツベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條ノ二 地方長官ハ國民體力ノ向上ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條第一項ノ被管理者ニ非ザル者ニ付テモ體力検査ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ體力検査ハ第五條第二項ノ學校又ハ幼稚園ニ在學又ハ在園スル者ニ關スル場合ヲ除クノ外地方長官之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ同條第一項ノ規定ニ準ジ市町村長又ハ事業主若ハ管理人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條第二項、第五條第二項、第十條乃至第十二條、第十三條及第十四條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ニ關シ、第八條第二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要シ又ハ要シタル者ニシテ體力手帳ノ交付ヲ受ケタルモノニ關シ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第四條第二項、第八條第四項、第十一條又ハ第十二條中保護者トアルハ第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ニシテ未成年者又ハ禁治産者タルモノニ付親權ヲ行フ者、後見人タル者又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ニシテ本法施行地内ニ居住地ヲ有スルモノトシ第十三條第一項中第五條第一項トアルハ第六條ノ二第二項トシ第十三條第二項中第五條第一項、第六條トアルハ第六條、第六條ノ二第二項トス

第七條 本法ニ定ムルモノノ外體力検査ノ項目、時期、方法、結果ノ報告其ノ他體力検査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 第四條第一項ノ被管理者體力検査ヲ受ケタルトキハ本人又ハ保護者ニ對シ體力手帳ヲ交付ス

體力手帳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被管理者若ハ保護者又ハ被管理者タリシ者ニ於テ之ヲ保存シ、體力検査其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ニ之ヲ提示スベシ

前二項ニ定ムルモノノ外體力手帳ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條第一項ノ被管理者ノ體力検査ノ結果ハ體力手帳ニ之ヲ記載スルモノトス第十條乃至第十

二條ノ規定ニ依リ體力向上ニ關スル指導若ハ指示ヲ爲シ又ハ療養ニ關スル處置ヲ命ジタルトキ亦同ジ

命令ヲ以テ定ムル體力ニ關スル検査ヲ行フ者體力手帳ノ交付ヲ受ケタル第四條第一項ノ被管理者ヲ検査シタルトキハ其ノ結果ヲ體力手帳ニ記載スベシ醫師體力手帳ノ交付ヲ受ケタル第四條第一項ノ被管理者ニ付命令ヲ以テ定ムル疾病ニ罹レルモノト診斷シタルトキ亦同ジ

第九條 検査、療養ノ指導其ノ他體力管理ニ關スル醫務ニ従事セシムル爲メ國民體力管理醫ヲ置ク國民體力管理醫ハ醫師又ハ齒科醫師ニ就キ之ヲ選任ス
國民體力管理醫ハ其ノ職務ノ執行ニ當リテハ國民體力ノ向上ニ關スル國策ノ遂行ニ努ムルヲ旨トスベシ

醫師又ハ齒科醫師ハ正當ノ事由ナクシテ國民體力管理醫タルコトヲ拒ムコトヲ得ズ
本法ニ定ムルモノノ外國民體力管理醫ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 國民體力管理醫ハ體力検査ニ於テ被管理者ヲ検査シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本人又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ義務者ニ對シ被管理者ノ體力向上ニ關スル指導ヲ爲スベシ

第十一條 地方長官ハ體力検査命令ヲ以テ定ムル體力ニ關スル検査又ハ他ノ法令ニ依ル醫師ヨリノ患者診斷ノ届出ニ基キ必要アリト認ムルトキハ被管理者ニ付本人又ハ保護者ニ對シ國又ハ公共團體ノ體力向上施設ノ利用、就業ノ場所又ハ時間ノ制限、業務ノ變更其ノ他ノ體力向上ニ關スル指示ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ被管理者ヲ使用スル者ニ對シ

テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ體力検査命令ヲ以テ定ムル體力ニ關スル検査又ハ他ノ法令ニ依ル醫師ヨリノ患者診斷ノ届出ニ基キ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ノ指定スル疾病ニ罹レル被管理者ニ付本人又ハ保護者ニ對シ療養ニ關スル處置ヲ命ズルコトヲ得但シ官立ノ學校又ハ公立若ハ私立ノ大學、專門學校、實業專門學校、高等學校若ハ之ニ準ズベキ學校ニ在學又ハ在園スル被管理者ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處置ヲ命ゼラレタル者貧困ノ爲メ其ノ義務ヲ履行スルコト能ハザルトキハ地方長官ハ其ノ者ノ申請ニ依リ國民體力管理醫ニ就キ療養ノ指導ヲ受ケシムルコトヲ得

第十三條 主務大臣又ハ地方長官ハ體力検査ニ基キ國民體力ノ向上ヲ圖ル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體其ノ他ノ法人又ハ團體ニ對シ體力向上ニ關シ處置又ハ施設ヲ爲スコトヲ指示スルコトヲ得

第十四條 國又ハ道府縣ノ事業ニ使用セララル被管理者ニ關シ第五條第一項及第十條乃至第十二條ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

監獄、矯正院、少年保護院其ノ他勅令ヲ以テ定ムル施設ニ在ル被管理者ニ關シ第四條第二項、第五條第一項、第六條、第八條第一項乃至第四項及第十條乃至第十二條ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付亦前項ニ同ジ

第十五條 被管理者ヲ使用スル者ハ體力検査ノ結果ヲ不當ニ援用シテ被管理者ニ對シ不利益ナル取扱ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條ノ二 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル地方長官ノ職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保健所ノ長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第一項但書ノ規定(第六條ノ二第二項但書ノ規定ニ依リ準ズル場合ヲ含ム)ニ依ル命令ニ違反シ體力検査ヲ行ハザル者

一 被管理者(第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ヲ含ム)、保護者(第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クル者ニシテ未成年者又ハ禁治産者タルモノニ付親權ヲ行フ者、後見人タル者又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ニシテ本法施行地内ニ居住地ヲ有スルモノヲ含ム)又ハ第四條第二項但書ノ規定(第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル義務者ノ義務履行ヲ妨ゲタル者

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第四條第二項ノ規定(第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル義務者ニシテ被管理者(第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ヲ含ム)ヲシテ體力検査ヲ受ケシムル爲必要ナル措置ヲ爲サザルモノ

二 第六條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サザル者

第十七條 事業主又ハ管理人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ第十五條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條 第十五條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ未成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 體力検査其ノ他體力管理ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ職務上知得シタル人ノ秘密ヲ故ナク漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 本法ノ罰則ハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニハ之ヲ適用セズ

第二十一條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十五年九月二十四日勅令第六一八號ヲ以テ同月二十

六日ヨリ施行)

當分ノ内被管理者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得
第八條第一項ノ規定ハ第二條ノ規定ニ該當スル者ニシテ前項ノ規定ニ依リ被管理者タラザルモノノ中命令ヲ以テ定ムル者ガ體力検査ヲ受ケタル場合ニ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十七年二月法律第三十七號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十七年四月勅令第四百五十二號ヲ以テ昭和十七年五月一日ヨリ施行)

○國民體力法ノ被管理者ノ範圍限定ニ關スル件(昭和十七年三月廿六日勅令第二百四十五號)

國民體力法附則第二項ノ規定ニ依リ昭和十七年四月一日ヨリ昭和十八年三月三十一日ニ至ル迄ハ同法ノ被管理者ヲ昭和十七年十一月三十日ニ於テ年齢十五年以上ノ男子タルモノニ限定ス

國民體力法施行令

(昭和十五年九月二十五日勅令第六百二十號) (改正昭和十七年四月二十五日勅令第四五三號)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ國民體力法第二條第三號ノ規定ニ依リ被管理者タラザルモノトス

- 一 海軍豫備練習生及海軍豫備補習生
- 二 從軍中ノ陸軍軍屬

三 専ラ國民體力法施行地外ヲ航行スル船舶ノ乗組員

第一條ノ二 國民體力法第四條第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者(以下要検査被管理者ト稱ス)ノ體力検査ハ厚生大臣ノ定ムル被管理者ニ付テハ年二回、其ノ他ノ被管理者ニ付テハ年一回之ヲ行フ

第十八條第二項ノ規定ニ依リ行フ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者ノ體力検査ハ前項ノ規定ニ拘ラズ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル被管理者ニ付テハ年一回、其ノ他ノ被管理者ニ付テハ年二回之ヲ行フ

第一條ノ三 其ノ年兵役法第二十三條又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受ケ又ハ受クルコトヲ要スル要検査被管理者ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ二回體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ一回ノ體力検査ヲ、同規定ニ依リ一回體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ之ヲ行ハザルコトヲ得但シ其ノ者ガ其ノ年ノ徵兵検査ヲ受ケザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 地方長官ハ要検査被管理者ヲ常時四十人以上使用スル事務所、商店、工場、事業場等ノ事業主又ハ管理人ニ對シ其ノ使用スル要検査被管理者ノ體力検査ヲ行フコトヲ命ズベシ但シ事業主若ハ管理人ガ體力検査ヲ行フコトヲ困難トスル事情アリト認めラルルトキ又ハ事業主若ハ管理人ヲシテ體力検査ヲ行ハシムルコトガ不適當ト認めラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 要検査被管理者ヲ常時四十人以上使用スル事務所、商店、工場、事業場等ノ事業主又ハ管理人ハ毎年四月一日現在ニ依リ其ノ使用スル要検査被管理者ノ數ヲ地方長官ニ届出ヅベシ此ノ場合ニ於テ事業主又ハ管理人ガ體力検査ヲ行フコトヲ困難トスル事情アルトキハ其ノ旨併セ届出ヅベシ

第四條 第二條及國民體力法第六條ノ二第二項但書ノ規定ニ依リ事業主又ハ管理人ヲシテ體力検査ヲ行ハシムル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ施行ヲ指揮監督シ關係官吏ヲ立會ハシムベシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學校ニ在學若ハ在園シ又ハ幼稚園ニ在園スル被管理者(夜間又ハ季節的ニ授業ヲ受クル者ヲ除ク)ノ體力検査ハ當該學校長又ハ園長第一號又ハ第二號ノ學校ニ在リテハ厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、其ノ他ノ學校又ハ幼稚園ニ在リテハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ之ヲ行フベシ

- 一 官立ノ學校

體力法(施行令)

- 二 公立又ハ私立ノ大學、專門學校、實業專門學校、高等學校及之ニ準ズベキ學校
 - 三 師範學校、中學校、高等女學校及公立又ハ私立ノ實業學校
 - 四 公立又ハ私立ノ盲學校及聾啞學校
 - 五 青年學校並ニ國民學校及之ニ準ズベキ學校
 - 六 專門學校入學者檢定規程ニ依ル指定學校
- 前項第二號ノ之ニ準ズベキ學校ハ厚生大臣及文部大臣、同項第五號ノ之ニ準ズベキ學校ハ地方長官之ヲ指定ス

第六條 體力検査ヲ行フ者ハ豫メ體力検査ヲ行フベキ日時及場所ヲ定ムベシ

第一條ノ二ノ規定ニ依ル體力検査ヲ行フベキ日時ハ毎年五月一日ヨリ十月三十一日迄ノ期間内ニ於テ之ヲ定ムベシ但シ學校又ハ幼稚園ノ長ノ行フ體力検査ニ在リテハ毎年四月一日ヨリ六月三十日迄ノ期間内ニ於テ其ノ日時ヲ定ムベシ

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七條 天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ前條第二項ノ期間内ニ體力検査ヲ行フコト能ハザルトキハ第五條第一項第一號若ハ第二號、第十八條第一項若ハ第二項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ行フ體力検査ニ在リテハ學校又ハ國ノ事業場若ハ施設ノ長ハ前條第二項ノ期間外ニ於テ體力検査ヲ行フベキ日ヲ定メ、其ノ他ノ體力検査ニ在リテハ地方長官ハ別ニ期間ヲ定メ體力検査ヲ行フ者ハ其ノ期間内ニ於テ體力検査ヲ行フベキ日時ヲ定ムベシ

第八條 體力検査ヲ行フ者ハ要検査被管理者及國民體力法第四條第二項ノ規定ニ依ル義務者ニ對

シ體力検査ヲ行フベキ日時及場所ヲ了知セシムル爲必要ナル措置ヲ爲スベシ

第九條 要検査被管理者ハ所定ノ日時及場所ニ於テ體力検査ヲ受クベキモノトス

第十條 要検査被管理者疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ所定ノ日時及場所ニ於テ體力検査ヲ受クルコト能ハザル場合ハ本人又ハ國民體力法第四條第二項ノ規定ニ依ル義務者ニ於テ其ノ旨體力検査ヲ行フ者ニ届出ツベシ

前項ノ届出アリタルトキハ體力検査ヲ行フベキ日時及場所ヲ指定スベシ此ノ場合ニ於テハ第六條及第七條ノ期間ニ關スル規定ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 體力検査ハ命令ノ定ムル所ニ依リ身體計測、機能検査及疾病異常檢診ヲ行フモノトス但シ第一條ノ二ノ規定ニ依リ年二回體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ノ第二回目ノ體力検査又ハ國民體力法第六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル體力検査ニ在リテハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 國民體力法第八條第二項ノ規定ニ依ル國民體力法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ムニ依リ記載スベキ事項ニシテ醫務ニ關スルモノハ國民體力管理醫ニ於テ、其ノ他ノモノハ體力検査ヲ行フ者ニ於テ之ヲ記載スベシ

體力手帳ノ様式其ノ他體力手帳ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第十三條 國民體力管理醫ノ選任及解任ハ地方長官之ヲ行フ但シ第五條第一項第一號若ハ第二號、第十八條第一項若ハ第二項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ行フ體力検査ニ關スル醫務ニ從事セシムベキ國民體力管理醫ニ付テハ學校長又ハ國ノ事業場若ハ施設ノ長ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 國民體力管理醫ノ任期ハ二年トス但シ特定ノ醫務ニ從事セシムル爲選任シタル國民體

力管理醫ハ其ノ職務終了ト同時ニ退任ス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ國民體力管理醫ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第十五條 國民體力管理醫ハ體力検査ニ關スル職務ノ執行ニ付テハ體力検査ヲ行フ者ノ、其ノ他ノ職務ノ執行ニ付テハ地方長官ノ指揮ニ從フベシ

第十六條 國民體力管理醫第五條ノ被管理者ヲ檢診シタル場合ニ於テ就學上考慮ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其ノ旨學校又ハ幼稚園ノ長ニ通報スベシ

第十七條 第五條第一項第一號又ハ第二號ノ學校ニ在學又ハ在園スル被管理者(夜間又ハ季節的ニ授業ヲ受クル者ヲ除ク)ニ對スル國民體力法第十二條第一項ノ規定ニ依ル體力検査ニ基ク療養ニ關スル處置命令ハ當該學校ノ長ニ於テ之ヲ爲スベシ

前項ノ被管理者ニ對シ國民體力法第十二條第一項ノ規定ニ依リ體力検査ニ基ク療養ニ關スル處置ヲ命ズルノ必要アリト認ムルトキハ當該學校ノ長ハ其ノ旨保護者ノ居住地ヲ管轄スル地方長官ニ通報スベシ

第十八條 國ノ事業ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ使用セラルル被管理者ノ體力検査ハ其ノ事業場ノ長厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ之ヲ行フベシ
陸軍又ハ海軍ノ事業ニ使用セラルル被管理者ノ體力検査ニ付軍事上特ニ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議シ當該事業場ノ長ヲシテ其ノ體力検査ヲ行ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ其ノ結果ヲ厚生大臣ニ通報スルモノトス

道府縣ノ事業ニシテ地方長官ノ指定スルモノニ使用セラルル被管理者ノ體力検査ハ其ノ事業場ノ長地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ之ヲ行フベシ

第十九條 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ體力検査ニ基ク國ノ事業場ノ長ニ於テ體力検査ヲ行フ被管理者ニ對スル國民體力法第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル體力向上ニ關スル指示又ハ療養ニ關スル處置命令ハ當該事業場ノ長ニ於テ之ヲ爲スベシ

前項ノ被管理者ニ付保護者ニ對シ國民體力法第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依リ體力検査ニ基ク體力向上ニ關スル指示ヲ爲シ又ハ療養ニ關スル處置ヲ命ズルノ必要アリト認ムルトキハ當該事業場ノ長ハ其ノ旨保護者ノ居住地ヲ管轄スル地方長官ニ通報スベシ

第二十條 監獄、矯正院又ハ國立ノ少年教護院若ハ癩療養所ニ在ル被管理者ノ體力検査ハ當該施設ノ長厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ之ヲ行フベシ
公立又ハ私立ノ少年教護院又ハ癩療養所ニ在ル被管理者ノ體力検査ハ當該施設ノ指揮監督ヲ承ケ之ヲ行フベシ

第二十一條 前條ノ施設ニ在ル被管理者又ハ被管理者タリシ者ノ體力手帳ハ當該施設ノ長ニ於テ之ヲ保存スベシ

第二十二條 第二十條ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行フ場合ニ於テハ國民體力法第六條ノ規定並ニ同法第四條第二項、第十一條及第十二條ノ規定(同法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ハ之ヲ適用セズ

第二十條ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行フ場合ニ於テ必要アルトキハ第八條乃至第十條ノ規定ニ拘

體力法(施行令)

ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十二條ノ二 國民體力法第六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受ケシムルコトヲ得ル者

ハ左ニ掲グルモノトス但シ國民體力法第二條各號ニ掲グル者及第二十條第一項ノ施設ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 事務所、商店、工場、事業場等(第十八條第一項及第二項ノ國ノ事業場ヲ除ク)ニ於テ集團シテ従業スル者

二 學校(第五條第一項第一號及第二號ノ學校ヲ除ク)ニ在學若ハ在園シ又ハ勤務スル者

三 特ニ體力検査ヲ行フ必要アリト認ムル區域内ニ於テ居住又ハ従業スル者

四 其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第五條、第八條乃至第十條、第十六條、第十八條第三項、第二十條第二項及第二十一條ノ規定ハ前項ニ掲グル者ノ體力検査ニ之ヲ準用ス

○國民體力法施行令第二十二條ノ二第一項第四號ノ

規定ニ依ル指定

(昭和十七年五月十八日
厚生省告示第三百八號)

昭和十六年四月一日以後ニ出生シタル者

第二十二條ノ三 國民體力法第十二條ノ二ノ規定ニ依リ指示スルコトヲ得ル處置又ハ施設ハ保健指導、虚弱者ノ體力増強榮養又ハ環境ノ改善等ニ關スルモノトス

第二十二條ノ四 國民體力法第十四條ノ二ノ規定ニ依リ保健所ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得ル地方長官ノ職權ハ同法第十一條及第十二條並ニ第四條、第五條、第十五條、第十八條第三項及

第二十條第二項(第五條及第十八條第三項ニ關シテハ第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ規定スルモノ其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノトス

第二十三條 體力検査ニ要スル費用ニシテ左ニ掲グルモノハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ國庫之ヲ負擔ス

一 國民體力管理醫手當

二 體力検査補助者手當

三 藥品其ノ他消耗品ノ費用

第二十四條 市町村(町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村ニ準ズベキモノトス)ハ前條ノ費用ヲ一時繰替支辨スルコトヲ得一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ國民體力法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十七年法律第三十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十七年四月勅令第四百五十二號
昭和十七年五月一日ヨリ施行)

昭和十七年ニ限り第三條ノ改正規定中毎年四月一日現在トアルハ五月一日現在トス

國民體力法施行規則

(昭和十五年九月二十六日厚生省令第三十六號
改正昭和十七年七月厚生省令第三十六號)

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ國民體力法ヲ謂ヒ令ト稱スルハ國民體力法施行令ヲ謂フ

體力法(施行令)

第二條 被管理者ハ保護者ニシテ一定ノ居住地ナキモノニ付テハ左ノ各號ニ掲グル地ヲ其ノ居住地トス

一 船舶ニ居住スル者ニ在リテハ其ノ主タル碇繋地

二 巡回シテ興行ヲ爲ス者、行商ヲ爲ス者等ニ在リテハ其ノ年九月一日ノ所在地

第二條ノ二 令第一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ年二回體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者ハ第四條若ハ第五條ノ規定ニ依リ厚生大臣若ハ地方長官ノ告示シ又地方長官ノ指定スル事務所、商店、工場、事業場等ニ使用セララルモノトス

前項ノ被管理者其ノ年第一回ノ體力検査ニ於テ「ツベルクリン」皮内反應陽性轉化後一年以上經過シ結核性病變ヲ認メラレザルトキ又ハ既往ニ於ケル結核性病變ノ痕跡ヲ認ムルモ定全治癒セリト認メラレタルトキハ第二回目ノ體力検査ハ之ヲ行ハザルコトヲ得

第三條 令第三條ノ届出ハ四月十日迄ニ之ヲ爲スベシ

第四條 地方長官令第二條ノ規定ニ依リ事業主又ハ管理人ニ體力検査ヲ行フコトヲ命ジタルトキハ其ノ事務所、商店、工場、事業場等ノ名稱、所在地及事業主又ハ管理人ノ氏名ヲ四月二十日迄ニ告示スベシ

第五條 厚生大臣又ハ地方長官事業場ノ長ヲシテ體力検査ヲ行ハシムベキ國又ハ道府縣ノ事業ヲ指定シタルトキハ其ノ事業場ノ名稱及所在地ヲ告示スルモノトス

第六條 法第六條ノ届出ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ毎年四月三十日迄ニ之ヲ爲スベシ但シ五月一日以後新ニ被管理者トナリタル場合ハ第七條各號ニ掲グル被管理者同條各號ニ該當セザルニ至リ

タル場合ニ於テハ十日以内ニ第二條第二號ノ所在地ニ於テ體力検査ヲ受クル場合ニ於テハ九月一日ニ之ヲ爲スベシ

一 氏名、男女ノ別、生年月日、本籍及居住ノ場所

二 職業及就業ノ場所

三 其ノ年兵役法第二十三條又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ徴兵検査ヲ受ケ又ハ受クルコトヲ要スル者ナルトキハ其ノ旨、前項ノ届出ニシテ法第四條第二項ノ規定ニ依ル義務者ノ爲ス場合ハ前項各號ニ掲グル事項ノ外保護者（法第四條第二項但書ノ義務者アル場合ハ保護者及其ノ義務者）ノ氏名、居住ノ場所、職業及被管理者トノ關係ヲ具シ之ヲ爲スベシ、第一項第一號若ハ第二號ノ事項ニ異動ヲ生ジ體力検査ヲ受クベキ場所ノ變更ヲ要スル場合又ハ第三號ノ事項ニ異動ヲ生ジタル場合ハ更ニ第一項ノ例ニ依リ十日以内ニ被管理者ノ居住地ノ市長村長ニ届出ズベシ

第七條 左ニ掲グル被管理者ニ付テハ法第六條ノ届出ヲ要セズ

一 令第五條第一項各號ニ掲グル學校ニ在學若ハ在園シ又ハ幼稚園ニ在園スル者（夜間又ハ季節的ニ授業ヲ受クル者ヲ除ク）

二 第四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ告示シタル事務所、商店、工場、事業場等ニ使用セララル者

三 第五條ノ規定ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ノ告示シタル事業場ニ使用セララル者

四 令第十八條第二項ノ規定ニ依リ當該事業場ノ長ニ於テ體力検査ヲ行フ陸軍又ハ海軍ノ事業

體力法（施行規則）

ニ使用セラルル者

七八

第八條 保護者ノ居住地地方被管理者ノ居住地ノ市町村内ニ在ラザルトキハ第六條ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第九條 令第五條第一項第一號若ハ第二號、第十八條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行フ學校長又ハ國ノ事業場若ハ施設ノ長(以下第九條ノ體力検査施行者ト稱ス)令第七條ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行フベキ日時ヲ定メタルトキ又ハ地方長官同條ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行ハシムベキ期間ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ厚生大臣ニ報告スベシ

第十條 地方長官國民體力管理醫ヲ選仕又ハ解任シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スベシ

第十一條 地方長官法第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受ケシメントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ具シ厚生大臣ノ承認ヲ受ケベシ

- 一 體力検査ヲ受ケシムベキ者ノ範圍及員數
- 二 體力検査ノ項目
- 三 體力検査ノ時期
- 四 體力検査ヲ必要ト認ムル理由

第十二條ノ二 地方長官法第十二條ノ二ノ規定ニ依リ指示セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ厚生大臣ノ承認ヲ受ケベシ

第十一條ノ三 令第二十二條ノ四ノ規定ニ依リ保健所ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得ル地方長官ノ職權ハ第十二條及第三十一條第二項但書ニ規定スルモノトス

第二章 體力検査

第十二條 體力検査ヲ行フ者(以下體力検査施行者ト稱ス)ハ地方長官ノ定ムル體力検査施行豫定計畫ニ基キ體力検査施行計畫ヲ定メ體力検査施行二十日前迄ニ地方長官ニ報告スベシ但シ第九條ノ體力検査施行者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ體力検査施行計畫ニシテ不適當ト認メラルル場合ハ地方長官ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第十三條 體力検査施行者ハ其ノ年體力検査ヲ受クルコトヲ要スル被管理者ノ名簿ヲ作成スベシ

第十四條 體力検査施行ノ日時及場所ヲ了知セシムル爲メ市町村長ニ在リテハ體力検査施行二十日前迄ニ其ノ日時及場所ヲ告示シ其ノ他ノ體力検査施行者ニ在リテハ被管理者又ハ法第四條第二項ノ義務者ニ之ヲ告知スベシ

第十五條 令第十條第一項ノ届出ハ體力検査當日迄ニ之ヲ爲スベシ

第十六條 體力検査施行者ハ被管理者疾病ニ因リ所定ノ日時ニ出頭シ難キ場合ニ於テハ時宜ニ依リ國民體力管理醫ヲシテ其ノ療養ノ場所ニ就キ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第十七條 市町村長第六條第一項但書ノ届出ヲ受理シタルトキハ日時及場所ヲ指定シテ體力検査ヲ受ケシムベシ

第十八條 體力検査施行者ハ左ノ各號ニ準據シテ検査場ヲ設クベシ

- 一 検査場ハ廣サ、採光等ニ注意シ適當ナル場所ヲ選ブベシ

體力法(施行規則)

七九

二 検査場ニハ身體計測、機能検査及疾病異常検査ノ爲必要ナル器具其ノ他ノ設備ヲ爲スベシ
三 検査場ニハ他人ノ面前ニ於テ爲スコトヲ不適當ト認ムル検査ノ爲隔離又ハ別室ヲ設クベシ
前條又ハ令第十條第二項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ行フ場合ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十九條 體力検査ノ施行時間ハ通常午前八時ヨリ午後五時迄トス

第二十條 體力検査ハ被管理者ノ氏名、生年月日其ノ他ノ事項ニ付名簿ト對照シテ本人ナルコトヲ確メタル後之ヲ行フベシ

第二十一條 齒科醫師タル國民體力管理醫ヲシテ體力検査ニ從事セシムル場合ニ在リテハ齒牙ノ検査ハ齒科醫師タル國民體力管理醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ

第二十二條 體力検査ニ従事スル者ノ手指及體力検査ニ使用スル器具類ハ特ニ注意シテ消毒シ検査開始前豫メ點檢規正スベシ

第二十三條 身體計測及機能検査ハ身長、體重、胸圍、視力、色神、聴力、精神機能及運動機能ニ付之ヲ行フベシ但シ被管理者ノ年齢若ハ男女別ニ依リ又ハ第二條ノ二第一項ノ被管理者ノ第二回目ノ體力検査ノ場合ニ於テハ計測又ハ機能検査ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトアルベシ
學校又ハ幼稚園ニ在學又ハ在園スル被管理者ノ身體計測ニ在リテハ前項目ノ外坐高ニ付之ヲ行フコトヲ得

第二十四條 身長計測ハ足袋、靴等ヲ脱シ身長計ノ臺上ニ兩爪先ヲ左右ニ開キテ立テ兩踵ヲ密接シ背部、臀部及踵ヲ尺柱ニ接シ兩上肢ヲ自然ニ體側ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシメ正面及側面ヨ

リ全身ノ位置ヲ通視シ所要ノ矯正ヲ加ヘタル後横杆ヲ顛頂ニ當テ之ヲ爲スベシ

計測單位ハ「センチメートル」トシ四捨五入法ヲ用ヒ單位ノ下一位ニ止ムベシ

第二十五條 體重計測ハ衣類ヲ脱シ秤臺ノ中央ニ靜止セシメ體重計ノ桿ガ正シク平均ヲ保ツニ至レルトキ之ヲ爲スベシ

計測單位ハ「キログラム」トシ四捨五入法ヲ用ヒ單位ノ下一位ニ止ムベシ

第二十六條 胸圍計測ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ卷尺ヲ背面ニ於テハ兩肩胛骨ノ下隅ニ、前面ニ於テハ左右乳頭ノ直上部ニ安靜ニ呼吸セシメ呼吸ノ終レルトキ之ヲ爲スベシ
乳房ノ著シク膨隆セル女子ニ付テハ卷尺ヲ少シク其ノ上方ニ當テ之ヲ爲スベシ
計測單位ハ「センチメートル」トシ四捨五入法ヲ用ヒ單位ノ下一位ニ止ムベシ

第二十七條 視力ハ萬國式試視力表ヲ用ヒ其ノ前方「五メートル」ノ位置ニ立タシメ左右ヲ各別ニ裸眼ニ付検査スベシ眼鏡ヲ常用スル者ニ付テハ前項ノ裸眼視力ノ検査ノ外眼鏡ヲ裝用シタルトキノ視力ヲ併セ検査スベシ

視力障碍アル者ニ付テハ屈折異常ノ有無ヲ検査スベシ

第二十八條 色神ハ色盲検査表ヲ用ヒ異常ノ有無ヲ検査スベシ

第二十九條 聴力ハ低話聲又ハ囁語ヲ以テスル方法ニ依リ検査スベシ

第三十條 疾病異常検査ハ主トシテ結核性疾患「トラホーム」花柳病、寄生蟲病、精神病、精神薄弱、心臟病、腎臟病、榮養障碍、脚氣、痔瘻、齒疾及形態異常ニ付之ヲ行フベシ

第三十一條 結核性疾患ノ検査ニ付テハ「ツベルクリン」皮内反應検査ヲ行フベシ但シ反應陽性ナ

ルコト明カナル者又ハ國民體力管理醫ニ於テ不適當ト認ムル者ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得
「ツベルクリン」皮内反應陽性若ハ疑陽性ナル者ハ國民體力管理醫ニ於テ必要ト認ムル者ニ付テ
ハ「エックス」線間接撮影又ハ「エックス」線透視ヲ行フベシ但シ體力検査施行者地方長官（第九
條ノ體力検査施行者ニ在リテハ厚生大臣）ノ承認ヲ受ケタル場合又ハ己ムコトヲ得ザル事由ニ
依リ行フコト困難トナリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 花柳病及痔瘻ノ検査ハ十七年以上ノ男子ニ付テハ局所検査ヲ施行スベシ

第三十三條 結核性疾患、花柳病其ノ他特ニ指導ヲ必要トスル疾病ニ罹リ又ハ罹レル疑アル者ニ
付テハ別ニ「エックス」線直接撮影、赤血球沈降速度測定、喀痰検査、血液検査其ノ他ノ方法ニ
依リ成ル可ク精密ニ之ヲ検査スベシ

前項ノ検査ニ際シテハ其ノ療養ノ状況ヲ併セ調査スベシ

第三十四條 疾病、異常其ノ他己ムコトヲ得ザル事由ニ因リ検査ヲ爲スコト困難ナル被管理者ニ
付テハ體力検査ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條ノ二 體力検査ヲ受ケベキ日前三月以内ニ於テ第四十二條ノ二各號ニ掲グル體力ニ關
スル検査又ハ第四十五條ノ二第三號ニ掲グル健康診断ヲ受ケ其ノ結果明カナルトキハ其ノ検査
又ハ健康診断ノ結果ヲ以テ體力検査ノ結果ト看做シ體力検査ニ於ケル當該項目ノ検査ヲ省略ス
ルコトヲ得

第三十五條 體力検査施行者體力検査ヲ行ヒタルトキハ各被管理者ニ付様式第一號ニ依リ體力檢
査票ヲ作成スベシ體力検査票ノ記載ニ付テハ令第十二條第一項ノ例ニ依ル

第三十六條 體力検査票ハ體力検査施行者ニ於テ年齢別、男女別ニ編綴シ五年間之ヲ保存スベシ

第三十七條 削除

第三十八條 削除

第三十九條 體力検査施行者ハ體力検査ノ結果ヲ體力検査施行後（年二回之ヲ行フ場合ニ在リテ
ハ各回毎ニ其ノ施行後）一月以内ニ地方長官ニ報告スベシ但シ第九條ノ體力検査施行者ニ在リ
テハ厚生大臣ニ之ヲ爲スベシ

第四十條 地方長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ體力検査集計表ヲ調製シ十一月三十日（年二回
體力検査ヲ行フ場合ノ第二回分ニ在リテハ翌年二月末日）迄ニ厚生大臣ニ之ヲ送付スベシ

第四十一條 法第六條ノ二第一項ノ體力検査ノ項目、時期、方法其ノ他體力検査ニ關シ必要ナル
事項ハ本章ノ規定ニ拘ラズ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第三章 體力手帳

第四十二條 體力手帳ハ被管理者初メテ體力検査ヲ受ケタルトキ體力検査施行者ニ於テ之ヲ交付
ス

第四十二條ノ二 法第八條第三項（法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ體力
ニ關スル検査ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 結核預防法第四條第一項第一號ノ規定ニ依ル健康診断
- 二 「トラホーム」預防法第四條第一項第一號ノ規定ニ依ル検査

體力法（施行規則）

- 三 寄生虫病豫防法第二條第一項ノ規定ニ依ル健康診斷又ハ糞便検査
- 四 工場法施行規則第八條又ハ第八條ノ二第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル健康診斷
- 五 工場附屬寄宿舎規則第十六條ノ規定ニ依ル健康診斷
- 六 其ノ他厚生大臣ノ指定スル體力ニ關スル検査

第四十二條ノ三

法第八條第三項(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ疾病

- ハ左ニ掲グルモノニシテ將來體力ニ著シキ影響アリト認メラルル疾病トス
- 一 結核性疾患
- 二 慢性氣管支炎
- 三 花柳病
- 四 精神病、精神薄弱
- 五 心臟病
- 六 腎臟病
- 七 脚氣
- 八 痔瘻
- 九 慢性胃腸疾患
- 十 「トラホーム」

十一 其ノ他顯著ナル内臓又ハ神經系統ノ機能障礙アル疾病

第四十三條

體力手帳ハ被管理者タリシ者男子ニ在リテハ年齢二十六年、女子ニ在リテハ年齢二

十年ニ達スル迄之ヲ保存スベシ但徵兵検査ヲ未ダ終ラザル者ニ在リテハ之ヲ終ル迄保存スベシ

第四十四條 自己ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ體力手帳ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ハ其ノ事由ヲ具シ且毀損ノ場合ニ於テハ其ノ體力手帳ヲ添へ最終ニ體力検査ヲ受ケタル體力検査施行者ニ再交付ヲ申請スベシ

前項ノ申請ニシテ理由アリト認ムルトキハ體力検査施行者ハ本人ノ體力検査票ニ基キ所定ノ事項ヲ體力検査ニ轉記シ之ヲ交付スベシ

第四十五條

體力手帳ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ提示スベシ

- 一 體力検査ヲ受クルトキ
- 二 法第十一條ノ規定(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ體力向上ニ關スル指示ヲ受クルトキ
- 三 法第十二條第一項ノ規定(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ療養ニ關スル處置命令ヲ受クルトキ
- 四 法第十二條第二項ノ規定(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ國民體力管理醫ニ就キ療養ノ指導ヲ受クルトキ
- 五 第四十二條ノ二各號ニ掲グル體力ニ關スル検査ヲ受クルトキ
- 六 第四十二條ノ三各號ニ掲グル疾病ニ罹レルモノト醫師ヨリ診斷ヲ受ケタルトキ
- 七 其ノ他法令ノ規定ニ依リ提示ヲ命ゼラレタルトキ

第四十五條ノ二

體力手帳ノ交付ヲ受ケタル者ヨリ左ニ掲グル事項ニ關シ體力手帳ニ之ヲ記載ノ

體力法(施行規則)

申出アリタルトキハ醫師、齒科醫師其ノ他當該施行者ニ於テ其ノ記載ヲ爲スコトヲ得

一 法第十一條ノ規定(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル指示ニ基ク措置

二 法第十二條第一項ノ規定(法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル療養ニ關スル處置命令ニ基ク醫師ノ診療

三 保健所、國民體力管理醫又ハ地方長官ノ指定スル醫師又ハ齒科醫師ニ於テ爲シタル健康診斷又ハ保健指導

四 種痘其ノ他豫防接種「ツベルクリン」反應又ハ血液其ノ他ノ検査

五 體力章檢定其ノ他體力ニ關シ特ニ參考トナルベキ事項

第四十五條ノ三 體力手帳ノ記載事項ニシテ本人ニ著シキ衝動ヲ與フルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ記載ニ付特ニ注意スベシ

第四十六條 體力手帳ハ様式第二號ニ依ル

第四章 指導其ノ他ノ措置

第四十七條 國民體力管理醫法第十條ノ規定ニ依リ體力向上ニ關スル指導ヲ爲サントスル場合ハ

左ノ各號ニ依ルベシ

一 指導ハ被管理者ノ年齢、環境等ニ應ジテ之ヲ爲スベシ

二 指導ハ疾病異常ノ治療矯正ニ付之ヲ爲スノ外検査ノ結果ヲ綜合シ榮養其ノ他保健ニ關シ之

ヲ爲スベシ

三 指導事項ニシテ被管理者ニ著シキ衝動ヲ與フルノ虞アルト認ムルモノハ法第四條第二項ノ義務者ニ對シ之ヲ爲スベシ

四 指導事項ニシテ重要ナルモノハ體力手帳ニ之ヲ記載スベシ

第四十八條 法第十二條第一項ノ主務大臣ノ指定スル疾病トハ左ニ掲グル疾病トス

一 結核性疾患

二 花柳病

第四十九條 體力検査施行者ハ法第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル體力向上ニ關スル指示又ハ療養ニ關スル示又ハ療養ニ關スル處置命令ヲ要スル者アルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告スベシ但シ令第十七

條又ハ第十九條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 法第十一條及第十二條第一項ノ體力ニ關スル検査ハ第四十二條ノ二ニ規定スルモノトス

○國民體力法施行規則第五十條ノ規定ニ依ル指定(昭和十七年七月十四日 厚生省告示第四百四十九號)

徵兵検査

第五十一條 法第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル體力向上ニ關スル指示又ハ療養ニ關スル處置命令ハ體力検査ニ基ク場合ニ在リテハ體力検査施行者ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ被管

理者ノ居住地ヲ市町村長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ但シ令第十七條第二項又ハ第十九條第二項ノ

規定ニ依ル通報ニ基キテ爲ス指示又ハ處置命令ハ之ヲ爲シタル後其ノ旨ヲ體力検査施行者ニ通

體力法(施行規則)

知スルヲ以テ足ル

第五十二條 地方長官事務所、商店、工場、事業場等ニ使用セラルル被管理者又ハ其ノ保護者ニ對シテ法第十一條ノ規定ニ依リ就業ノ場所若ハ時間ノ制限又ハ業務ノ變更ニ關スル指示ヲ爲シタルトキハ其ノ旨被管理者ヲ使用スル者ニ通知スベシ但シ被管理者ヲ使用スル者ニ對シテ指示ヲ爲シタル場合又ハ事業主若ハ管理人體力検査施行者ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
國又ハ公共團體ノ體力向上施設ノ利用其ノ他ニ關スル指示ニシテ被管理者休業ヲ要スル場合前項ニ亦同ジ

第五十三條 法第十二條第一項ノ規定ニ依リ療養ニ關スル處置ヲ命ゼラレタル者其ノ處置ヲ開始シ又ハ終了シタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告スベシ但シ令第十七條第一項又ハ第十九條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條 法第十二條第一項ノ規定ニ依リ療養ニ關スル處置ヲ命ゼラレタル者同條第二項ノ規定ニ依リ國民體力管理醫ニ就キ療養ノ指導ヲ受ケントスルトキハ被管理者ノ氏名、療養ニ關スル處置ヲ命ゼラレタル月日及事由ヲ具シ被管理者ノ居住地ノ市町村長ヲ經由シテ地方長官ニ申請スベシ療養ノ指導ヲ受クル者當該道府縣外ニ居住地ヲ移轉シ引續キ療養ノ指導ヲ受ケントスルトキ亦同ジ

國民體力管理醫ニ就キ療養ノ指導ヲ受クル者當該道府縣内ニ於テ居住地ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨居住地ノ市町村長ヲ經由シテ地方長官ニ届出ツベシ

第五十五條 地方長官前條第一項ノ申請ニシテ法第十二條第二項ノ規定ニ依リ國民體力管理醫ニ

就キ療養ノ指導ヲ受ケシムベキモノト認ムルトキハ國民體力管理醫ヲ指定シテ之ヲ申請者ニ告示スベシ前條第二項ノ届出アリタル場合ニ於テ國民體力管理醫ノ變更ヲ要スルトキ亦同ジ

第五十六條 法第十二條第二項ノ療養ノ指導ニ従事スル國民體力管理醫ハ様式第四號ニ依ル療養指導簿ヲ備付クベシ

國民體力管理醫療養ノ指導ヲ爲シタルトキハ其ノ都度前項ノ療養指導簿及體力手帳ニ其ノ要領ヲ記載スベシ

第五十七條 國民體力管理醫ハ毎月五日迄ニ前年分ノ療養ノ指導ニ關スル狀況ヲ地方長官ニ報告スベシ

第五十八條 體力検査施行者第五十一條ノ規定ニ依リ指示又ハ處置命令ノ經由又ハ通知ヲ受ケタルトキ其ノ要旨ヲ體力手帳ニ記載スベシ

令第十七條第一項又ハ第十九條第一項ノ規定ニ依リ指示又ハ處置命令ヲ爲シタル場合亦前項ニ同ジ

第五十八條ノ二 第四十七條及第五十六條ノ規定ニ於テ法第十條、第十一條、第十二條第一項又ハ第十二條第二項トアルハ法第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ準用スル場合第四十七條、第五十一條、第五十二條及第五十四條中被管理者トアルハ法第六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要スル者ヲ含ムモノトス

第五章 雜 則

體力法(施行規則)

第五十九條 法令ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ爲スコトヲ命ゼラレタル事業主國民體力法ノ規定ニ依ル體力検査ヲ以テ其ノ健康診斷ニ代フル爲必要アル場合ハ其ノ使用スル被管理者ノ體力検査ヲ行ヒタル市町村長又ハ學校長ニ對シ當該被管理者ノ體力検査票ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

○國民體力法ニ依ル體力検査施行事務取

扱細目ニ關スル件

(昭和十六年四月十二日
厚生省體力局長通牒)

今般地方長官ノ指揮監督ヲ承クル體力検査ニ關シ別紙「國民體力法ニ依ル體力検査施行事務取扱細目」作成候條爾今體力検査ノ施行ニ付テハ關係法令ニ依ルノ外左記事項御留意ノ上本細目ニ依リ之ガ適用圓滑ナル實施ヲ圖リ遺憾ナキヲ期セラレ度

記

- 一、事業主又ハ管理人ニ對スル體力検査施行ノ命令ニ關スル事項
 - (一) 令第三條ノ届出ハ別記(一)様式ニ依リ毎年四月二十日迄ニ(規則第三條)之ヲ爲スコト
 - (二) 同一道府縣内ニ在ルニ以上ノ事務所、商店、工場、事業場等ニシテ事業主ヲ同ジクスルモノ(例本店ト支店、本社ト支社、本工場ト分工場)等ニ付テハ其ノ常時使用スル被管理者ノ數ガ合計シテ四十人以上トナリ且同一體力検査場ニ於テ體力検査ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ右届出ハ綜合シテ之ヲ爲スコトヲ得ルコト

- (三) 一事業ガ二府縣以上ニ誇ル場合(例地方鐵道、軌道等)ハ各營業所、支社等所在ノ府縣毎ニ届出ヲ爲スベキモ本社ニ於テ綜合シテ體力検査ヲ爲シ得ル場合ニ在リテハ右届出ハ本社ノ長ニ於テ綜合シテ之ヲ爲スコトヲ得ルコト
- (四) 令第二條ノ體力検査施行ノ命令ハ當該事業主又ハ管理人ニ付設備其ノ他ニ於テ検査ノ施行ニ支障ナキコトヲ充分調査シタル後之ヲ爲スコト
- (五) 右施行ノ命令ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スコト
- (六) 體力検査ノ施行ヲ命ゼラレタル事業主又ハ管理人ハ所屬ノ被管理者ニ對シ其ノ者ノ體力検査ハ當該事務所、商店、工場、事業場等ニ於テ行フモノナルコトヲ充分了知セシメ置クコト

二、道府縣ノ事業指定ニ關スル事項

- (一) 事業場ノ長ヲシテ體力検査ヲ施行セシムベキ道府縣ノ事業ハ道府縣營ノ電氣、水道、土木等ヲ指稱シ指定ノ標準ハ大體被管理者ヲ常時四十人以上使用スルモノト爲スコト
- (二) 右指定事業ニ關スル規則第五條ノ告示ハ成ル可ク四月三十日迄ニ之ヲ爲スコト但シ前年度以前ニ於テ既ニ告示ヲ爲シタルモノニ付テハ告示ヲ要セザルコト
- (三) 指定ヲ爲シタル事業ニ付事業場ノ名稱若ハ所在地ニ變更アリタルトキ又ハ指定ノ取消ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告示スルコト
- (四) 指定事業ノ事業場ノ長ハ所屬ノ被管理者ニ對シ其ノ者ノ體力検査ハ當該事業場ノ長ニ於テ行フベキ旨ヲ了知セシメ置クコト

三、市町村長ニ對スル被管理者届出ニ關スル事項

(一) 規則第六條第一項本文(第七條又ハ第八條)ノ届出ハ別記(二)様式ニ依リ毎年五月十日迄ニ之ヲ爲サシムルコト

規則第六條第二項(第七條又ハ第八條)ノ異動ノ都度直ニ別記(三)様式ニ依リ之ヲ提出セシムルコト

(二) 市町村長ハ届出用紙ヲ届出ヲ要スル被管理者ニ付漏ナク配付スルコト特ニ都市等ニ在リテハ隣組、町内會等ノ協力ヲ求メ配付洩ナキヲ期スルコト

(三) 市町村長届出用紙ヲ配付スルニ當リテハ届出ノ正確ヲ期スル爲成ル可ク同時ニ届出ニ關スル心得書ヲ配付スルコト

(四) 一般學生、生徒ニ付テハ届出ヲ要セザルモ左ニ掲グル者ニ付テハ届出ヲ要スルヲ以テ道府縣ニ於テハ豫メ當該學校長ヲシテ當該學生生徒ニ對シ其ノ者ノ體力検査ハ市町村長ニ於テ行フモノナルコト及其ノ者ニ付届出ノ必要ナルコトヲ充分了知セシメ置クコト

(イ) 夜間ノ學校又ハ學部ノ學生、生徒

(ロ) 季節制ノ學校其ノ他晝間通年制ニ非ザル學校ノ生徒

(ハ) 各種學校(專門學校入學者檢定規程ニ依リ指定學校ノ晝間ノモノヲ除ク)ノ生徒

四、被管理者名簿ノ作成ニ關スル事項

(一) 規則第十三條ノ被管理者名簿ハ別記(四)様式ニ依リ之ヲ作成スルコト但シ市町村長ニ於テハ被管理者届ヲ編綴シ之ニ索引ヲ附シ名簿ヲ作成スルモ差支ナキコト

(C1) 市町村長ノ作成スル被管理者名簿ニ付テハ左ノ點ニ留意スルコト

1 左ニ掲グル學生、生徒ノ體力検査ハ居住地市町村長ニ於テ行フベキニ付名簿ニ登載洩ナキヲ期スルコト

(イ) 夜間ノ學校又ハ學部ノ學生、生徒

(ロ) 季節制ノ學校其ノ他晝間通年制ニ非ザル學校ノ生徒

(ハ) 各種學校(專門學校入學者檢定規程ニ依リ指定學校ノ晝間ノモノヲ除ク)ノ生徒

2 左ニ掲グル者ノ體力検査ハ市町村長ニ於テ行ハザルニ付名簿ニ登載セザルコト

(イ) 厚生大臣又ハ地方長官ノ指定シタル國又ハ道府縣ノ事業ニ使用セラルル被管理者

(ロ) 陸海軍ノ事業ニシテ當該事業場ノ長ニ於テ體力検査ヲ行フモノニ使用セラルル被管

理者

(ハ) 地方長官ヨリ體力検査ノ施行ヲ命ゼラレタル事務所、商店、工場、事業場等ニ使用

セラルル被管理者

陸海軍ノ事業ニ使用セラルル被管理者ニ付テハ届出ニ依ツテ之ヲ知り得ルモ、當該事業場ノ長ニ於テ體力検査ヲ行フモノナルカ否カハ届出ニ記載セラレ居ラザルヲ以テ此ノ點ニ付テハ別ニ通知セラルル所ニ依リ調査ノ上確カムルコト

(三) 學校長ニ於テ作成スル名簿ニ付テハ夜間又ハ季節的ニ授業ヲ受クル學生、生徒ハ名簿ニ登載セザルコト

(四) 名簿作成後ニ於ケル被管理者ノ異動ニ付テハ異動届、調査等ニ依リ名簿ヲ加除訂正スル

體力法(通則)

五、體力検査ニ従事スベキ國民體力管理醫ノ選任派遣ニ關スル事項

(一) 國民體力管理醫ハ開業セル醫師又ハ齒科醫師ノ外保健所、健康相談所、花柳病診療所、官公立病院又ハ赤十字病院、濟生會病院其ノ他私立病院ニ勤務スル醫師ノ中ヨリ之ヲ委嘱又ハ任命スルコト

(二) 學校醫又ハ學校醫科醫ハ之ヲ國民體力管理醫ニ選任スルコト

(三) 體力検査ニ従事セシムベキ國民體力管理醫ノ委嘱又ハ任命ニ付テハ左ノ例ニ依リ辭令ヲ交付スルコト

「昭和 年度體力検査施行ニ附國民體力管理醫ヲ委嘱ス(命ズ)」

任期二年ノ國民體力管理醫ハ前項ノ辭令ヲ用ヒズシテ體力検査ニ従事セシムルコト

(四) 體力検査ニ従事スベキ國民體力管理醫ニ付テハ各自ニ付其ノ派遣先ヲ定メ其ノ住所及氏名ヲ夫々當該體力検査施行者ニ通知スルコト

(五) 無醫村、島嶼等僻遠ノ地ニシテ開業醫タル國民體力管理醫ヲ派遣スルコト困難ナル場合ハ官吏タル國民體力管理醫ヲ派遣スル等適當ナル方途ヲ講ズルコト

六、體力検査ノ施行ニ關スル事項

(一) 體力検査施行計畫

1 規則第十二條ノ體力検査施行計畫報告ハ別記五様式ニ依リ之ヲ爲スコト

2 右體力検査施行計畫報告ノ作成ニ付テハ左ニ依ルコト

(イ) 期日ハ學校長ノ行フ體力検査ニ在リテハ四月一日ヨリ六月三十日迄ノ期間ニ於テ、其ノ他ノモノニ在リテハ七月一日ヨリ九月三十日迄ノ期間ニ於テ定ムルコト但シ道府縣

ニ於テ體力検査ノ日割ヲ定メタル場合ハ之ニ依ルヲ適當トスルコト

(ロ) 體力検査ノ施行時間ハ通常午後一時ヨリ午後五時迄ナルモ都合ニ依リ午前ニ互ル等右時間ニ依ラザルモ差支ナキコト此ノ場合ハ其ノ事由ヲ計畫報告書ニ記載スルコト

(ハ) 「ツベルクリン」注射ニ従事スル國民體力管理醫ノ數ハ一日當概ネ被管理者二百人ニ付一人ノ割合ト爲スコト

(ニ) 「ツベルクリン」注射ハ狀況ニ依リ疾病異常檢診ト別ノ場所ニ於テ行フモ差支ヘナキコト

(ホ) 疾病異常檢診ハ「ツベルクリン」注射ノ翌々日ニ於テ行ヒ之ニ従事スル國民體力管理醫ノ數ハ一日當被管理者四十人乃至五十人ニ付一人ノ割合ト爲スコト

(二) 體力検査ノ日時及場所ノ周知方法

體力検査施行者體力検査ノ日時及場所ヲ決定シタルトキハ市町村長ニ在リテハ検査施行ノ二日前迄ニ之ヲ告示シ、其ノ他ノ施行者ニ在リテハ被管理者又ハ保護者(被管理者ヲ寄寓セシムル者)アル場合ハ其ノ者ニ對シ之ヲ告知スベキモノナルモ(規則第十四條)市町村長ニ在リテハ右告示ヲ爲ス外成ル可ク被管理者又ハ届出人ニ通知スルコト

(三) 體力検査ノ場所

體力検査場ノ設置ニ付テハ規則第十八條ノ規定ニ依ルノ外左ニ依ルコト

體力法(通則)

市町村長ノ行フ體力検査ニ在リテハ體力検査場ニ左ノ例ニ依リ表示ヲ爲スコト

「廻町區第一體力検査場」「河内村體力検査場」

精密検査場ハ結核性疾患、花柳病等ノ検査ニ必要ナル設備ヲ有スル既存ノ施設（例ヘバ保健所、健康相談所、花柳病診療所、病院等）ノ利用等ニ依リ之ヲ設クルコト、尙當該市町村内ニ右精密検査ヲ行フニ適當ナル施設ナキトキハ他市町村内ノ施設ニ之ヲ設クルモ差支ナキコト

距離ノ遠隔、交通ノ不便其ノ他ノ事由ニ因リ前項ニ依リ難キ場合ハ一般體力検査場ニ別室ヲ設ケ精密検査ヲ行フコト

(四) 體力検査補助者

- 1 體力検査施行者ハ必要ニ應ジ體力検査補助者ヲ置キ身體計測、機能検査、疾病異常検査補助、體力検査票ノ記入、體力検査場ノ設置、體力検査結果等ノ事務ニ從事セシムルコト
- 2 右補助者ノ數ハ地方長官ノ示シタル標準ニ依ルコト
- 3 體力検査補助者ハ教職員、在郷軍人、青少年團員、看護婦其ノ他適當ナル者ニ付體力検査施行者ニ於テ之ヲ委嘱スルコト
- 4 體力検査補助者中身體計測、機能検査及疾病異常検査補助ニ從事スル者ハ之ヲ「國民體力検査員」ト稱スルコト

(五) 體力検査ノ項目

- 1 體力検査ノ項目ハ左ノ通ナルモ身體計測及機能検査ニ付テハ厚生大臣ニ於テ被管理者ノ

年齢ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトアルベキコト

身體計測及機能検査

身長、體重、胸圍、視力、色神、聽力、精神機能及運動機能（荷重速行）

疾病異常検査

結核性疾患（ツベルクリン）皮内反應ヲ含ム、「トラホーム」、花柳病、寄生蟲病、精神病、榮養障碍、脚氣、齒疾、形態異常其ノ他

- 2 「ツベルクリン」皮内反應検査ハ反應陽性ナルコト明カナル者及國民體力管理醫ニ於テ不適當ト認ムル者ニ付テハ之ヲ省略スルコト（規則第三十一條）

- 3 運動機能検査ハ疾病異常検査ノ後ニ之ヲ行ヒ検査ノ結果不適當ト認メラルル者ニ付テハ之ヲ省略スルコト（規則第三十四條）

- 4 規則第十六條ノ検査ヲ行フ被管理者ニ付テハ適宜検査項目ヲ省略スルコト（規則第三十四條）

(六) 體力検査ノ方法並ニ體力検査票及精密検査票ノ作成

別冊「體力検査方法及記載要領」附「體力向上ニ關スル指導」及「體力検査精密検査指針」ニ依ルコト

(七) 法第十條ノ體力向上ニ關スル指導

規則第四十七條ノ規定ニ依ルノ外別冊「體力検査方法及記載要領」附「體力向上ニ關スル指導」ニ依ルコト

體力法（通則）

(八) 不參者ノ檢診

- 1 令第十條第一項ノ體力検査不參届ニハ不參事由ノ外出頭シテ體力検査ヲ受ケ得ル者ニ在リテハ其ノ見込期日ヲ、疾病ノ爲出頭シテ體力検査ヲ受ケ得ル見込立タザル者ニ在リテハ療養ノ場所ニ於テ檢診ヲ希望スル旨及療養ノ場所ヲ記載セシムルコト
右不參届ハ別記(六)様式ニ依リ體力検査當日迄ニ之ヲ爲サシムルコト
- 2 體力検査施行者ハ右不參届アリタル者ニ付改メテ検査ノ日時及場所ヲ指定シテ検査ヲ受ケシムベキモノナルモ(令第十條第二項)療養ノ場所ニ於テ檢診ヲ受ケルコトヲ希望スル者ニ付テハ事情調査ノ上出頭シテ體力検査ヲ受ケ得ザルモノナルコトヲ確認シタル後規則第十六條ノ檢診ヲ行フコト
- 3 規則第十六條ノ檢診ニ付テハ居宅療養ノ者ト病院、療養所等ニ於テ療養ノ者トヲ區分シ、前者ニ付テハ擔當國民體力管理醫ヲ定メ豫メ檢診順路ヲ調査シ置キ成ル可ク一齊検査期日ノ前後ニ於テ檢診ヲ行ハシメ、後者ニ在リテハ當該病院、療養所等ノ醫師ヲシテ檢診ヲ行ハシムルコト、此ノ場合當該醫師國民體力管理醫タラザル場合ニ於テハ検査施行者ヨリ右醫師ノ國民體力管理醫選任方ヲ道府縣ニ願出ヅルコト
- 4 市町村長其ノ告示ヲ爲シタル検査ヲ終リタル後規則第六條第二項ノ被管理者異動届ヲ受理シタル場合ニ於テ當該被管理者ガ他ノ検査施行者ノ行フ體力検査ヲ受ケ得ザル者ナルトキハ其ノ者ノ體力検査ハ當該市町村長ニ於テ不參者ノ場合ニ做ヒ之ヲ行フコト

(九) 體力手帳ノ記入、交付及再交付

- 1 體力手帳ノ記入ニ付テハ疾病異常及法第十條ノ體力向上ノ指導ニ關スル事項ハ國民體力管理醫ニ於テ、其ノ他ノ事項ハ検査補助者等ニ於テ記入スルコト、右記入ニ付テハ検査終了後體力検査票ヨリ轉記スルモ差支ナキコト
 - 2 前年度以前ニ於テ體力手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ検査開始前之ヲ検査施行者ニ提出セシメ記入スルコト
 - 3 體力手帳ハ前二項ニ依リ記入ヲ了シタル後成ル可ク速ニ交付スルコト
 - 4 體力手帳ヲ滅失毀損シタル者ニ對スル再交付ニ付テハ慎重ヲ期シ充分事由ヲ調査シタル後之ヲ爲スコト(規則第四十四條)
尙再交付シタル體力手帳ニハ其ノ表紙交付年月日ノ下ニ「再交付」ノ標示ヲ爲スコト
- (十) 學校長ノ行フ體力検査ト學校身體検査トノ關係
- 學校長ノ行フ體力検査ハ左ニ依リ學校身體検査ト可及的合一シテ之ヲ施行スルコト但シ體力検査標、精密検査票、結果報告等ハ學校身體検査規程ニ依ルモノトハ別ニ之ヲ作成スルコト
- 1 検査項目乃至事項ヲ同ジクスルモノニ付テハ同一ノ検査ヲ以テ兩検査ニ充ツルコト
 - 2 検査項目乃至事項ヲ異ニスルモノニ付テモ成ル可ク同一時期ニ之ヲ行フコト
- (十一) 其ノ他
- 一定ノ居住地ナキ者ニシテ巡回シテ興行又ハ行商ヲ爲スモノ等ニ付テハ九月一日現在ニ依ル届出ニ基キ(規則第六條第一項但書)市町村長ニ於テ適當ナル期日ニ於テ其ノ者ノ體力検査ヲ行フコト

2 令第五條第一項ノ學校ノ學生、生徒又ハ規則第四條、第五條ノ告示アリタル事務所、商店、工場、事業場等ニ使用セラルル被管理者ニシテ疾病等ノ爲體力検査施行期間内ニ登校又ハ出勤ノ見込ナク當該學校長、事業主等ニ於テ其ノ者ノ體力検査ヲ行フニ支障アルモノニ付テハ之ヲ市町村長ノ行フ體力検査ヲ受クベキモノトシテ取扱フコト

3 病院又ハ療養所等ニ入院又ハ入所中ノ被管理者ニシテ體力検査ノ施行期間内ニ退院又ハ退所ノ見込ナキモノノ居住地ハ當該病院又ハ療養所等所在地ノ市町村ニ在ルモノトシテ取扱フコト

七、體力検査後ノ諸事務ニ關スル事項

- (一) 體力向上施設利用ニ關スル指示ニ付テノ申告
體力検査施行者ハ體力検査終了後遲滞ナク別ニ定ムル「要體力向上施設利用被管理者」ニ該當スル者ノ數ヲ別記(七)様式ニ依リ地方長官ニ報告スルコト
體力向上施設利用ニ關スル指示ニ付テノ申告ハ道府縣ヨリノ通知ニ基キ右要體力向上施設利用被管理者該當者ノ中ヨリ之ヲ爲スコト但シ學校長ニ在リテハ右申告ヲ爲スヲ要セザルコト
- (二) 療養ニ關スル處置命令ニ付テノ申告
療養ニ關スル處置命令ニ付テノ申告ハ體力検査ノ結果結核性疾患又ハ花柳病ノ診斷ヲ下サレタル被管理者ニシテ現ニ醫師ニ就キ療養ヲ爲シ居ラザルモノ全部ニ付別ニ定ムル療養ニ關スル處置命令實施要綱ニ依リ検査終了後遲滞ナク之ヲ爲スコト
- (三) 體力検査結果報告

體力検査施行者ハ別ニ定ムル様式ニ依リ體力検査結果報告ヲ調製シ十月三十一日迄ニ地方長官ニ提出スルコト(規則第三十九條)

(四) 體力検査票及精密検査票ノ取扱

- 1 體力検査施行者ハ法令ニ定メアル場合(規則第五十九條)ヲ除クノ外體力検査票及精密検査票ヲ他人ニ閱覽セシメザルコト
- 2 體力検査票ハ體力手帳ノ再交付等ノ爲ニ必要ナルノミナラズ將來國民體力ノ調査資料トシテ使用セラルルコトアルベキヲ以テ保存期間(三年間)中滅失毀損セザル業之ガ保存ニ充分留意スルコト(規則第三十六條)
- 3 精密検査票ハ(一)(二)ノ申告ヲ要スル被管理者ノ分ト然ラザル被管理者ノ分トヲ區別シ前者ハ申告書ニ添附シ、後者ハ之ヲ取纏メ成ル可ク速ニ地方長官ニ送付スルコト(規則第三十八條)
- 4 精密検査票及體力検査票ノ取扱ニ付テハ秘密ノ漏泄セザル様充分留意スルコト

(五) 體力検査集計表及精密検査集計表ノ調製

地方長官ハ別ニ定ムル様式ニ依リ體力検査集計表及精密検査集計表ヲ調製シ十一月三十日迄ニ厚生大臣ニ提出スルコト(規則第四十條及第四十一條)

別記(一)様式

體力検査施行ニ關スル事務所(商店、工場、事業場等)届

一、名稱及所在地

一、事業主又ハ管理人ノ氏名

一、該當被管理者數

一、體力檢査ノ施行ヲ困難トスル事由アルトキハ其ノ事由
右御届候也

昭和 年 月 日

(届出人住所氏名印)

地方長官 殿

青年學校令

(昭和十四年四月二十六日勅令第二五四號
昭和十六年三月勅令第一五五號改正)

第一章 目的

第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須
要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資格ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二章 課程

第二條 青年學校ニ本科及研究科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ本科ノミヲ置クコトヲ得

第三條 本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年女子ニ在リテハ三年トス
但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得

研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス

第四條 本科ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一學年及第二學年ニ於テ各二百十時以上、第
三學年以上ニ於テ各百八十時以上トシ女子ニ在リテハ各學年二百十時以上トス

研究科ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第五條 本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科並ニ教練科ト
シ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科並ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ムベシ但シ修身及公民科ハ
之ヲ缺クコトヲ得ズ教授及訓練科目ノ程度ハ文部大臣之ヲ定ム

青年學校令

- 一、名稱及所在地
- 一、事業主又ハ管理人ノ氏名
- 一、該當被管理者數
- 一、體力檢査ノ施行ヲ困難トスル事由アルトキハ其ノ事由
右御届候也

昭和 年 月 日

(届出人住所氏名印)

地方長官 殿

青年學校令

(昭和十四年四月二十六日勅令第二五四號
昭和十六年三月勅令第一五五號改正)

第一章 目的

第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須
要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資格ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二章 課程

第二條 青年學校ニ本科及研究科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ本科ノミヲ置クコトヲ得

第三條 本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年女子ニ在リテハ三年トス

但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得

研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス

第四條 本科ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一學年及第二學年ニ於テ各二百十時以上、第

三學年以上ニ於テ各百八十時以上トシ女子ニ在リテハ各學年二百十時以上トス

研究科ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第五條 本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科並ニ教練科ト

シ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科並ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ムベシ但シ修身及公民科ハ

之ヲ缺クコトヲ得ズ教授及訓練科目ノ程度ハ文部大臣之ヲ定ム

青年學校令

第六條 青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 特別ノ學歷若ハ素養ヲ有スル生徒又ハ現ニ青年學校以外ノ施設ニ於テ教育ヲ受クル生徒

ニ對シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ教授及訓練科目中其ノ一部ヲ課セザルコトヲ得

第八條 教授及訓練科目中生徒其ノ身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハザル科目ハ之ヲ其ノ生徒

ニ課セザルコトヲ得

第九條 青年學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ慮アル生徒又ハ性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨

アリト認ムル生徒ノ青年學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第十條 青年學校ノ教科用圖書ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就 學

第十一條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科修了者トス

研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者トス

前二項ノ規定ニ依リ入學シ得ル者ノ外特ニ青年學校ニ入學スルコトヲ得ル者ニ關シテハ文部大

臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 年齡滿十四歳ヲ超エ滿十九歳(滿十九歳ニ達シタル日ニ於テ仍青年學校本科ノ學年ノ

中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終)ニ至ル迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外

其ノ保護者ニ於テ之ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムヘキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者

二 現ニ高等學校尋常科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者

三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者

五 現ニ實業學校ニ在學スル者、國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年

以上ノ實業學校ヲ卒業若ハ同第四學年ヲ修了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入

學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者

七 特ニ文部大臣ノ指定スル者

第十三條 前條ノ保護者トハ就學セシメラルベキ者(義務就學者ト稱ス以下同ジ)ニ對シ親權ヲ

行フ者(親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者)ヲ謂フ

前條ノ義務課程トハ本科ノ各學年ニ於テ義務就學者ガ第四條ニ規定スル各最低時數ヲ以テ履修

スベキ課程ヲ謂フ

第十四條 義務就學者ノ瘋癲白痴又ハ不具癱疾其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ之ヲ就學セシムル

コト能ハスト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ第十二條ニ規定スル保護者ノ

義務ヲ免除スルコトヲ得

義務就學者ノ病弱其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ就學時期ニ於テ之ヲ就學セシムルコト能ハズ

ト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

第十五條 義務就學者青年學校以外ノ施設ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムルトキハ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ其ノ期間青年學校ニ就學スルモノト看做ス

前項ノ課程ノ認定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 第七條及第八條ノ場合ニ於テハ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務課程ヲ履修セシムヘキ義務ハ各其ノ限度ニ於テ免除セラレタルモノトス

第十七條 義務就學者ヲ使用スル者ハ其ノ使用ニ依リテ義務就學者ノ義務課程ノ履修ヲ妨グルコトヲ得ズ

第四章 教 員

第十八條 青年學校ノ教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十九條 青年學校ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第五章 設 置

第二十條 北海道府縣、市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

北海道府縣ノ設置スル青年學校ハ之ヲ道府縣立青年學校トシ市町村、市町村學校組合ノ設置スル青年學校ハ之ヲ市町村立青年學校トス

第二十一條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體、法人ニ非ザル社團ニシテ代表者ノ定アルモノ及私人ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ規定スル者ノ設置スル青年學校ハ之ヲ私立青年學校トス

第二十二條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

青年學校ノ設置廢止ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十三條 青年學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十四條 市町村ハ其ノ區域内ノ義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナル青年學校ヲ設置スベシ但シ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ依リ設置スルヲ妨ゲズ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ノ市町村内ニ於ケル校數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 地方長官ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ者ノ數一青年學校ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一青年學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ青年學校ノ設置ニ代ヘ其ノ町村ヲシテ義務就學者ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

地方長官ハ市町村、町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノカ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ青年學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得